

A graphic of a wooden sign made of several vertical wooden planks of varying shades of brown and tan. The planks are arranged in a slightly staggered, overlapping fashion. Four silver-colored circular fasteners with a star-like design are visible, two on the left and two on the right, securing the planks. The word "SAMBAR" is printed in a bold, blue, sans-serif font across the middle of the sign. Below it, the word "SUBARU" is printed in a similar bold, blue, sans-serif font.

SAMBAR

SUBARU

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずお読みください。

このたびはスバル車をお買いあげいただき
ありがとうございます。

この取扱説明書は、お車や装備品の取り扱い、

守っていただかなければならないこと、



万一のときの処置などについて説明しています。


また、道路運送車両法で使用者に点検・整備の義務が規定されており、

使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。

ご使用になる前に必ずお読みください。

「必読！安全で快適な運転のポイント」や△警告△注意[アドバイス]マークの
ところは重要ですのでしっかりお読みください。

 警告	安全のため守っていただかなければならないこと 〔 取り扱いを誤った場合、死亡、または重大な傷害を負う可能性が あります。 〕
 注意	安全のため、および、お車のため守っていただかなければならないこと 〔 取り扱いを誤った場合、傷害を負う可能性があります。また、 車両が損傷する可能性があります。 〕
アドバイス	知っておいていただきたいこと 知っておくと便利なこと

- ・グレード等により異なる装備については  マークがついています。
- ・スバルの販売店で取り付けられた装備の取り扱いについては、添付される取扱説明書をご覧ください。

- ・ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。
- ・保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- ・取扱説明書は「メンテナンスノート」とともにいつもお車に携帯してください。
- ・お車をゆずられるときは、次のオーナーのために取扱説明書、メンテナンスノートを車につけておいてください。
- ・仕様の変更により、この説明書の内容とお車が一致しない場合があります。

保証書・メンテナンスノートも合わせてお読みください 6

必読！安全で快適な運転のポイント 7

ドアやリヤゲートなどの開け閉め 29

シート、シートベルト、SRSエアバッグ、ミラーなどの調節 45

スイッチの使いかた、メーターなどの見かた 75

装備品の使いかた 93

運転装置などの使いかた 145

車の手入れ 169

万一のとき 183

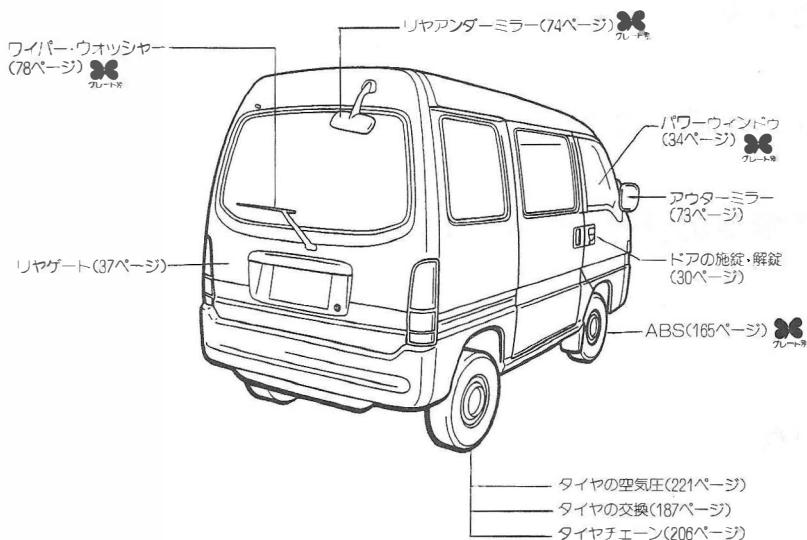
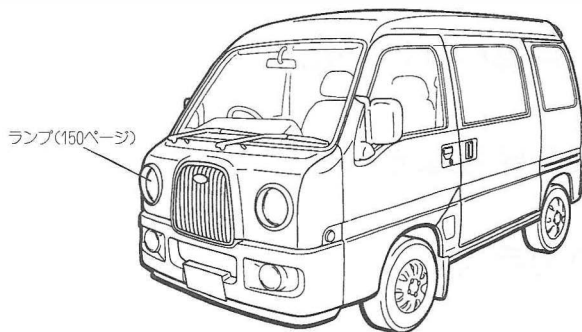
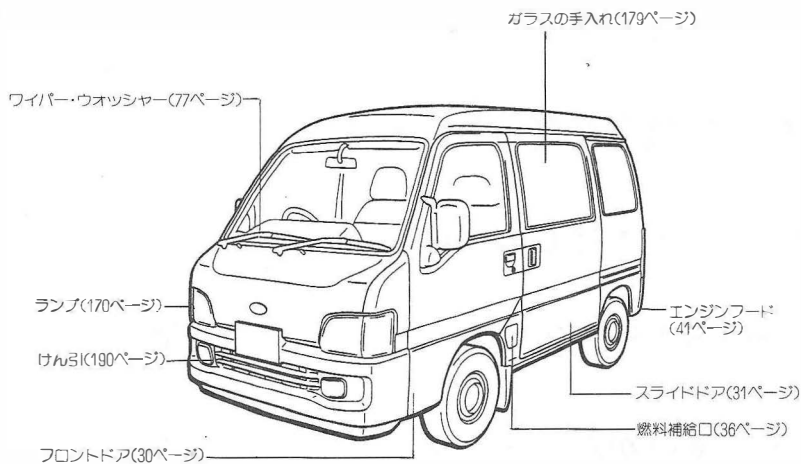
寒冷地での使いかた 201

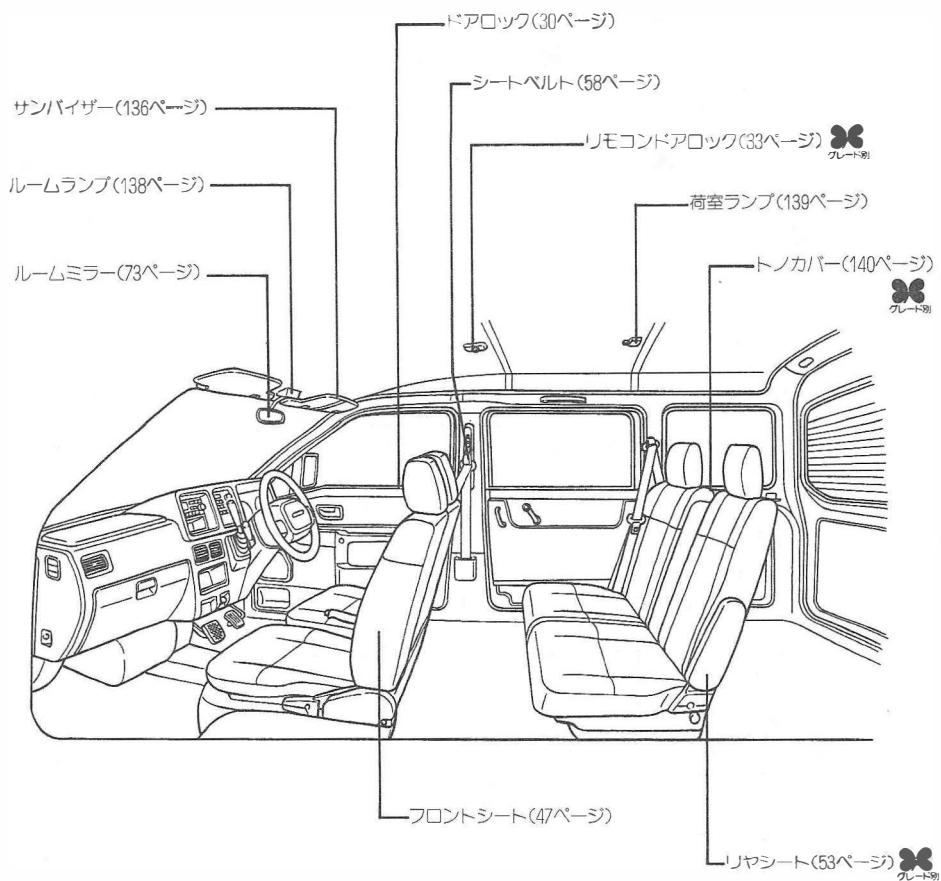
特別装備車の仕様(赤帽, JA, 郵政) 211

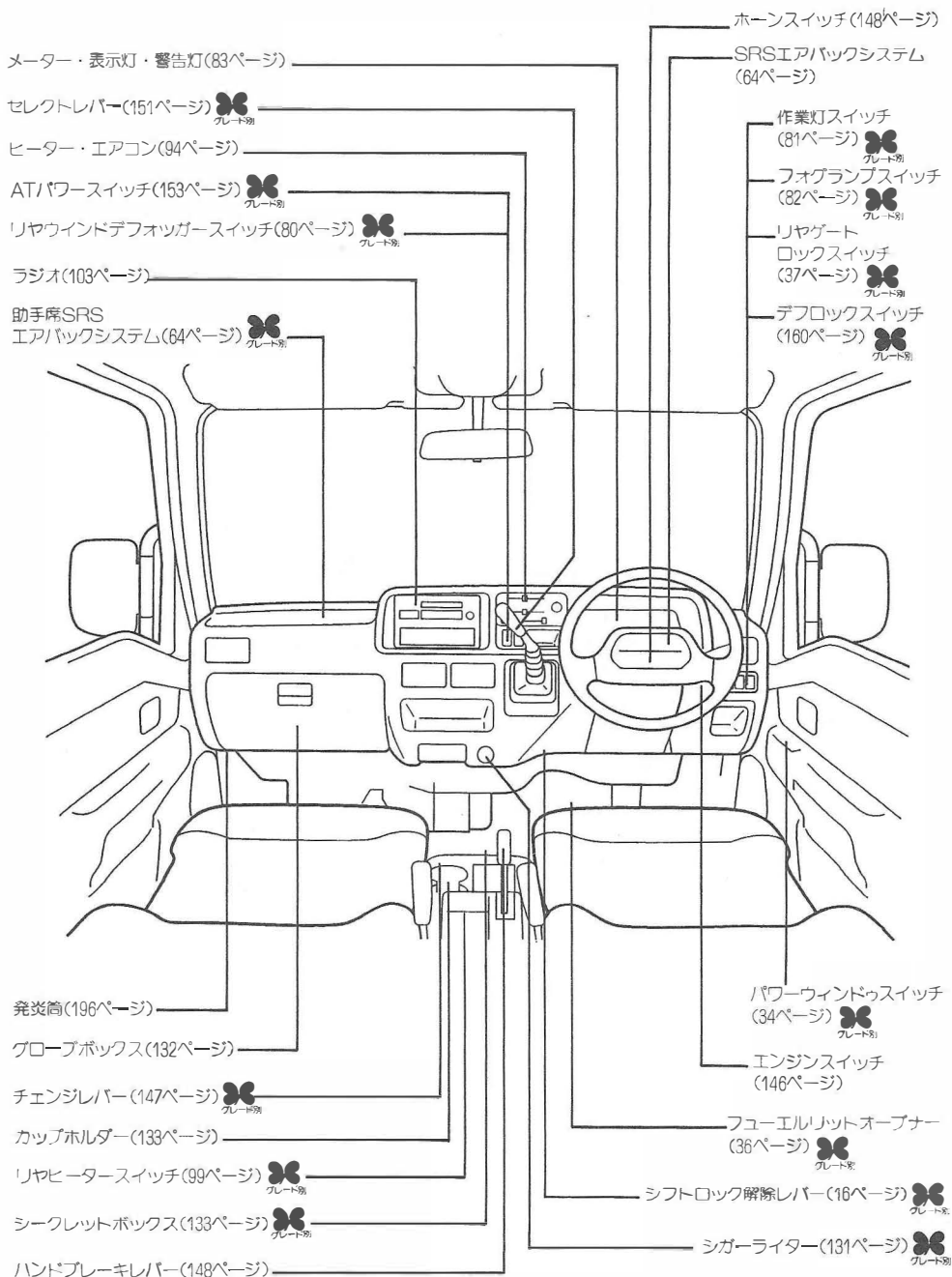
サービスデータ 218

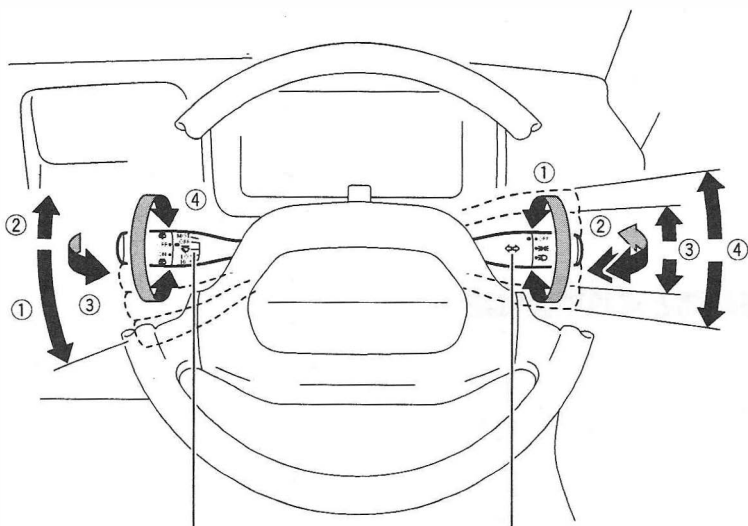
さくいん 222

イラスト目次









ワイパー・ウォッシャースイッチ (77ページ)

- ①下げる：フロントワイパー
- ②上げる：ミストスイッチ
- ③引く：フロントウォッシャー
- ④回す：リヤワイパー・ウォッシャー

ウインカー・ライティングスイッチ (76ページ)

- ①回す：ライトの点灯・消灯
- ②引く、前へ押す：ヘッドランプの切り替え
- ③上げ下げ：車線変更合図
- ④上げ下げ(大きく)：方向指示

保証書・メンテナンスノートも合わせてお読みください

別冊の「メンテナンスノート」には、保証の内容および点検・整備について記載してあります。
ご使用前に必ずお読みください。

保証について

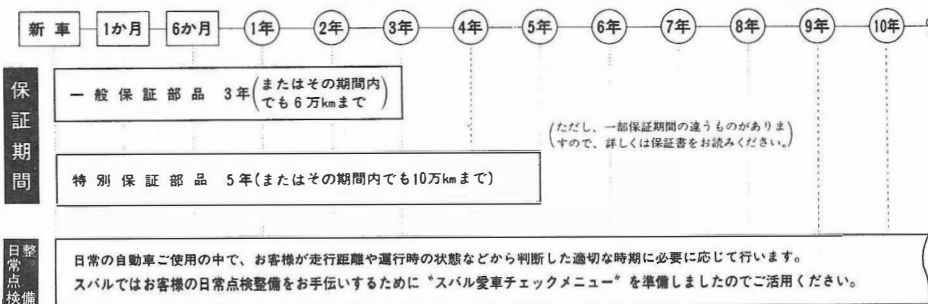
保証書には、万一故障が起きたときに無料で修理が受けられる条件や範囲が記載してあります。

一度お読みになり、条件や範囲などについてご確認ください。

点検・整備について

- ・法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
- ・メンテナンスノートには点検・整備の時期や、やり方などが記載してあります。よく読んで必ず行ってください。
- ・日常点検整備や他の点検整備を行ったときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入しておいてください。
- ・納車してから1か月後に新車時点検を無料で実施しております。

保証期間と点検整備時期



＜乗用車（ディアスワゴン）＞

1か月	6か月 (または 5,000km)	12か月	12か月	24か月 定期点検 車検	12か月	24か月 定期点検 車検	12か月	24か月 定期点検 車検	12か月	24か月 定期点検 車検	12か月
無料点検	無料点検	定期点検	定期点検	定期点検 (1か月前から 受けられます)	定期点検	定期点検 (1か月前から 受けられます)	定期点検	定期点検 (1か月前から 受けられます)	定期点検	定期点検 (1か月前から 受けられます)	定期点検

＜軽貨物車（ディアスワゴン除く）＞

1か月	12か月	24か月 定期点検 車検	12か月	24か月 定期点検 車検	12か月	24か月 定期点検 車検	12か月	24か月 定期点検 車検	12か月	24か月 定期点検 車検
無料点検	定期点検	定期点検 (1か月前から 受けられます)	定期点検	定期点検 (1か月前から 受けられます)	定期点検	定期点検 (1か月前から 受けられます)	定期点検	定期点検 (1か月前から 受けられます)	定期点検	定期点検 (1か月前から 受けられます)

お出かけ前には.....	8
お子さまをのせるときの気くばり.....	11
オートマチック車の特徴と運転上の注意.....	13
走行するときには.....	17
雪道走行するときには.....	20
駐・停車するときには.....	21
SRSエアバッグシステムについて.....	23
こんなことにも注意を.....	24



重 要

しっかりお読みいただきお守りください

日常点検整備を

日常、自動車を使用していく中で、お客様が走行距離や運行時の状態などから判断した適切な時期に必要な応じて行います。

☆別冊「メンテナンスノート」参照



シートベルトはしっかりと

事故の際のけがを最小限にするだけでなく急ブレーキ等での危険を防止します。必ず着用しましょう。

☆シートベルト（58ページ）



正しい運転姿勢に調節して

走行前にシート、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調節し、アウターミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調節します。

☆正しい運転姿勢（46ページ）



危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは炎天下で車内が高温になったとき火災の原因につながるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。



運転席の足もととはすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルの下に物がはさまってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットは車にあったものを正しく敷いてください。アクセルペダルやブレーキペダルにひっかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



荷物をつむときには

トラック
パネルバン

350kg

バン

2人乗りのとき: 350kg

4人乗りのとき: 250kg

ディアス
(ワゴン除く)

2人乗りのとき: 200kg

4人乗りのとき: 100kg

- 荷物を積む時は動かないように固定してください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し思わぬ事故につながる可能性があります。
 - エンジン室内の上にあたる荷台に発泡スチロールなどの保温材を直接置かないでください。エンジンの上になりますので走行直後や停止中に熱くなって接触面がいたむ場合があります。
- やむをえず置く場合は、トラックではエンジン室内よりできるだけ離れた荷台前方に、バンではリアシート上に置くなどして下さい。

(マット無し・塩ビマット付仕様の場合)

サンダルでの運転はやめて

サンダルや下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

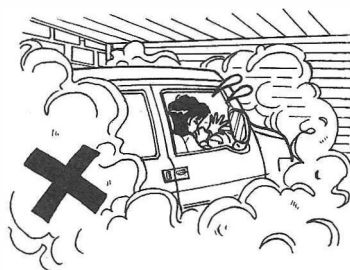
インパネの上に物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に動いて安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物がとび、思わぬ事故につながるおそれがあります。



換気につけて

車庫などの中でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不十分になり、排気ガスにより一酸化炭素中毒をおこすおそれがあります。



車の後ろに気をつけて

- 子供や障害物など、車のまわりの安全を十分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。



こんなときは、スバルの販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバルの販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音や臭いや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき

燃料には無鉛ガソリンを

有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。また、粗悪なガソリンや不適切な燃料添加剤はエンジンの各部に悪影響を与えますので使用しないでください。

お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調節し着用してください。
- 後席シートベルト付車ではお子さまは後席にのせてください。
- お子さまを抱いたままシートベルトの着用は絶対にしないでください。衝突したときお子さまを支えきれず、重大な傷害につながるおそれがあります。

6歳未満のお子さまには チャイルドシートの着用を

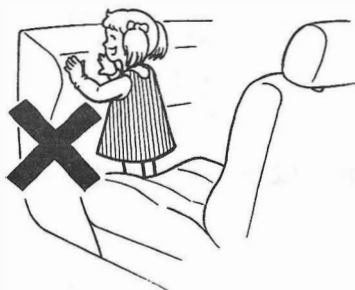
平成12年4月より、6歳未満のお子さまを対象に、チャイルドシートの着用が義務づけられました。

また、6歳以上のお子さまでもシートベルトが首や顔にあたるなど適正な着用が出来ないお子さまには、チャイルドシートをお使いください。

- 後席シートベルト付車はチャイルドシートを後席に取りつけてください。
- 助手席用SRSエアバッグ付車は助手席にチャイルドシートを絶対に取りつけないでください。

SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグ付車はお子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、インストルメントパネルに手をのせたり顔を近づけたりさせないでください。エアバッグが作動したとき衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



お子さまをのせるときの気くばり



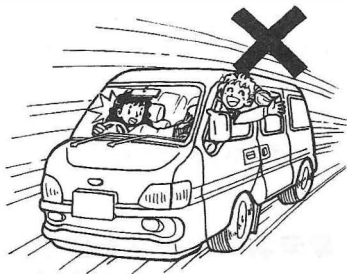
ドアの開閉に注意して

開閉、施錠は必ずおとなが行ってください。
お子さまの手や足をはさまないように注意してください。



窓から顔や手をださないで

車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。



車からはなれるときは一緒に

●駐車ブレーキ等装置のいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

●炎天下の車内は高温となり熱射病などにつながるおそれがあります。

エアコンを作動させていても途中で止まることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

とくに乳児など小さなお子さまは車内にのこさないで下さい。



パワーウィンドウに注意して

●パワーウィンドウが閉まるときには大きな力が働きます。はさまれると危険ですので、閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。

●はさまれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。

●お子さまがパワーウィンドウスイッチをいたずらする恐れがあるときにはパワーウィンドウのロックスイッチをロックしておいてください。

お子さまがウィンドウスイッチをいたずらして手や首をはさむことを防止します。



☆151ページの「オートマチック車の正しい運転のしかた」も併せてお読みください。

クリーブ現象があります

エンジンが回っているとき、セレクトレバーをP、N以外の位置にするとアクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出します。この現象をクリーブ現象といいます。

- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じてハンドブレーキを併用してください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時などは、自動的にエンジン回転数が上がり（アイドルアップ）、クリーブ現象が強くなることがありますのでブレーキペダルをしっかり踏んでください。
必要に応じてハンドブレーキを掛けてください。



強い加速を必要とするときキックダウンができます

走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。

これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用してください。

ブレーキペダルは右足で

- エンジンをかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏みまちがいは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。



セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時にはアクセルペダルを踏まないでブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。エンジン始動後セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないとPレンジから動かないようになってます。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後退した後は、すぐRから一度Nに戻す習慣をつけてください。
(誤発進防止のため)

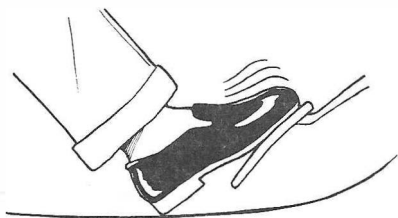
セレクトレバー位置は目で確認を

エンジンをかけるときはP、前進するとき
はD（後退はR）の位置にあることをメー
ター内のセレクトインジケータの表示で確
認してください。



アクセルペダルの踏み込みは ゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと急発進
して思わぬ事故につながるおそれがありま
す。

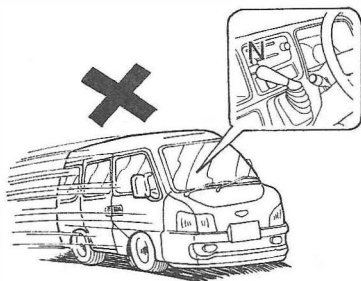


走行中セレクトレバーに手を 乗せたままにしないで

操作時以外にセレクトレバーに手を乗せて
いると、思わぬ力が入り、他のポジション
に入ってしまうおそれがあり危険です。

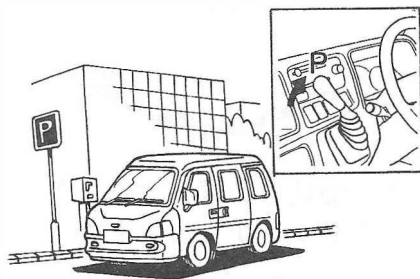
走行中はセレクトレバーをN にしないで

エンジンブレーキがまったく効かなくなり
思わぬ事故につながるおそれがあります。



駐車するときはPにして、 駐車ブレーキを掛けて

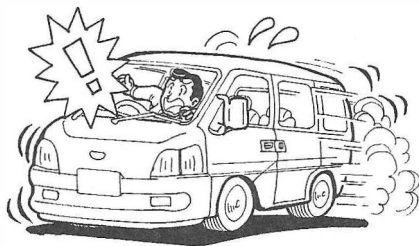
セレクトレバーがD、2、1、Rに入ってい
ると、クリープ現象で車が動きだしたり、
乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏
むと急発進して思わぬ事故につながるおそ
れがあります。ハンドブレーキも必ず掛け
てください。



☆駐車するときには（205ページ）

停車中は空吹かしをしないで

セレクトレバーがP、N以外に入っていると急発進の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



車から離れるときはエンジンを止めて

クリーブ現象で車がひとりでに動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンを切り、セレクトレバーをPにしてハンドブレーキも必ず掛けてください。



シフトロックシステムがついています

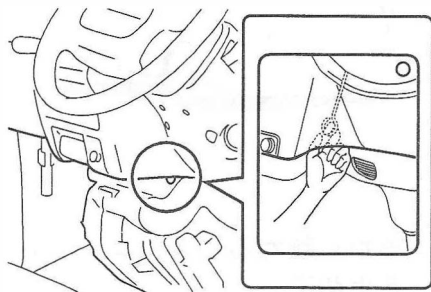
よく理解して正しい操作をしてください。

- ①Pからのレバー操作は、エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でなければできません。
- セレクトレバーを手前に引いたままブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- ②P以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。
- エンジンスイッチからキーを抜くときはセレクトレバーをPにしてください。
(P以外ではキーをACC位置からLOCK位置に回せません)
- ③Rに入れるとブザーが鳴ります。
- ブザーが鳴り、Rであることを運転者に知らせます。
- 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。

Pからレバー操作ができないとき

エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーが操作できないときは、ブレーキペダルを踏んだままシフトロック解除レバーを引きながらシフトレバー操作をします。

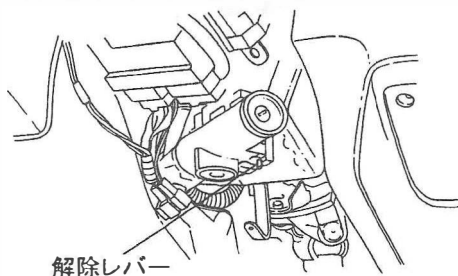
シフトロックシステムの故障が考えられますので、ただちにスバルの販売店で点検を受けてください。



キーが抜けなくなったとき

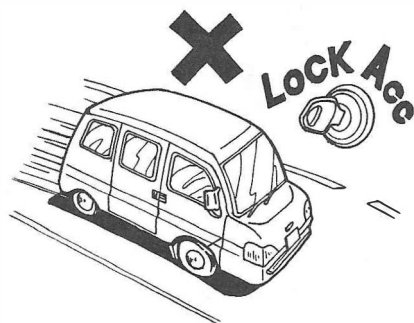
- ①セレクトレバーをPに入れます。
- ②ハンドブレーキを引き、ブレーキペダルから足を離します。
- ③ステアリングコラムロアカバーをビス5本外し、取り外します。
- ④エンジンスイッチ下側にある解除レバーを助手席側に動かして
- ⑤キーをLOCKまで回して抜いてください。

シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにスバルの販売店で点検を受けてください。



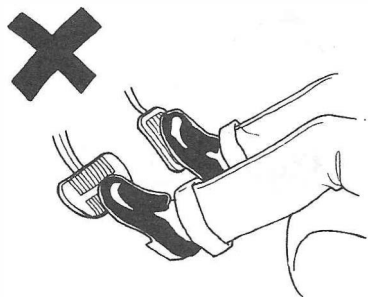
走行中はエンジンスイッチを切らないで

- エンジンを止めると倍力装置が効かなくなりブレーキの効きが悪くなったり、また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 「LOCK」位置ではキーが抜けることがあり、万一、キーが抜けるとハンドルがロックしてハンドルが切れなくなり、重大な事故につながる可能性があります。
- 触媒が過熱して焼損することがあります。



ペダルに足をのせたまま運転しない

ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま走行しないでください。ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。



洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効き確認を

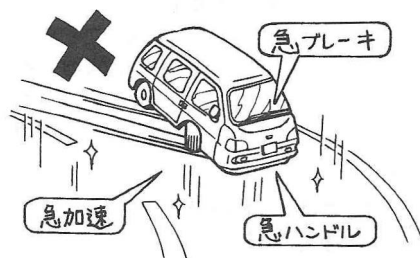
- 水たまり走行後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。
- 効きが悪い場合は前後の車に十分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んで乾かしてください。



ぬれた路面や滑りやすい路面での走行は慎重に

とくに雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転が急上昇するようなシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆20ページ(雪道走行するときには)

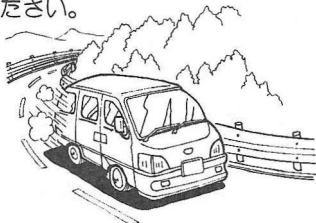


雨天の走行は速度を落とす

- 路面がぬれると滑りやすくなります。通常より注意して安全運転に心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。特に磨耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。

下り坂ではエンジンプレーキの併用を

ブレーキペダルを踏み続けると過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンプレーキを併用してください。



エンジンプレーキとは

走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、タコメーターのレッドゾーンに入らないようにしてください。

☆85ページ（タコメーター）

シフトダウンとは

マニュアル車では5→4、4→3、3→2、2→1のように低速ギヤへ変速すること。オートマチック車ではセレクトレバーをD→2、2→1にすると低速ギヤに切り替わります。

走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し、処置をしてください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行直後にチェックするときは、高温部（排気管など）に触れないでください。やけどをすることがあります。

☆88ページ（警告灯）



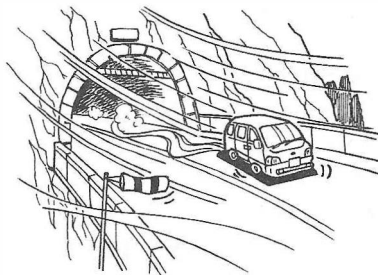
- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルをしっかり握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所にただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料・オイル・冷却水のもれ、各部に損傷がないかを確認してください。損傷や異常がある場合は、スバルの販売店に連絡してください。



横風に注意して

ハンドルをしっかり握り、安全な速度で運転しましょう。

走行速度が早すぎると、ハンドルをしっかり握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

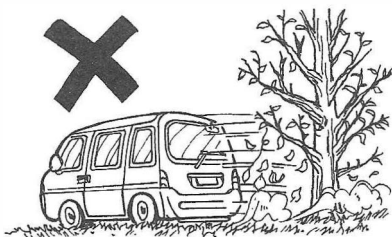


高速道路に入る前には

- 燃料は十分補給してください。高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤの空気圧を確認してください。
空気圧不足の状態でも高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。
- 万一のために停止表示板（停止表示灯）を車に備えておいてください。
停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。（別売り）

燃えやすいものの上は走らないで

排気管や排気ガスの熱により着火することがあります。



こんなことにも注意してください

- 急発進、急ブレーキは避けてください。
- スタック（立ち往生）したときなどタイヤを高速で回転させないでください。
タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車間距離は十分とってください。

適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（約1,000kmまで）はエンジン回転をなるべく抑えてご使用ください。慣らし運転後はタコメーターのレッドゾーン未満でご使用ください。
タコメーターの付いていないお車はスピードメーターに表示してある各変速ギヤ位置の上限速度を超えないよう運転してください。

〈マニュアル車〉

変速位置	速 度 範 囲
1 速	0～25km/h
2 速	10～45km/h
3 速	20～70km/h
4 速	30km/h～
5 速	40km/h～

〈オートマチック車〉

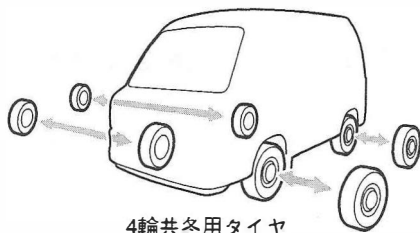
0 から最高速度まで自動的に変速します。

四輪とも冬用タイヤで

雪道走行が予想される場合、スタッドレスタイヤ(同一サイズ、同一銘柄)を用意してください。

一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく、危険です。

☆202ページ (冬用タイヤは…)



4輪共冬用タイヤ

控え目な運転に心がけて

- スタッドレスタイヤを装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは、避けてください。タイヤのグリップが失われ、車の進路をコントロールができなくなる場合があります。
- 発進時は、マニュアル車では2速ギヤの使用をお奨めします。

☆205ページ (寒冷地での使い方…走行中には)

タイヤチェーンは非常のときのみ指定チェーンを後輪に

- タイヤチェーンは後輪に取り付けてください。

☆206ページ (タイヤチェーン)

- タイヤチェーンを取り付けると、前後のバランスが変わるため、前輪がすべりやすくなります。

前輪がすべり出すと、ハンドルで車の進路をコントロールすることがむずかしくなります。

急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度(30km/h以下)で慎重に運転してください。



燃えやすいものの近くに止めないで

枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により着火することがあります。

車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30cm以上はなして止めてください。すき間が少ないと排出ガスにより変色や変形を起こしたり、着火することがあります。

坂道に駐車するときは

無人で車が動きだすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。安全のため次の処置をしてください。

①ハンドブレーキレバーをいっぱい引き、車が動き出さないことを確認します。

205ページ（寒冷地の使い方…駐車するときには）

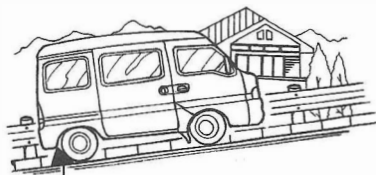
②マニュアル車の場合チェンジレバーを1かR（オートマチック車はセレクトレバーをPに入れます。）に入れます。

下り坂：R

登り坂：1

③輪止め（石やタイヤストッパー）をします。

なお、きつい急坂での駐車は避けてください。



輪止め位置（登り坂）

車の移動はエンジンをかけて

必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで坂道を利用した移動は、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

車から離れるときにはハンドブレーキをかけ、エンジンを切り、必ず施錠を

車が動き出したり、車両盗難、貴重品盗難のおそれがあります。





いきなりドアをあけないで

ドアをあけるときの、周囲の安全を確認してください。

後ろから車、オートバイ、自転車などが来ている場合があります。



仮眠するときは必ずエンジンを切って

仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



エンジンルームファンがついています
(スーパーチャージャー車)

エンジンルームの温度が高い状態では、エンジンも停止しても作動し続けます。

エンジンルームが冷えると停止します。

また、エンジン停止後でもエンジンルーム内の温度が上昇した場合は、ファンが自動的に回ることがあります。日常点検整備等でエンジンルーム内の点検をおこなう時は自動的に回るエンジンルームファンに十分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。

運転席、助手席SRSエアバッグシステムは、頭部への衝撃をやわらげるシートベルトの補助装置です。この装置はエンジンスイッチが「ON」のとき車両が前方から強い衝撃を受けた場合に作動します。

☆**SRSエアバッグシステムの詳細説明は64ページ以降をお読みください。**

シートベルトは必ず装着して

- SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。SRSエアバッグシステムはシートベルトを装着している時だけ効果を十分発揮します。

お守りいただかないと命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

※バンにはリヤシートベルトは付いておりません。

お子さまを乗せる場合は

- 後席シートベルト付車ではお子さまは後席にのせてください。
- 6才未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。6才以上のお子さまでもシートベルトが首や顔にあたるなど適正な着用ができないお子さまはスバル純正チャイルドシートを使用してください。

スバル純正チャイルドシートの使用方法是添付の専用取扱説明書をご覧ください。

- 後席シートベルト付車はチャイルドシートを後席に取り付けてください。

- 助手席用SRSエアバッグ付車は助手席にチャイルドシートを絶対に取りつけないでください。

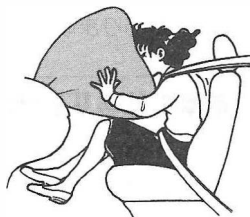
SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

- ☆**詳細説明は11ページと67ページをお読みください。**

〈運転席SRSエアバッグ〉



〈助手席SRSエアバッグ〉



ラジエーターが熱いときはキャップをはずさないで

ラジエーターやリザーブタンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。



3746

ロープフックを使用するときは

トラック、パネルバンでエンジンフード付近のフックにロープを掛けるとき、フック以外は触れないようにしてください。長時間運転後はエンジンフード回りが高温となり、やけどをする恐れがあります。

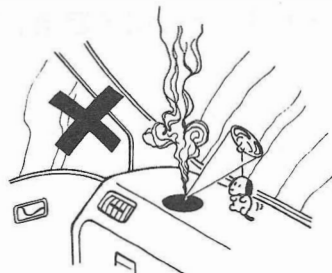
4WD車は万能車ではありません

2WD車に比べ滑りやすい路面、積雪路などではより安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。

☆159ページ（4WDの運転）

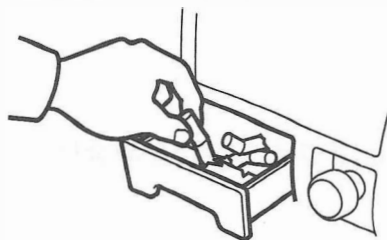
アクセサリーの取り付けに注意

ウィンドウにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席SRSエアバッグが作動したときアクセサリーがとんでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。



灰皿を使用したあとは

マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。また、可燃物や多量の吸ガラを入れておかないでください。火災になるおそれがあります。



車内にガスマイターを放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にライターを放置しないでください。車室内が高温になるためライターが爆発するおそれがあります。



排気管をときどき点検して

- 排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷、また、排気管の異常などに気づいた場合は、必ずスバルの販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- リヤゲートが閉まっていることを確認してください。開けたまま走行すると排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



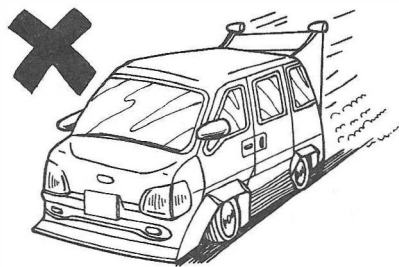
走行中は携帯電話を使わないで

運転者は走行中に携帯電話や自動車電話を使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。



違法改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながる可能性があります。
- 保安基準に適合した部品以外のものを取り付けると違法改造になることがあります。スバルの販売店にご相談ください。(タイヤ、ホイール、マフラーなど)



電装品 無線機をつけるときには

取り付け、取り扱いを誤ったり、スバル純正以外の部品を使用すると、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

スバルの販売店にご相談ください。



純正部品をお奨めします



GENUINE PARTS
SUBARU®

0045

オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。

純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合があります。

点検整備をするときは

スバルの販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ねそなえております。

お客様が安心してお車をお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。

また、日常点検整備でエンジンルーム内等の点検をおこなう時は、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回る冷却ファンに十分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。

メモ

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

ドアやリヤゲートなどの開け閉め

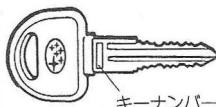
キー.....	30
ドア（開け閉めの操作方法）.....	30
赤外線リモコンドアロック.....	33
スライドドアのウィンドウ.....	34
パワーウィンドウ.....	34
燃料補給口.....	36
リヤゲート.....	37
・ディアス、ディアスワゴン、バン.....	37
・パネルバン.....	38
トラックのゲート.....	40
トラップドア.....	41
エンジンフード.....	41
・トラック、パネルバン.....	41
・ディアス、ディアスワゴン、バン.....	41

キー

〈ディース、ディースワゴン〉



〈トラック、バン〉



1525

大切なお車を車両盗難からお守りするためお客様のキー以外ではドアの解錠ができない構造になっています。

キーの紛失や閉じ込みには十分注意してください。

⚠ 注意

- キーはグリップ部を持って抜き差ししてください。キーにつけたキーホルダーなどを引張って抜くと破損や曲がりの原因になります。
- キーを差し込んだまま、キーを持ってドアの開閉はしないでください。キーばかりでなくキーシリンダーを破損することがあります。

アドバイス

キーナンバーはメモを

万一の場合に備えてキーナンバーはメモしておいてください。

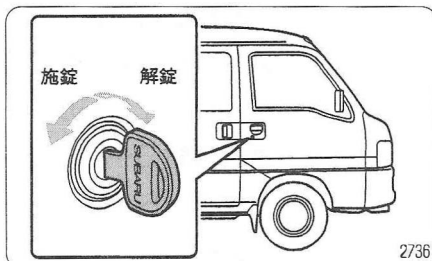
キーを注文するときにはスバルの販売店に相談してください。

キーナンバー

ドア

開け・閉めの操作方法

■車外からキーによる施錠・解錠



2736

キーを確実に差し込み、車の後側に回すと施錠され、前側に回すと解錠されます。

アドバイス

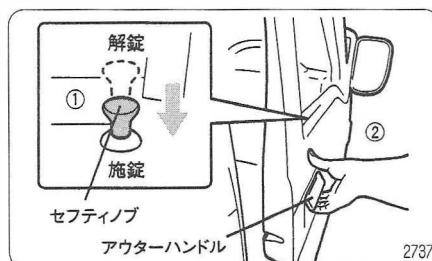
車外から施錠・解錠できるのはフロントドアとリヤゲートです。スライドドアはセフティノブで施錠・解錠してください。

■集中ドアロック

運転席ドアを施錠・解錠すると全てのドアも同時に作動します。リヤゲートも同時に作動します。

■キーを使わないで車外から施錠するには

●フロントドア



2737

①セフティノブを施錠側にします。

②アウトターハンドルを引き上げたままドアを閉めます。

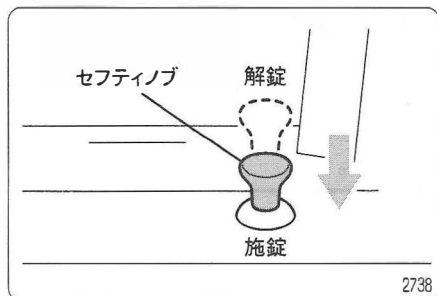
⚠ 注意

②の操作時に、アウターハンドルの手掛け部から指が離れないようにしてください。指を挟むことがあります。

●スライドドア

セフティノブを施錠状態にしてドアを閉めます。

■車内からの施錠



セフティノブを施錠側にします。

アドバイス

集中ドアロック付車では

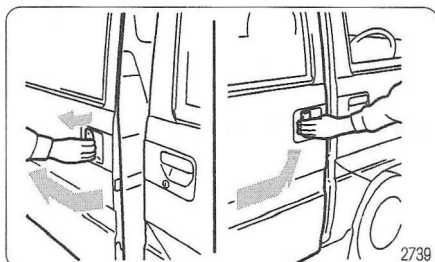
ドアが施錠されていても運転席のセフティノブを引き上げると、全てのドアが解錠されます。

■キー抜き忘れ警報

キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴りません。

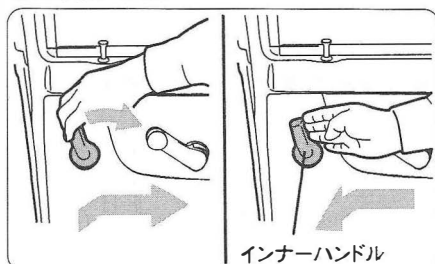
■スライドドアの開閉 (ディアス、ディアスワゴン、バン)

●車外からは



- 開けるときは、セフティノブを解錠にしてアウターハンドルを引き、後にスライドさせます。
- 閉めるときは、アウターハンドルを持ち、完全に閉まるまで前にスライドさせます。

●室内からは



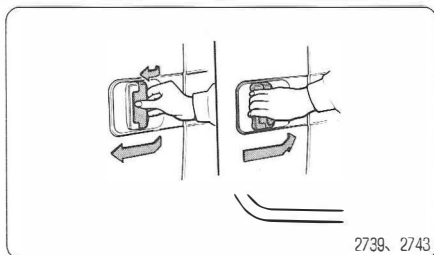
- 開けるときは、インナーハンドルを引いたまま後ろにスライドさせます。
- 閉めるときは、インナーハンドルを押して閉まるまで前にスライドさせます。

■スライドドアの開閉 (パネルバン)

●車外からの施錠、解錠

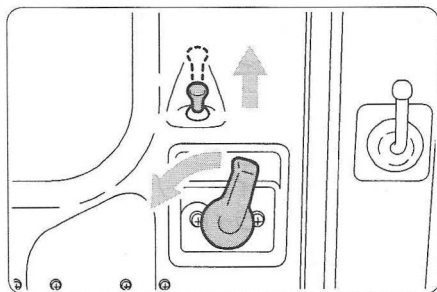
キーを確実に差し込んで車の後方に回すと解錠され、車の前方に回すと施錠されます。

●車外からの開閉



- 開けるときは、解錠してアウターハンドルを引き、後方にスライドさせます。
- 閉めるときは、アウターハンドルを持ち、完全に閉まるまで前方にスライドさせます。

●車外から施錠されているとき



荷室内にとじ込められたときなどは、荷室側のセフティノブを引き上げてインナーハンドルを車両の後方に引き、スライドさせれば開けることができます。

⚠注意

ドアを開閉するときには

- ドアを開けるときは周囲の安全を十分に確認してください。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあり危険です。

アドバイス

車から離れるときは

- ドアを施錠する前にキーを持っていることを確認してください。
- 貴重品は車内に置いたままにしないでください。

赤外線リモコンドアロック



グレート別



リモコンスイッチの発光部をルーフ中央の近くにある受光部に向けてください。発光ボタンを押すごとに施錠・解錠します。

アドバイス

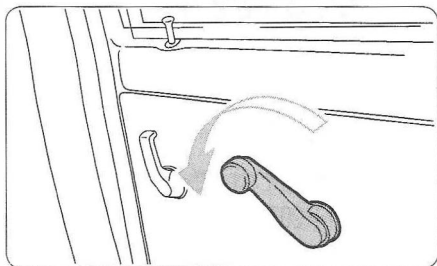
赤外線リモコンドアロックは

- リモコンは受光部が確認できる位置で車両から0.5m以内で作動しますが、直射日光などで周囲が明るい場合などの周囲の状況により変わることがあります。
車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- 車のガラスにフィルムを貼りつけたり、受光部が荷物等でかくれていたり、カーテンを取り付けたりした場合は、リモコンドアロックが動作しなくなることがありますのでご注意ください。
- リモコンキーを紛失した場合、またはスペアリモコンキーが必要な場合はスバルの販売店にご相談ください。

キーを取り扱うときは

- ダッシュボードの上など直射日光が当たり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池切れ、回路故障の原因になります。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 電池（CR-2032：市販品）交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショート（+、-）に注意してください。
- 水に濡らさないでください。水に濡れた場合はすみやかに拭き取ってください。

スライドドアのウィンドウ



レギュレーターハンドルを回すとガラスが上下します。ただし車体の構造上全開はしません。

パワーウィンドウ グレード別

パワーウィンドウはエンジンスイッチが“ON”のとき使用できます。

■運転席スイッチ



●運転席ウィンドウの操作方法

スイッチを上方に引くと閉じ、下方に押すと開きます。

- スイッチを軽く操作している間作動します。
- 「カチッ」と音がするまで操作すると、手を放しても全開または全閉まで作動します。
- 途中で止めるときは、逆方向に軽く操作します。

●助手席ウィンドウの操作方法

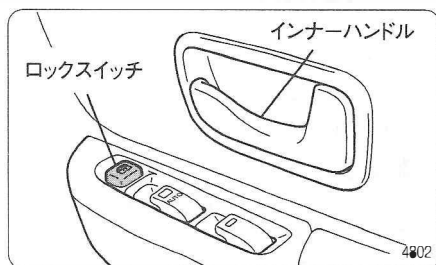
スイッチを操作している間作動します。

⚠ 警告

開閉するときには

- パワーウィンドウが開るときには大きな力が働きます。はさまれると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- はさまれると危険ですので、小さなお子様には開閉操作させないでください。
- お子さまがウィンドウスイッチをいたづらする恐れのあるときは、ロックスイッチをロックにしておいてください。お子様がウィンドウスイッチをいたづらして手や首をはさむことを防止します。

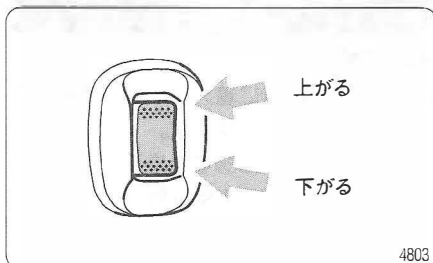
● ロックスイッチの操作方法



ロックスイッチを押すと助手席のウィンドウは開閉できなくなります。

もう一度押すとロックが解除されます。

■ 助手席スイッチ



助手席のウィンドウガラスを開閉します。スイッチ下側を押している間下降し手を放した位置で停止します。

スイッチ上側を押すと上昇します。

燃料補給口

⚠警告

燃料補給のとき

- ガソリンは非常に着火しやすいため、燃料補給時は火気厳禁です。
また、エンジンは必ず止めてください。
タバコなど一切の火気は厳禁です。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。

⚠注意

セルフ給油のときは

- 燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点でやめてください。
- 燃料は必ず指定されたものを使用してください。

☆10ページ(燃料には無鉛ガソリンを)

- フューエルキャップは車に合ったスパル純正品を使用してください。

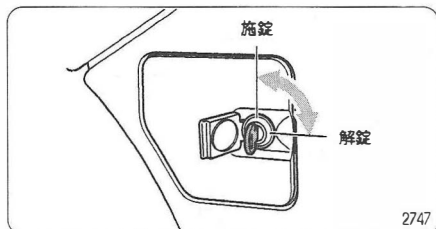
■フューエルリッド(燃料補給口)の開閉 (オープナーレバー付)



- 開けるときは、運転席左下（センターコンソール取り付け部前方右下）にあるフューエルリッドオープナーレバーを引き上げます。

- 閉めるときは、フューエルリッドがロックするまで手で押しつけてください。

■フューエルリッド(燃料補給口)の開閉 (キー開閉式)



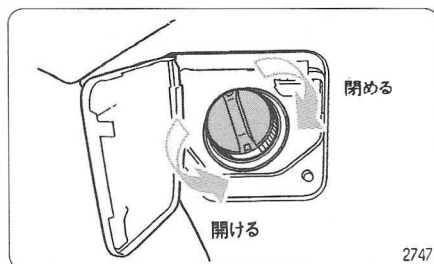
●開けるとき

- ①キーロックのキャップを手前に引いて開けます。
- ②キーを確実に差し込んで車両後方に回し、解錠します。
- ③そのまま手前に引いてフューエルリッドを開けます。

●閉めるとき

- ①フューエルリッドを確実に閉じ、キーを元に戻して施錠します。
- ②キーを抜いてキャップを確実に閉めます。

■フューエルキャップの開閉

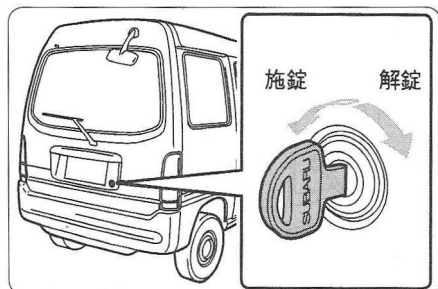


フューエルキャップを回して開閉します。
燃料補給後は、「カチッ、カチッ」と2回以上音がして、から回りするまで閉めてください。

リヤゲート

ディアス、ディアスワゴン、バン

■施錠・解錠



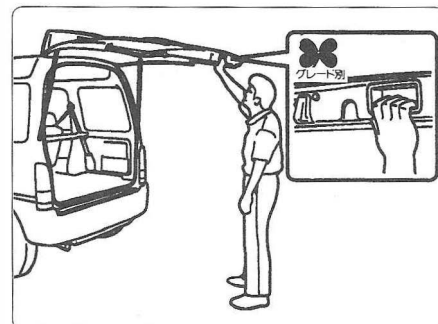
半ドアでないことを確かめます。
キーを確実に差し込んで右に回すと解錠、
左に回すと施錠されます。

■開けるとき



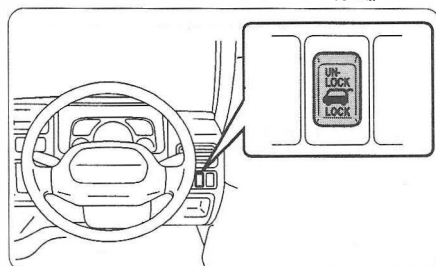
アウターハンドルを引いてリヤゲートを
ゆっくりといっぱい上まで持ち上げます。

■閉めるとき



リヤゲートをゆっくり下げ（ディアスワゴン
はインナーハンドルに手をかけてリヤゲート
をゆっくり下げ）、上から手で押さえつけ
るように閉めます。
半ドアでないことを確かめます。

■電気式リヤゲートロック



スイッチのUN LOCK側を押すと解錠、
LOCK側を押すと施錠します。

△注意

走行するときは

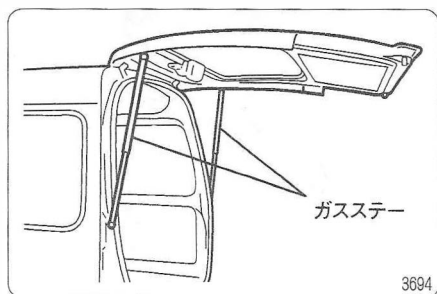
走行中はリヤゲートを完全に閉めてくださ
い。走行中に開くと荷物が落ちることがあ
ります。また、車内に排気ガスが侵入し、
一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

閉めるときは

- 荷物や手足をはさまないように注意して
ください。周囲にお子さまがいる場合に
は特に注意してください。
- リヤゲートを閉めるときはステーを持っ
て閉めないでください。故障の原因に
なったり、手をはさんだりして危険です。

パネルバン

■施錠・解錠



- 薄いビニール袋、テープ等をステーに噛み込ませない様注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。

アドバイス

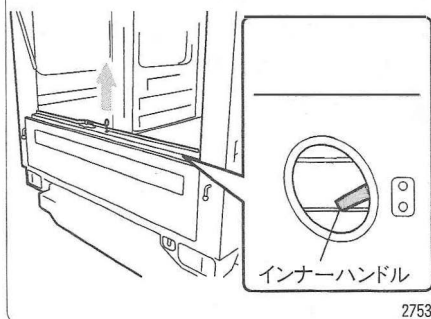
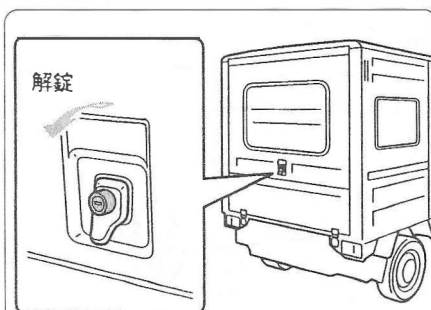
リヤゲートを開閉するとき

- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけてください。
- キーを差し込んだ状態でキーを持ち、リヤゲートを開閉しないでください。キーシリンダーが破損したり、キーが折れる場合があります。
- 荷物の積み降しのときリヤゲートに頭をぶつけないよう注意してください。

集中ドアロック付車では

リヤゲートも同時に施錠、解錠されます。

☆30ページ（集中ドアロック）



キーを確実に差し込んで左に90度回すと解錠し、もとに戻すと施錠します。

■開閉

●開けるとき

- ①上側ゲートのプッシュボタンを押し、上側ゲートをゆつくり、いっぱいまで引き上げます。
- ②下側ゲートのインナーハンドルを引き上げてロックをはずし、下側ゲートを持って静かに降します。

●閉めるとき

- ①下側ゲートを持ち上げ、押しつけて確実にロックします。
- ②上側ゲートをゆっくり下げて、上から手で押えつけるように確実に閉めます。

⚠注意

走行するときは

走行中はリヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。

開閉するときは

- エンジンをかけたまま荷物の出し入れをするときは、排気管の後方に立たないでください。足を汚すことがあります。
- 荷物や手足をはさまないように注意してください。周囲にお子さまがいる場合は特に注意してください。
- リヤゲートを閉めるときはステアを持って閉めないでください。故障の原因になったり、手をはさんだりして危険です。
- 薄いビニール袋、テープ等をステアに噛み込ませない様注意してください。ステアのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。

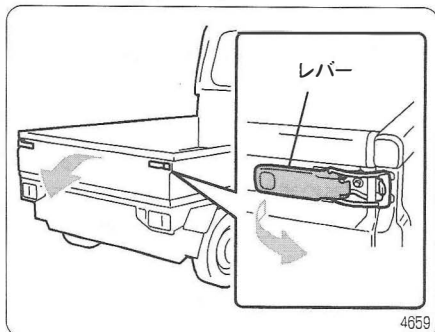
アドバイス

リヤゲートを開閉するとき

- キーを差し込んだ状態でキーを持ち、リヤゲートを開閉しないでください。キーシリンダーが破損したり、キーが折れる場合があります。また、必ずキーを抜いて開閉してください。キーを差し込んだままリヤゲートを開閉すると、キーホルダーなどで塗装面が傷つき、錆発生の原因になります。
- 荷物の積み降しのときリヤゲートに頭をぶつけないよう注意してください。

トラックのゲート

■ゲートの倒しかた

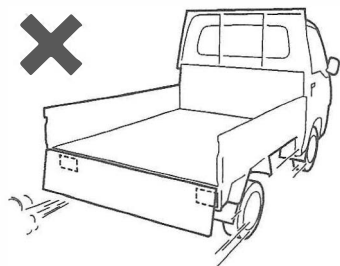


ゲートロックのレバーを引いてロックをはずし、ゲートを持って静かに倒します。

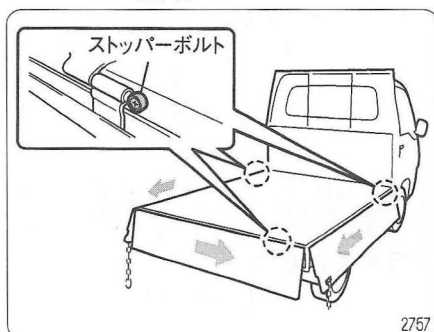
⚠注意

ゲートを倒すとき

- 開けるとき、エンジンフードに当たらないようにゲートを持って静かに倒してください。ゲートやエンジンフードを傷つけることがあります。
- ゲートを倒したまま走行しないでください。ゲートがバタついたり、尾灯、制動灯が後方から見えないので追突されることがあります。



■ゲートの脱着



●取り外すとき

- ①ストッパーボルトをはずします。
- ②ゲートを開いて水平にしっかり持ち、矢印方向にずらしてはずします。

●取り付けるとき

- ①リヤゲートは右端、サイドゲートは前から1番目のヒンジピンが他より長くなっています。これをガイドにして確実に差し込みます。
- ②ゲートを閉め、ストッパーボルトを取りつけます。

⚠注意

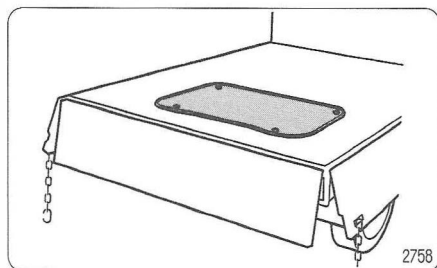
ストッパーボルトを外したまま走行すると、ゲートの脱落等思わぬ事故につながります。ゲート取付後は確実にストッパーボルトを取付けてください。

3021

トラップドア

エンジン上部の点検・整備をするときなどに開けます。

■開けるとき



4本のスクリューをはずして取り外します。ディアス、バンでは荷物室のマットをめくってください。

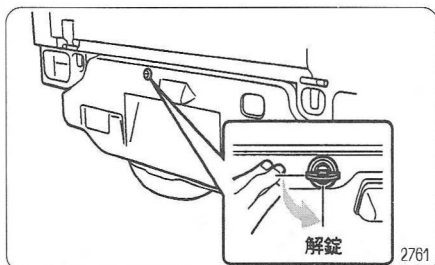
■閉めるとき

4カ所のネジ穴を合わせてから4本のスクリューを確実に締め付けます。

エンジンフード

エンジン後部の点検・整備をするときなどに開けます。

■トラック、パネルバン



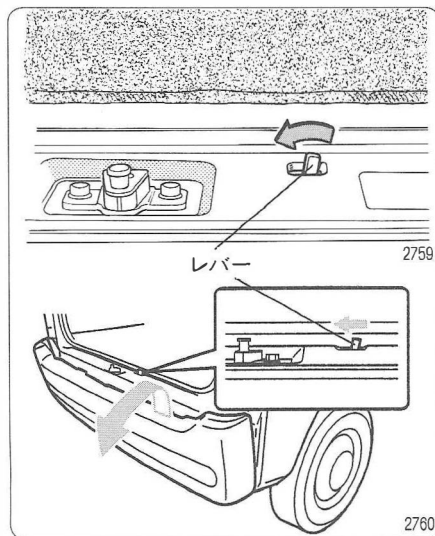
●開けるとき

キーを確実に差し込み、エンジンフードを押しながら解錠位置まで回し、エンジンフードを手前に引きます。

●閉めるとき

エンジンフードを確実に閉め、エンジンフードを押しながらキーを施錠位置まで回し、抜きます。

■ディアス、ディアスワゴン、バン



●開けるとき

- ①リヤゲートを開けます。
- ②図のレバーを左に押すと少し開きます。
- ③リヤバンパーの右側を少し（約1cm）持ち上げ、両手で持って回転させます。

●閉めるとき

リヤバンパーを両手で持って回転させ、押しつけるとロックされます。



開閉するとき

- やけどをしないように手袋をはめてください。排気管が近いので、走行直後や停車中にエンジンをかけていると、下面が熱くなっていることがあります。
- 確実にロックされていることを確認後、走行してください。

×毛

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

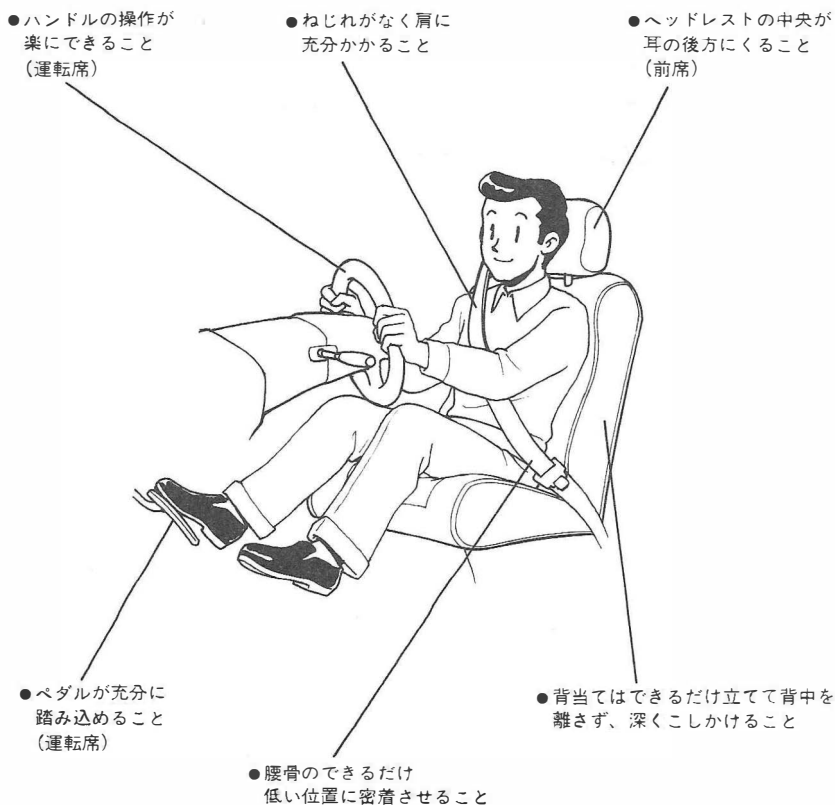
メモ

シート、シートベルト、SRSエアバッグミラーの調節

正しい運転姿勢.....	46
フロントシート.....	47
リヤシート.....	53
シートベルト.....	58
SRSエアバッグシステム.....	64
ルームミラー.....	73
アウターミラー.....	73
リヤアンダーミラー.....	74

正しい運転(乗車)姿勢

無理のない、正しい運転(乗車)姿勢がとれるようにシートを調節します。ミラーも調節します。そしてシートベルトを正しく装着します。



フロントシート

⚠ 警告

シートの調節は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- シートの調節は、運転を始める前にしてください。調節した後はシートを軽くゆすり「しっかり固定されていること」を確かめてください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が十分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席、後席も含めて背当てを必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背当てと背中との間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢が取れないため、危険です。

⚠ 注意

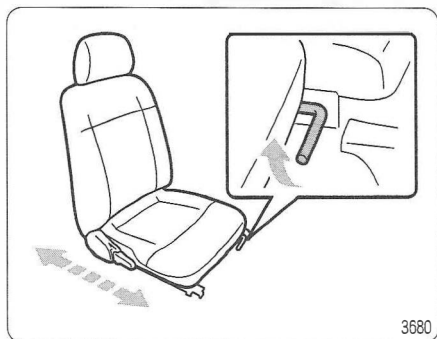
シートの調節は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手足を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。はさまれたり、荷物をこわしたりすることがあります。

アドバイス

- シートのダストカバー(シート汚れ防止用のポリエチ製カバー)は必ず取り外してから使用してください。

■前後に調節するときには

——スライド調節——



3680

レバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調節します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

⚠ 警告

- 調節は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなったり、背当てが倒れてハンドルに手が届かなくなったりして、重大な事故や傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- スライドレバーを操作する際にはフロア面とのすき間で手を挟まないように注意してください。
- トラックおよびパネルバンでは背当ての後に物を置かないでください。
- 後方にスライドする際には、後席乗員の足が挟まれないように注意してください。

- ディアス系には最前方にスライドさせるとロックしない位置があります。

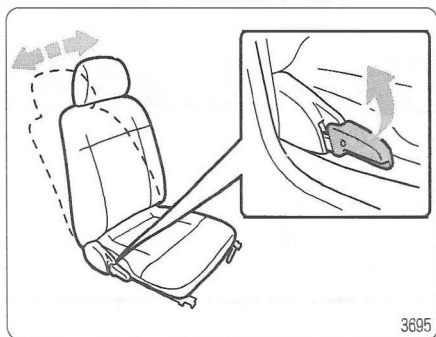
ロックしない位置はフルフラット時に使用します。ロックしない位置は走行中使用しないでください。

アドバイス

トラック、パネルバンの運転席は背当ての角度によっては背当てが車体にあたり、後方にスライドしない場合があります。その際は、一旦背当てをを起こしてください。

■背当ての角度を調節するには

——リクライニング調節——



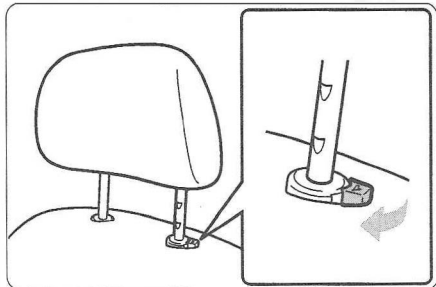
3695

レバーを完全に引き上げた状態で背当ての角度を調節します。レバーを下ろし、ロックを確認します。

⚠ 注意

- 調整する際、リクライニングヒンジカバー内へ手を入れないようにしてください。

■ヘッドレストの脱着と調整 グレード別



●取り外し

ノブを矢印方向に回し、ヘッドレストを引上げます。

●取り付け

ヘッドレストの脚と背当ての差込部を合せ、ノブを矢印方向に回し、静かに押し下げます。

●高くするとき

ヘッドレストを持ち上げ、爪のかかった位置で止めます。

●下げるとき

ノブを矢印方向に回し、ヘッドレストを押し下げ、ノブを戻し、爪のかかった位置で止めます。

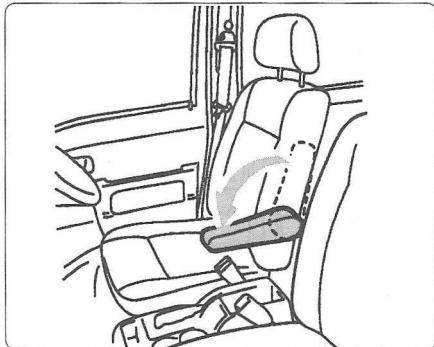


警告

運転するときには

ヘッドレストを確実に取り付けてください。はずしたり、固定できる高さを越えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調節してください。

■センターアームレスト グレード別



前に倒して使用します。

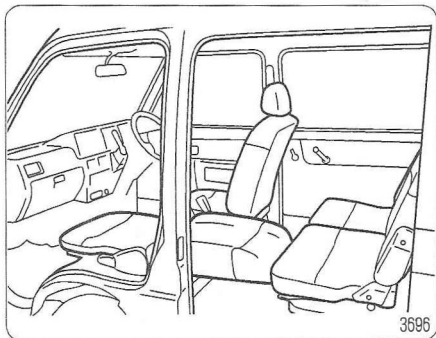
アドバイス

アームレストを使うとき

上に乗ったり、重いものをのせないでください。アームレストが破損することがあります。

☆60ページ（アームレスト使用時の3点式シートベルトの着用のしかた）

■フラットシートにするとき —



シートをフルリクライニングするとリヤシートとつながってフルフラットになります。

- ①安全な場所に駐車し、しっかりとパーキングブレーキをかけます。
- ②ヘッドレストを取りはずします。
- ③シートがロックしない最前方位置までスライドさせます。
- ④背当てをフルリクライニングしてリヤシートとつなげます。

警告

走行中はフルフラットにして使用しないでください。万一のときシートベルトの効果が得られず重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- フロントシートの背当てをもどすときは、背当てを押えながらリクライニングレバーを操作してください。背当てを押えずにレバーを操作すると背当てが急にもどり、けがをするおそれがあります。
- フルフラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。シートの中央を踏んで、ゆつくりと移動してください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足を挟むなどして、けがをするおそれがあります。
- 助手席および後席に人が乗っている状態では、フルフラットにしないでください。シートが当たるなどしてけがをするおそれがあります。

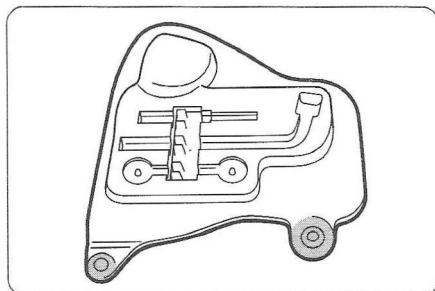
■ウインドウウォッシャー液等を点検するとき

助手席シート床下のバッテリー、ラジエター、ウォッシャー液などを点検するとき助手席のクッションを起こしておこないます。

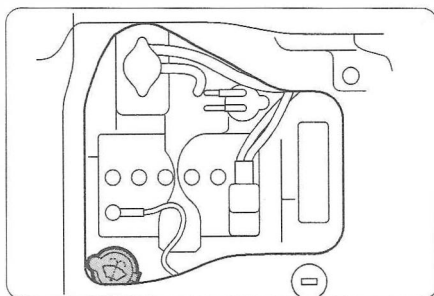
●ディアス、ディアスワゴン



- ①助手席シートを後方にスライドさせます。
- ②リクライニングレバーを上引き、背当てを前に倒します。
- ③クッション下側のロックを両方とも解除します。
- ④シート全体を後ろに倒します。



- ⑤ノブを引き上げカバーを手前に引き、カバーを取りはずします。



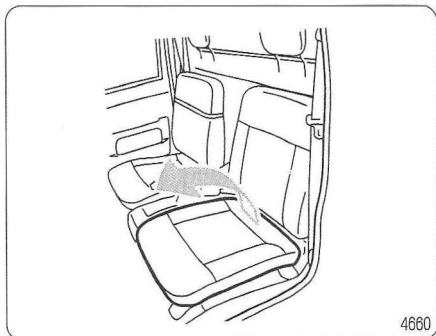
⚠注意

- ロックを解除する際は、レバーの反動に注意し、ゆっくりと操作してください。
- シートをもとに戻すときはシートに手など挟まれないよう注意してください。
- ロックをする際はレバー部をつかまず、押し込む様にゆっくりと操作してください。レバーをつかんだまま操作すると指を挟むなどして、けがをする恐れがあります。

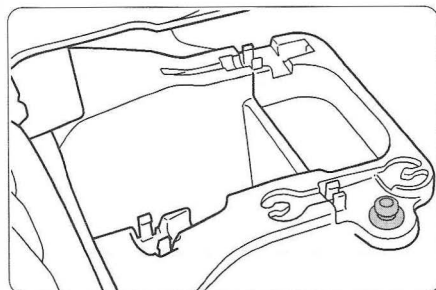
アドバイス

カバー取付けの際、マットをはさみ込まないようにしてください。

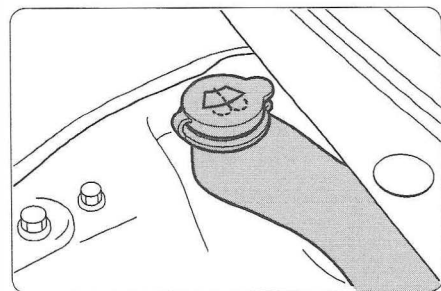
●トラック、パネルバン



①クッション後方に手をかけて起こします。



②ノブを引き上げカバーを手前に引き、カバーを取りはずします。



△注意

シートをもとに戻すときはシートに指などを挟まないよう注意してください。

アドバイス

- 跳ね上げた床面に荷物をのせないでください。シートが倒れて荷物を破損したり、落下することがあります。
- カバー取付けの際、マットをはさみ込まないようにして下さい。

リヤシート

⚠ 警告

- リヤシートを折りたたんで荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長いものをのせたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物がとびだし重大な傷害を受けることがあります。
- 背当てを元に戻したときは、背当てを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背当てが倒れたり、荷室内の物がとび出すなど思わぬ事故につながり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 背当てをトノカバーで支えることはしないでください。トノカバーが破損したり外れた場合、背当てが後ろに倒れ危険です。

■ 背当ての角度を調整するには



背当ての上にあるノブAを引き上げ、背当ての角度を調整します。左右独立して行えます。

〈ディアスワゴン〉

1段から9段目までは背当ての上にあるノブAを引き上げ、背当て角度を調整します。10段目からは背当ての上のノブAとシート内側のノブCを引き角度を調整します。左右独立して行こなえます。

⚠ 注意

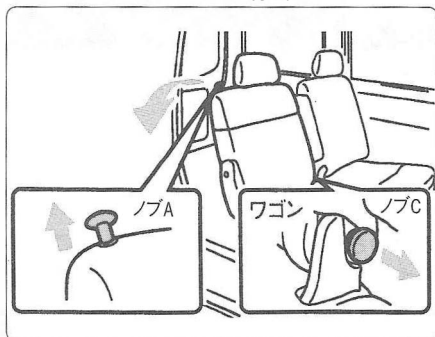
- リクライニング操作は走行中には行わないでください。
- 背当てを倒してフラットにした状態では走行しないでください。
- トノカバー装備車では、トノカバーで背当てを支えないでください。トノカバーが破損することがあります。
- リクライニング操作後は、背当て上端を前後にゆすり、シートが「確実に固定されていること」を確認してください。

アドバイス

- 前席のような背当てを戻すスプリングは付いていません。
- ノブCを引かない状態で無理に10段目以上に調整しないでください。
- ディアスワゴンは背当てを倒す場合、6段から9段目まではトノカバーのホルダーの位置を後方へ、10段目以上はトノカバーを外してください。

☆140ページ参照

■背当てを倒すとき



背当ての上にあるノブAを引き上げ、背当てを倒します。

〈ディアスワゴン〉

背当ての上にあるノブAとシート内側のノブCを引き、背当てを倒します。

アドバイス

- トノカバー装着車はトノカバーを外してください。
- ディアスワゴン以外は背当ては中間で止まりません。固定するまで倒して下さい。

■背当てを起こすとき

背当てに手をそえたまま、ノブAを引き上げ操作します。

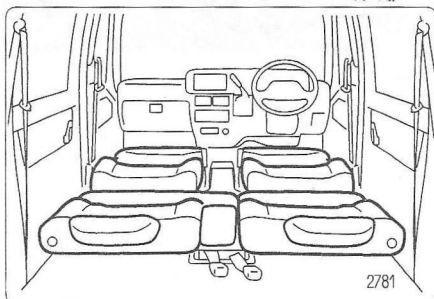
〈ディアスワゴン〉

背当てに手をそえたまま、背当ての上にあるノブAを引き、背当てを起こします。

■ピローの脱着と調整

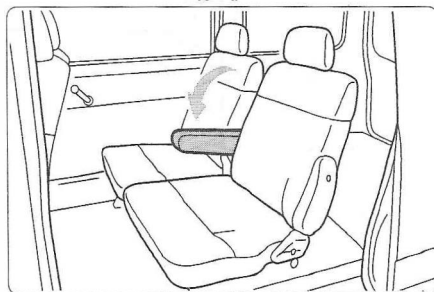
フロントシートと同様に行います。(49ページ参照)

■ソフトフラットにするとき



- ① トノカバーを外します。(トノカバー装備車)
- ② フロントシートのヘッドレストを外します。
- ③ フロントシートをロックしない一番前方までスライドさせます。
- ④ フロントシートの背当てを倒します。
- ⑤ リヤシートの背当てを倒します。

■アームレスト



前に倒して使用します。

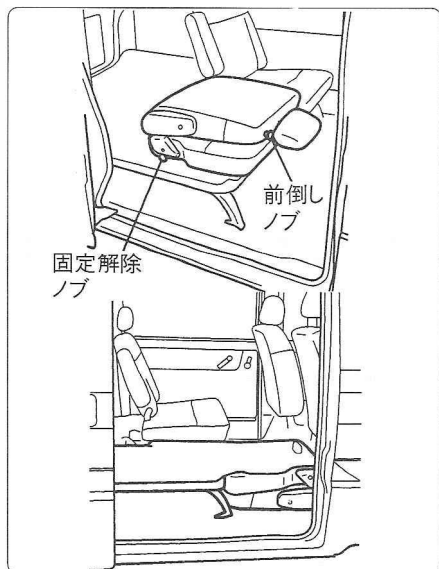
アドバイス

アームレストを使うとき

上に乗ったり、重いものをのせたり、力をかけたりしないでください。アームレストが破損することがあります。

☆61ページ (アームレスト使用時の3点式シートベルトの着用のしかた)

■デッキを使用するとき 〈ディアス、ディアスワゴン〉



- ①フロントシートを前方にスライドさせます。
- ②アームレストをもとに戻します。
- ③ピローを最下段にします。
- ④前倒しノブを引ながら背当てを前に倒します。
- ⑤シート固定解除ノブを引き、シート後方を持ち全体を前に回転させて水平にします。

アドバイス

- シート固定解除ノブを持ってシートを前に回転させないでください。ノブが破損することがあります。
- 前に回転させるとき、フロントシートの背当てと干渉しないよう注意してください。

- リヤシートベルトのバックルはデッキに設けた格納ボックスに入れてください。

☆62ページ（バックルの格納）

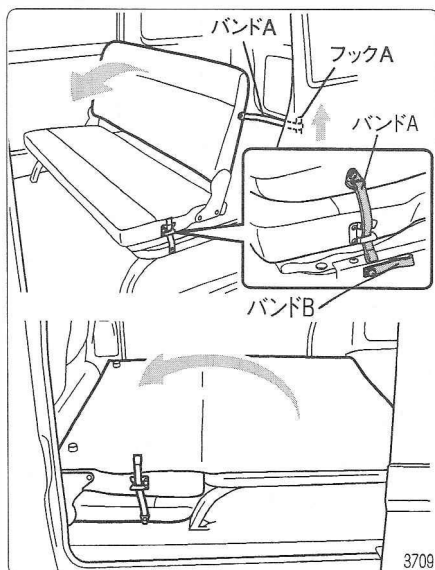
●元に戻すとき

逆の手順で元に戻します。

⚠注意

- シート固定解除ノブを持ってシートを元に戻さないでください。指をはさむなどけがをするおそれがあります。
- シートが確実に固定（ロック）していることを確認します。

〈バン〉



- ①バンドAをボディのフックからはずし、背当てを前に倒します。
- ②はずしたバンドAの中央の輪をクッション側面のフックにかけ、背当てとクッションを固定します。

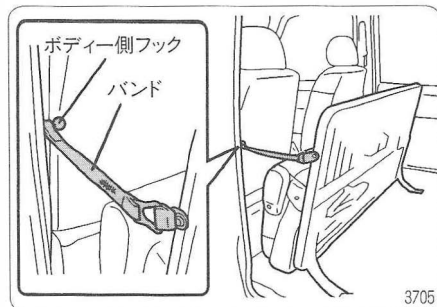
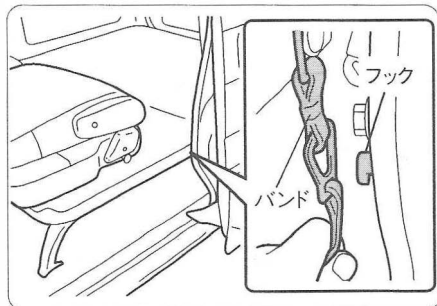
③バンドBをクッション側面のフックからはずします。

④シート全体を前に回転させ、水平にします。

アドバイス

- バンドAがはずしづらいときは、背当て上部を後ろに押しながらはずします。
- 前に回転させるとき、フロントシートの背当てと干渉しないように注意してください。

■フロアを使用するとき 〈ディアス、ディアスワゴン〉



3705

①ピローを取りはずします。

②背当ての上にあるノブを引ながら背当てを前に倒します。

③シートベルトのバックルをデッキの下に落します。

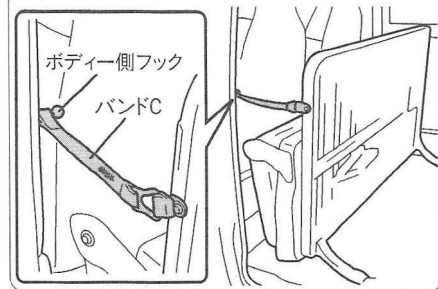
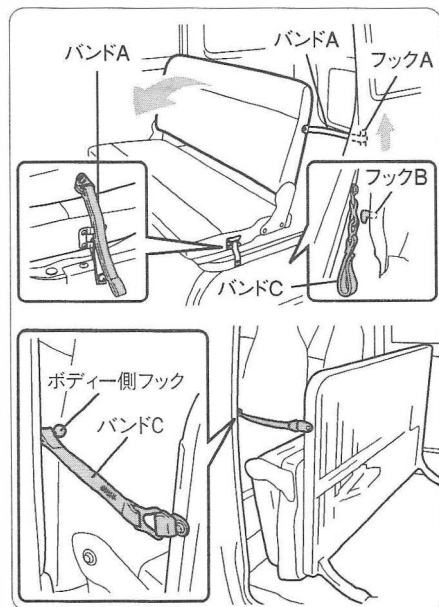
④デッキを固定しているバンドをフックからはずし、デッキ全体を前に立てます。
※ディアスワゴンは左右の固定バンドを外してください。

⑤バンドをボディのフックに確実にかけ、固定します。

△注意

危険防止のためデッキが後ろに倒れないことを必ず確認してください。

〈バン〉



-
- ①バンドAをボディのフックからはずし、
背当てを前に倒します。
 - ②はずしたバンドAの中央の輪をクッション
側面のフックにかけ、背当てとクッ
ションを固定します。
(バンドBはクッションのフックに固定
したまま次の操作をします)
 - ③デッキを固定しているバンドCをボディ
のフックからはずし、デッキ全体を起こ
します。
 - ④バンドCをボディのフックにかけ、固定
します。

●元に戻すとき

たたむときの逆順序で元に戻します。

⚠注意

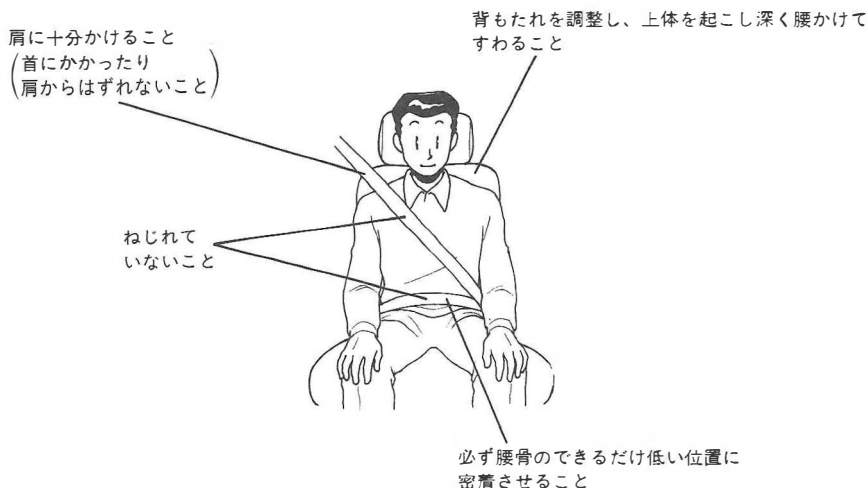
- デッキ、背当て、クッションが固定され
ていることを確認後、走行してください。
デッキが固定されていないと、デッキが
倒れることがあります。
- 各バンドは必ず所定のフックにかけてく
ださい。

アドバイス

- バンドAがはずしづらいときは、背当て
上部を後ろに押しながらはずします。
- バンドCがボディのフックにかけづら
いときはデッキを前へ押しながらフックに
挿入してください。

シートベルト

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



警告

シートベルトの装着は、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に必ずシートベルトを装着してください。
- シートベルトは全て一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて装着してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下をとおさずに確実に肩にかけてください。肩に十分かかっていないと上半身が拘束されず、十分な効果を発揮しません。
- シートベルトを洗濯ばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。十分な効果を発揮しません。
- 妊娠中のかたや疾患のあるかたは、医師に相談の上、使用してください。万一の場合、腹部などに圧迫を受けることがあります。
- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなく、外れる場合があります。

⚠ 警告

- お子さまでもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに十分支えることができずお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 6才未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。6才以上のお子さまでも3点式シートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまにはスバル純正チャイルドシートをお奨めします。
(正しい姿勢の確保)
なお、スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付されている専用の取扱説明書を参照してください。
- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバルの販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働かず、十分な効果を発揮しません。
- シートベルトの改造や取外しなどはしないでください。衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤はシートベルトをいためるため絶対に使用しないでください。

アドバイス

- 炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持って着用してください。ベルトの金具が熱くなっている場合があります。

フロントシートベルト

■3点式シートベルトの着用のしかた—

身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとするとベルトが自動的にロックします。

(ELR機構)



①ベルトを引き出します。

アドバイス

ロックされ、引き出せないとき

ベルトをゆるめてもう一度ゆつくりと引き出します。

それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆつくりと引き出します。

②ねじれがないことを確認して確実にタングプレートをバックルに差し込みます。

③正しい姿勢で腰かけ、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。

⚠ 警告

ベルトが腰骨の部分に密着するように、ベルトの長さを調節してください。たるませたり、腹部にかけると万一のときシートベルトの効果が得られず、重大な傷害につながるおそれがあります。

●はずすとき

バックルの「PRESS」ボタンを押すとタングプレートが外れ、ベルトが自動的に巻き取られます。

■シートベルト警告灯



エンジンスイッチがONのときメーター内の警告灯がつかます。運転席シートベルトのタングプレートをバックルに差し込むと消えます。

■アームレスト使用時の3点式シートベルト着用のしかた—

⚠ 警告

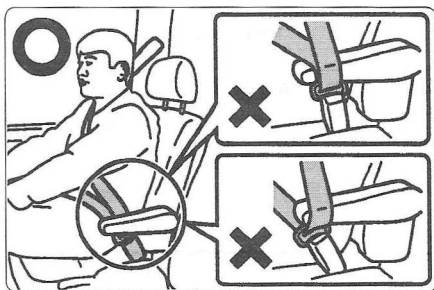
アームレストを使用するときは

シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。

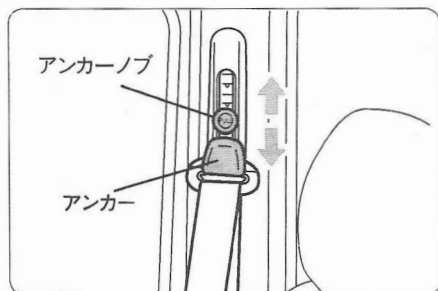
①最初にシートベルトを装着する。

②次にアームレストを下す。

アームレストの上にシートベルトが掛ると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。



■シートベルトの高さの調節 アジャスタブルシートベルトアンカー



- ①シートベルトの高さ調整を行うときはアンカーノブを引きながらアンカーを動かして最適な位置を選びます。
- ②アンカーを上下に動かして固定されていることを確認します。

⚠警告

シートベルトアンカーを調節するときは、次のことをお守りください。

守らないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- シートベルトが首にあたらないように、また、肩の中央に十分にかかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

リヤシートベルト （オプション）

※バンには後席のシートベルトは付いておりません。

フロントシートベルトと同じ3点式シートベルトが装備されています。

トノカバー装備車はシートベルトの引き回しに注意してください。

☆140ページ（トノカバーを取り付けるには）

■アームレスト使用時の3点式シートベルト着用のしかた

⚠警告

アームレストを使用するとき

シートベルトの効果を発揮させるため、次の手順を必ず守り、正しく装着してください。

①最初にシートベルトを装着する。

②次にアームレストを下す。

アームレストの上にシートベルトが掛ると、衝突時に腹部に当たり重大な傷害につながるおそれがあります。

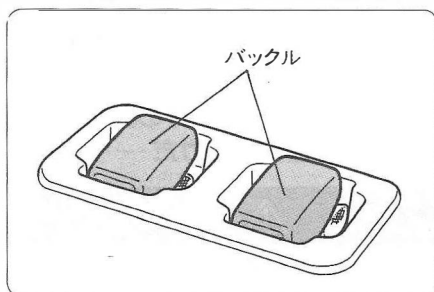


■バックルの格納

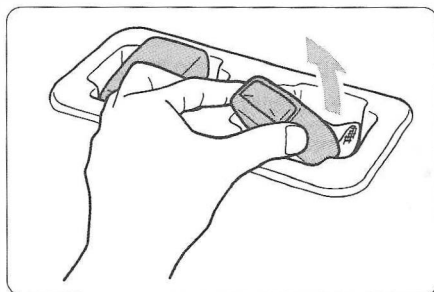
後席をデッキとして使用する場合

リヤシートベルトのバックルはデッキに設けた格納ボックスに格納してください。

格納の際、ベルト部分をデッキの下に垂らしておくとスッキリ格納できます。



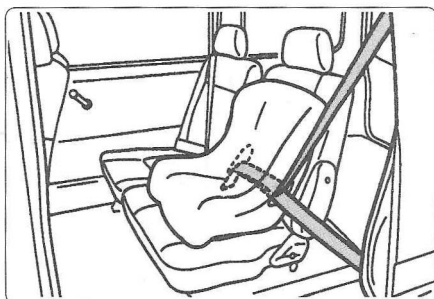
また、バックルがデッキ下に落ちてしまった場合、格納ボックス底面にある穴から左右ひとつずつ通し、デッキの上面に戻してください。



⚠ 注意

- 右席用は右側、左席用は左側の穴を必ず通してください。
- デッキの下に物を入れているときはシートベルトを傷つけないように注意してください。

■チャイルドシート固定機構付シートベルト



後席にチャイルドシート（別売）を簡単に、また、しっかりと固定できるシートベルトを装備しています。

ベルトを全部引き出してから巻き取らせ長さの間では、ベルトの巻き取りのみ可能で、ベルトを引き出そうとしてもロックされ、引き出せなくなります。

この機能を利用すると、チャイルドシート（別売）を取り付けるときに、ロックングクリップを使わずに簡単に固定できます。

● 固定のしかた

- ① チャイルドシートを取り付けます。
（チャイルドシートの取り扱い方は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。）
- ② タングを持ってベルトをゆっくり引き出し、タングをバックルに差し込みます。
- ③ 肩ベルトをゆっくりと全部引き出します。
（自動的にチャイルドシート固定機構が作動します。）
- ④ ベルトのたるみがなくなるまで肩ベルトを巻き取らせ、チャイルドシートをしっかり固定しロックさせます。
- ⑤ チャイルドシートをゆさぶり固定されていることを確認します。

●解除のしかた

- ①バックルのボタンを押してベルトを外します。
- ②ベルトを全部巻き取らせるとチャイルドシート固定機構が解除します。

警告

- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシート固定機構の無い車にチャイルドシートを取り付ける際には、ベルトがたるまない様、ロックングクリップを使用してください。

〔詳しくは、チャイルドシートについて
いる取扱説明書を参照してください。〕

アドバイス

- シートベルトを全て引き出し、巻き取らせていくときに作動音がします。
- ベルトを全部引き出してから巻き取らせた長さの間では、ベルトの巻き取りのみ可能です。特にお子さまのいたずらなどに気を付けてください。

SRSエアバッグシステム

SRS : Supplemental Restraint Systemの略で、シートベルトの補助拘束装置の意味です。運転席と助手席のSRSエアバッグはエンジンスイッチがONのとき車両が前方向から強い衝撃を受けた場合に作動します。この装置は運転者および助手席同乗者の頭部への衝撃をやわらげるシートベルトの補助装置です。

■運転席用SRSエアバッグ

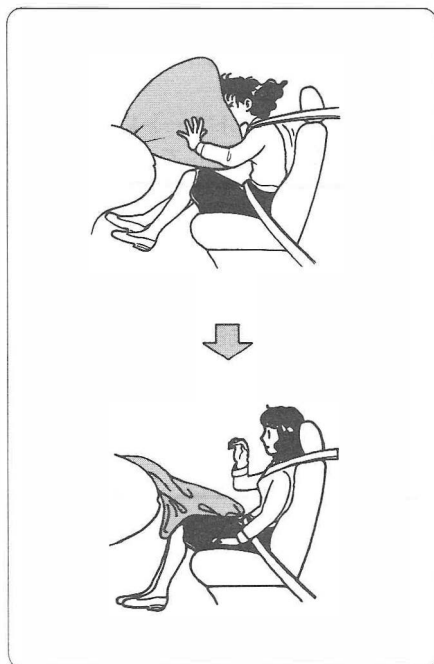
ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみます。



■助手席用SRSエアバッグ クレーツ別

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみます。

同乗者がいなくても運転席用SRSエアバッグと同時に作動します。



⚠ 警告

シートベルトを必ず正しく装着してください。

●SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。SRSエアバッグシステムはシートベルトを装着しているときだけ、効果を十分発揮します。お守りいただかないと命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆58ページ（シートベルト）

●シートを正しい位置に調整して正しい姿勢でシートに座ってください。お守りいただかないとSRSエアバッグシステムの効果を発揮させることができず命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆46ページ（正しい運転姿勢）

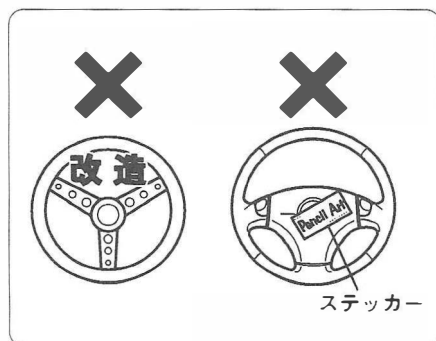
☆48ページ（シート調整）

ひぎの上に物をかかえるなど乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。

●SRSエアバッグがふくらんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

運転席SRSエアバッグに関しては次の事項をお守りください。

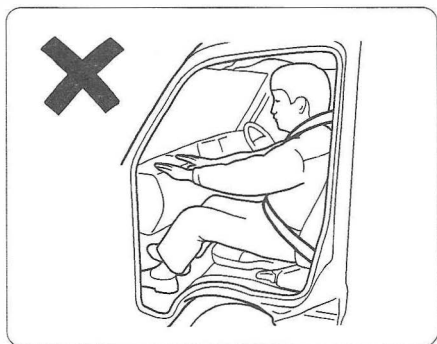
- ハンドルのSRSエアバッグ格納部に手を置いたり、パッド部を強打したり、衝撃を加えたりしないでください。また、顔や胸を近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。



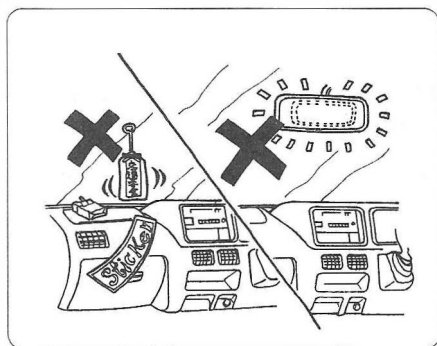
⚠ 警告

助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください。

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部にステッカー類を貼ったり、アクセサリや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けしないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物がとび、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

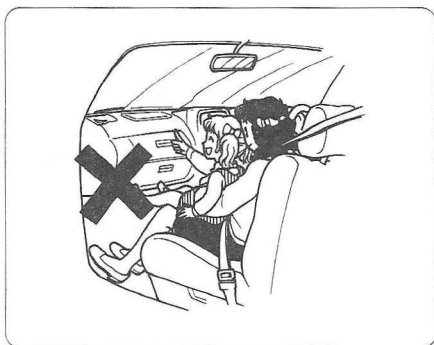
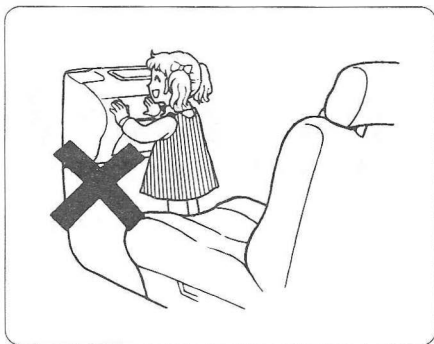


- スバル純正のテレビやナビゲーションシステム以外は取り付けしないでください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。尚、スバル純正品でも助手席SRSエアバッグ付車には取り付けられないものもありますので、必ずスバルの販売店にご相談ください。

⚠ 警告

お子さまを乗せるときには、必ず次の事項をお守りください。

- 後席シートベルト付車ではお子さまは後席にのせてください。
- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上にだいたり、背負ったりした状態では走行しないでください。



- 6才未満のお子さまはチャイルドシートをご使用ください。6才以上のお子さまでもシートベルトを正しく着用できないお子さまは、スバル純正チャイルドシート(別売)を使用してください。スバル純正チャイルドシートの使用方法是添付されている専用の取扱説明書をご覧ください。
- 後席シートベルト付車はチャイルドシートを後席に取りつけてください。
- 助手席用SRSエアバッグ付車は助手席にチャイルドシートを絶対に取りつけないでください。
SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



⚠警告

SRSエアバッグが作動すると

- SRSエアバッグが展開すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。排出穴からのガスに直接触れた場合に、火傷をすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部分に触れないでください。構成部分が大変熱くなっていますので、触れると火傷をするおそれがあります。

⚠注意

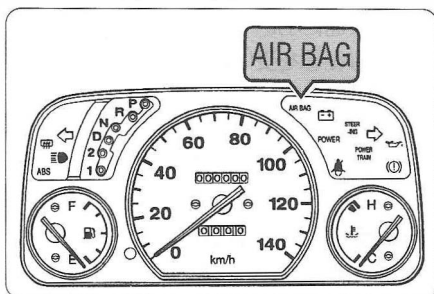
車両の整備作業やカー用品を装着するときは、次の事項をお守りください。

- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動になり思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車両前方にスバル純正品以外の部品用品は装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動になり思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル周りやインストルメント/パネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合は、必ずスバルの販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響をおよぼし、思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面の板金塗装および修理をする場合は、必ずスバルの販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに影響をおよぼし、思わぬ傷害につながります。
- 無線機などを取り付けるときはスバルの販売店にご相談ください。無線機の電波などはSRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは必ずスバルの販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動して傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRSエアバッグは効果を発揮するためには非常に速く膨らまなければいけません。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷を受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用はできません。スバルの販売店で交換してください。

■SRSエアバッグ警告灯



警告灯は、メーターに組み込まれており、運転席、助手席の兼用になっています。エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯すれば正常です。

⚠ 注意

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。ただちにスバルの販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
- 走行中に点灯したとき

■SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

正面衝突時において、シートベルトを正しく着用した乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けたとき作動します。

車体の衝撃吸収ボディ構造により、衝突時のエネルギーは車両で吸収または分散され、車両の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。

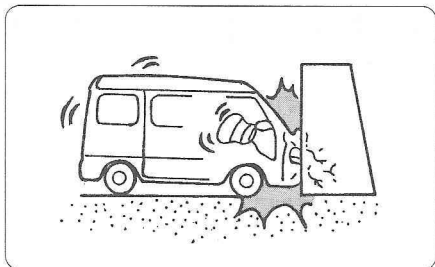
したがって、車両の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

●運転席、助手席SRSエアバッグ

〈作動するとき〉

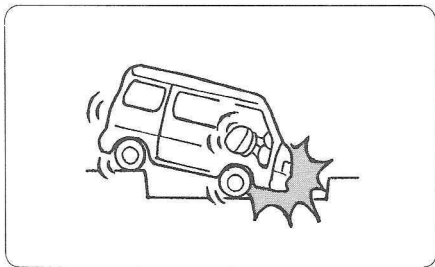
次のようなときは、作動します。

〈20～30km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき。また、これと同等の衝撃を受けたとき。〉

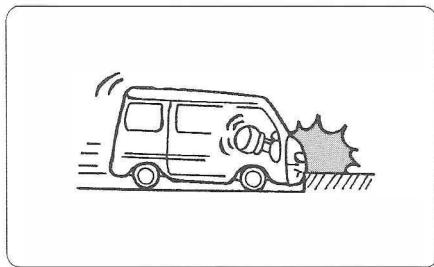


走行中路面などから車両下部に衝撃を受けたときも作動することがあります。

〈深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき〉



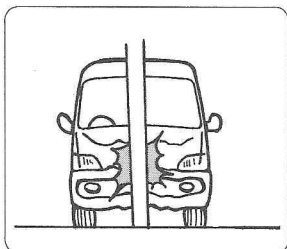
〈縁石に衝突したときや、道路上の突起物にボディ下面を強くぶつけたとき〉



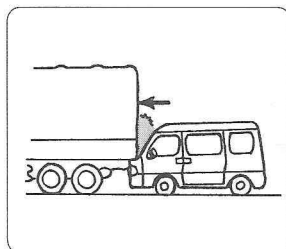
〈作動しにくいとき〉

次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき。

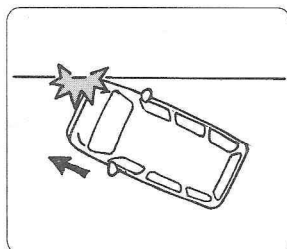
〈電柱などに衝突したとき〉



〈トラックの荷台にもぐり込んだとき〉

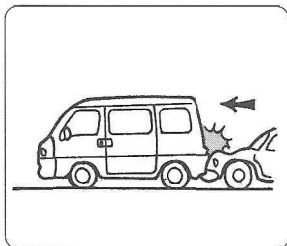


〈斜め前方への衝突のとき〉

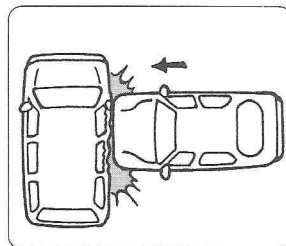


また次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもあります、本来の効果は発揮しません。

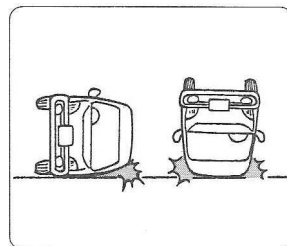
〈後ろから衝突されたとき〉



〈横方向から衝突されたとき〉



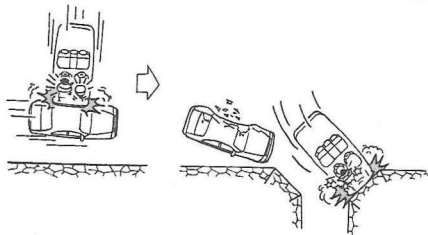
〈横転や転覆したとき〉



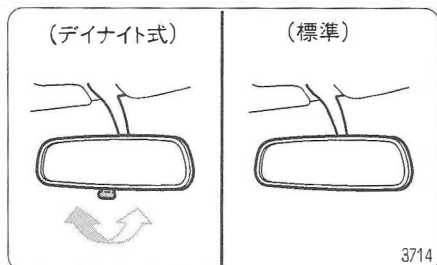
〈作動しないとき〉

次のようなときは作動しません。

〈一度SRSエアバッグが作動したあとの衝突〉



ルームミラー



運転席に正しく座り、ミラー本体を動かして後方が十分確認できるように調整します。

■デイナイトインナーミラー —

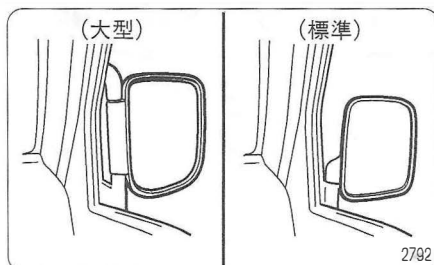
夜間走行時、後続車のヘッドライトがまぶしいときは、レバーを引きます。



注意

調節は必ず走行前に行ってください。

アウターミラー



可倒式ドアミラーが備えられています。走行する前に元に戻し、視界を確認してください。

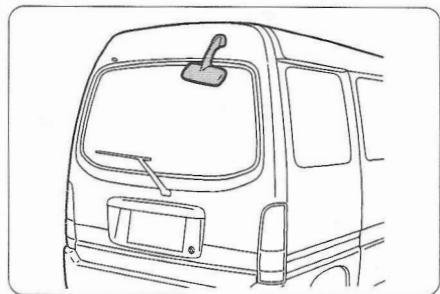


注意

調整は走行前に

- 調節は必ず走行前に行ってください。
- ミラーを倒したまま走行しないでください。

リヤアンダーミラー —



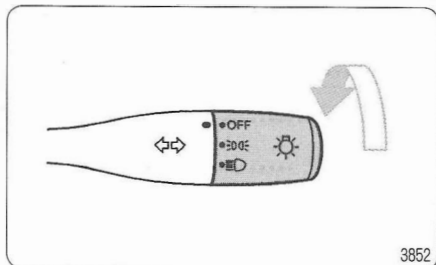
固定式のミラーが備えられています。

スイッチの使いかた、メーターなどの見かた

スイッチの使いかた	76
ライティングスイッチ	76
方向指示レバー	77
ワイパーとウォッシャースイッチ	77
リヤウインドウデフォッガースイッチ	80
ハザードランプスイッチ（非常点滅灯）	81
作業灯スイッチ	81
フォグランプスイッチ	82
メーター、表示灯、警告灯の見かた	83
メーター	85
表示灯	86
警告灯	88

スイッチの使いかた

ライティングスイッチ



スイッチを回すと、次のようにランプが点灯します。

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯、メーター照明
OFF		消灯
200c	消灯	点灯
☀		点灯

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき——

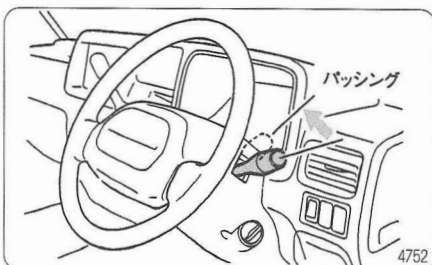


ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押すと上向きになります。元に戻すと下向きになります。

☆86ページ

(ビーム・パッシング表示灯)

■合図のしかたーパッシングー



レバーを手前に引いている間、ヘッドランプの上向きが点灯します。

ライティングスイッチがOFFでも使用できます。

⚠注意

ヘッドランプにさわらないで

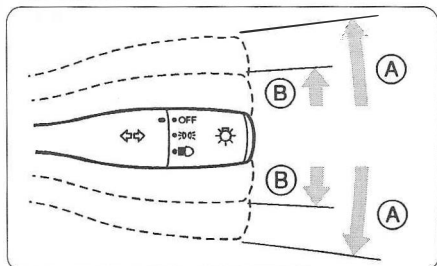
ヘッドランプを長時間点灯させるとランプが熱くなり、手で触れるとやけどをすることがあります。

アドバイス

点灯したままにしないで

- エンジン停止時、ランプ類を長時間つけたままにしないでください。
バッテリー上がりを起こします。
- 停車時、又は極低速走行時、ステアリングを操作するとヘッドランプが一瞬暗くなることがありますが異常ではありません。

方向指示レバー



エンジンスイッチがONのとき、レバーを「(A)」の位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。ハンドルを戻すと自動的にレバーは戻りますが、戻らないときは手で戻してください。

☆86ページ（方向指示器表示灯）

アドバイス

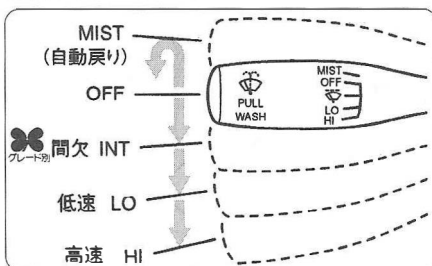
車線変更の合図をするには

レバーを変更しようとする方向に軽く押えていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。(B位置)

手をはなすと元の位置まで戻ります。

ワイパーと ウォッシャースイッチ

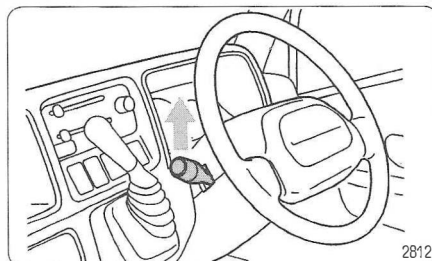
■フロントワイパー



エンジンスイッチがACCまたはONのとき使用できます。

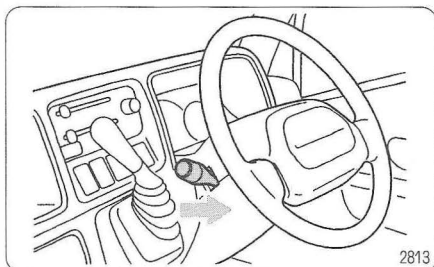
●ミストスイッチ

(ワイパーをポイント的に使いたいときには)



スイッチを上にあげている間、ワイパーが動きます。

■フロントウォッシャー



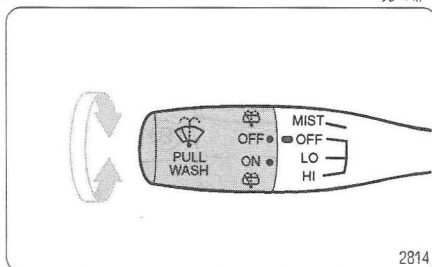
レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射します。

アドバイス

ワイパーが連動します

間欠ワイパー付車はウォッシャーを噴射するとワイパーが連動して動きます。

■リヤワイパー・ウォッシャー



エンジンスイッチがACCまたはONのとき、レバーの先端を回して使います。



ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を放すとOFFに戻ります。

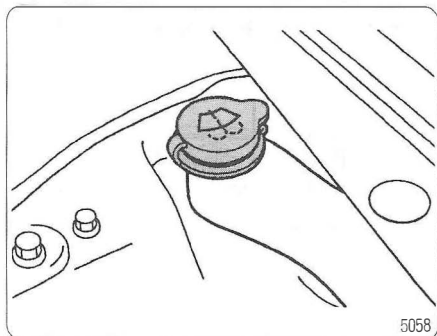
OFF 停止

ON 連続で作動



ウォッシャー液が噴射します。手を放すとONに戻ります。

■ウォッシャータンク



運転前に量を点検してください。

ウォッシャータンクは助手席シートの床下にあります。

補給するときは、助手席シートのクッションを跳ね上げ、カバー(パーソナルボックス)を取り外してください。

フロントとリヤの兼用になっています。

☆51ページ

(ウインドウォッシャー液等を点検するときは)

⚠注意

降雪時、寒冷時には

- ウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントガラスに凍りつき視界不良をおこすおそれがあります。

☆95ページ

(フロントヒーターの使いかた)

- ウォッシャー液は外気温に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

アドバイス

ワイパーを使うときには

- ガラスが乾いているときにはワイパーを使わないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルの詰まりを点検してください。
- 拭き残りができるときにはブレードのラバーを交換してください。

☆174ページ

(ブレードラバーの交換)

降雪時、寒冷時には

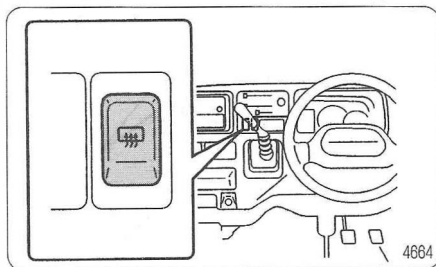
- 屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
- ワイパーがフロントガラスに張りついたときには、デフロスターでガラスを暖めてください。

☆95ページ（フロントヒーターの使いかた）

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをLOCKの位置にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

リヤウインドウ デフォグgersスイッチ

リヤガラスの曇りを取ります



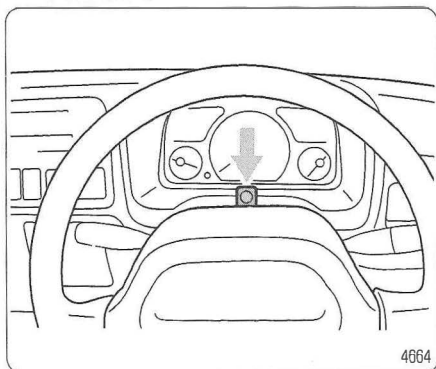
エンジンスイッチがONのとき使えます。
作動中はメーター内に作動表示灯が点灯します。

アドバイス

- 消費電力が大きいため長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃は熱線を切らないよう、水を含ませたやわらかい布で熱線にそって軽く拭いてください。
ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。

ハザードランプスイッチ

非常点滅灯



やむをえず路上駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチを押すと全ての方向指示器が点滅します。エンジンスイッチに関係なく使えます。

アドバイス

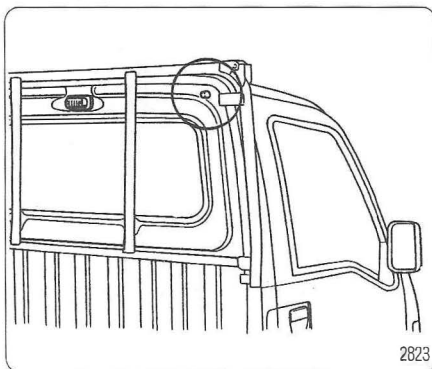
非常のとき以外は使わないでください

長時間、点滅したままにしないでください。

バッテリー上がりの原因となります。

作業灯スイッチ

トラック



夜間、荷物の積み降しをするとき利用します。エンジンスイッチがACCかONのとき、ハンドブレーキレバーを引いてからスイッチを引くと点灯します。

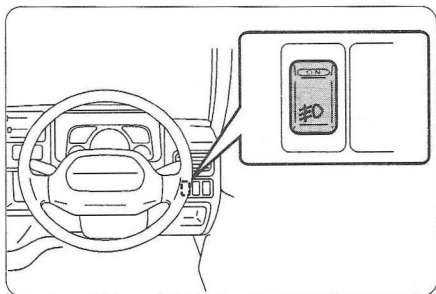
⚠ 注意

- 走行するときは、スイッチを切っておいてください。ONのままですと、交差点などでハンドブレーキレバーを引いたとき作業灯が点灯し、後続車に迷惑をかけることとなります。
- 作業灯のON-OFFは必ず作業灯のスイッチでおこなってください。ハンドブレーキレバーでくり返しON-OFFすると、ハンドブレーキスイッチの故障の原因となります。

アドバイス

上記以外の操作では点灯しません。

フォグランプスイッチ グレート別



スイッチを押すとフォグランプが点灯します。

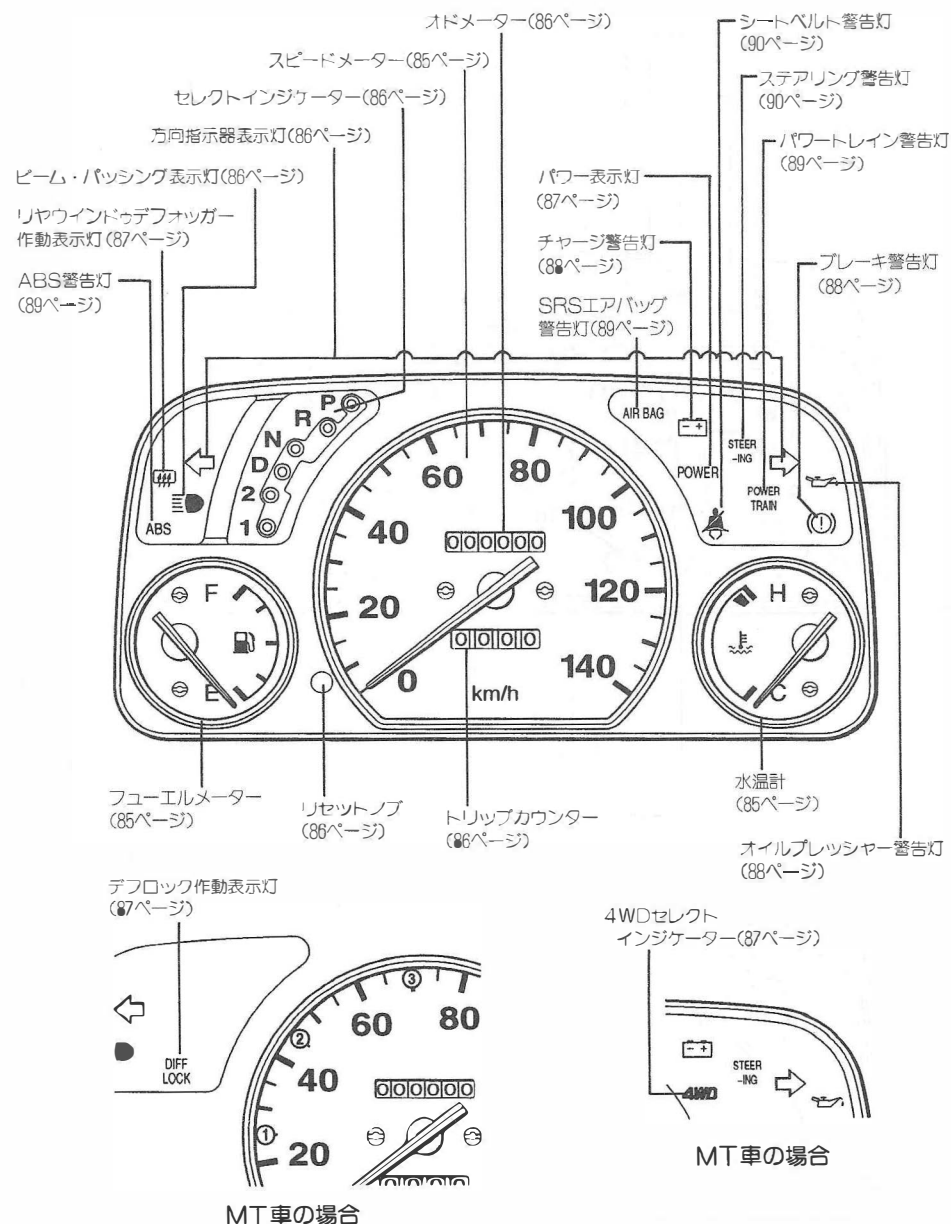
アドバイス

他のランプも点灯します。

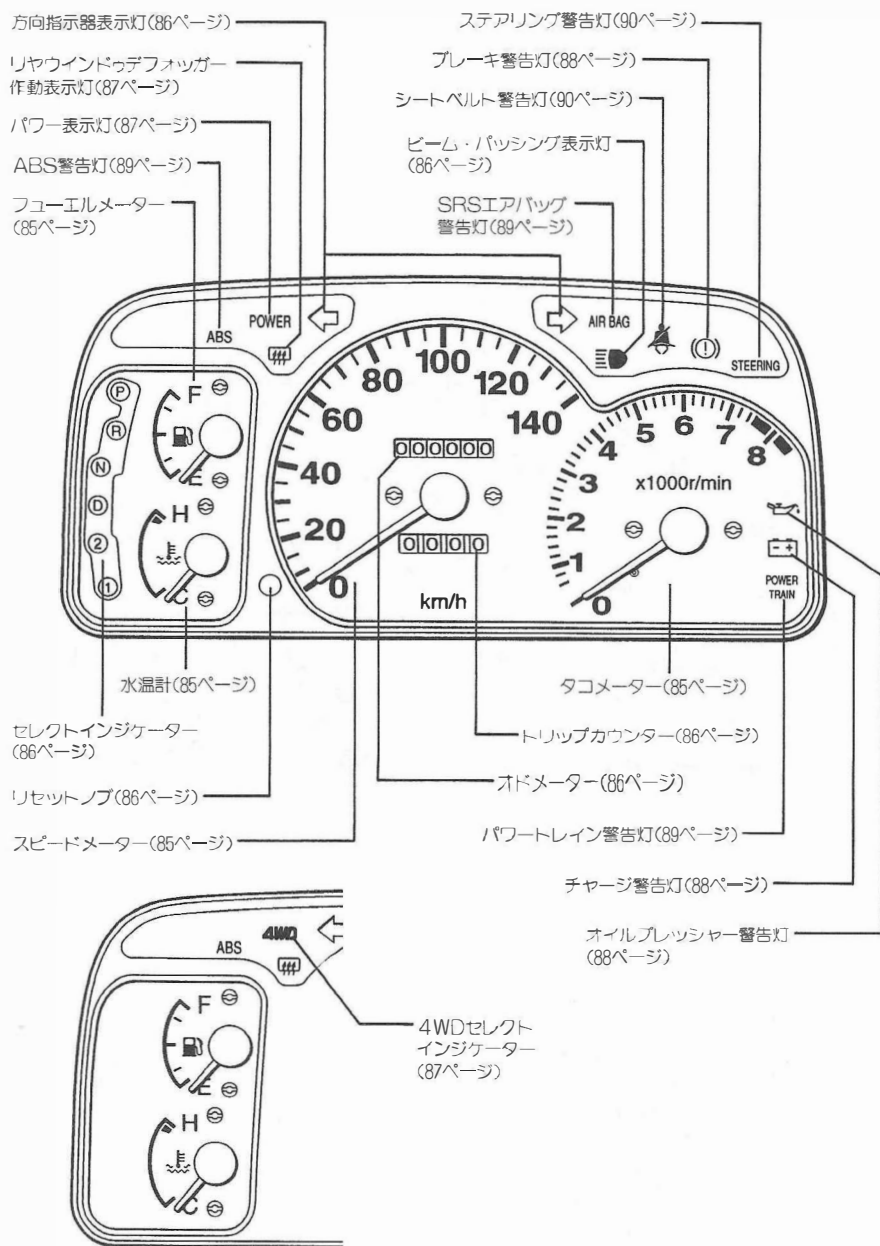
メーターの照明、ヒーターコントロールパネルの照明、車幅灯、尾灯、番号灯も同時に点灯します。

メーター、表示灯、警告灯の見かた

〈標準〉※メーター内の装備、デザインは車種、グレードなどの違いにより異なります。



〈タコメーター付〉 ※メーター内の装備、デザインは車種、グレードなどの違いにより異なります。

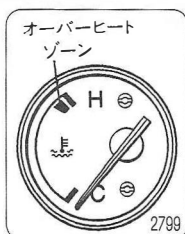


MT車の場合

メーター

■水温計

エンジンスイッチが「ON」のとき、エンジン冷却水の温度を示します。



⚠注意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。

☆194ページ

（オーバーヒートしたとき）

アドバイス

エンジンスイッチがOFFのときは、冷却水の温度に関係なく「C」を示します。

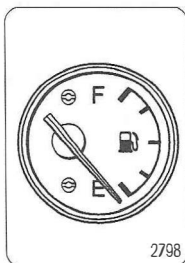
「H」：高温（HOT）

「C」：低温（COLD）

を示しています。

■フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。指針が「E」に近いと思ったら早めに給油をしてください。



アドバイス

- エンジンスイッチの位置に関係なく燃料の残量を示します。

- エンジンスイッチが切れているとき、温度変化や振動で指示が若干変わる場合があります。

- 給油後エンジンスイッチを「ON」にしてから指示が安定するまでしばらく時間がかかります。

- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。

■スピードメーター

車の走行速度を示します。

アドバイス

速度警報について

- 速度警告音は付いていません。スピードを出し過ぎないようにしてください。
- マニュアル車で、①、②、③は各シフトの上限速度を示します。エンジンの許容回転数を超えないよう各シフトの上限速度を守り運転してください。（標準メーター車のみ）

■タコメーター

（エンジン回転計）

毎分のエンジン回転数を示します。

⚠注意

レッドゾーンについて

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を越えている範囲）に入らないように運転してください。

指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが破損することがあります。

アドバイス

- エンジンスイッチを操作した瞬間、針が振れることがありますが異常ではありません。
- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にステアリングを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

表示灯

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。



2219

アドバイス

点滅の早さが異常になったとき

電球が切れたときやワット数の違った電球を使うと点滅の早さが異常になります。すみやかに点検し、異常のある電球を交換してください。

☆170ページ（電球の交換）

■オドメーター（積算距離計）

走った総距離をkmで示します。トリップカウンターの装備が無い場合は100m単位で示します。

■トリップカウンター

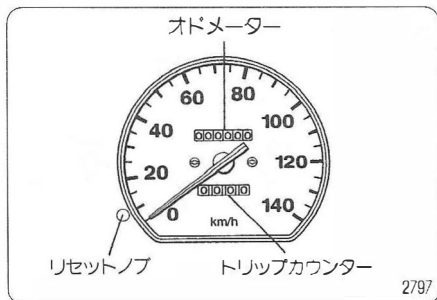
（区間距離計）



ある区間に走った距離を知りたいときに使います。右端の数字は100m単位です。

●0に戻すときは

リセットノブを押してください。



2797

■ビーム・パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きになると点灯します。パッシング時も点灯します。



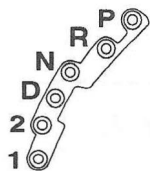
1619

■セレクトインジケーター

（オートマチック車の装備）

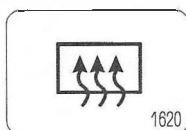
セレクトレバーの位置を示します。

☆151ページ（オートマチック車の運転）



2801

■リヤウィンドウ
デフォッガー作
動表示灯——



リヤウィンドウデフォッガーが作動しているとき点灯します。

☆80ページ

(リヤウィンドウデフォッガースイッチ)

■デフロック作動
表示灯——

エンジンスイッチが
ONのとき、デフロッ
クスイッチをONにし

てデフロック状態に切り替わると点灯しま
す。

☆160ページ (リヤデフロック)



■4WDセレクト
インジケーター
(セレクトィブ4
WD車の装備)——



4輪駆動に切り替えると点灯し、2輪駆動
に切り替えると消灯します。

☆159ページ (セレクトィブ4WD)

■パワー表示灯
(オートマチック
車の装備)

POWER

パワーモードにしたとき点灯します。

☆153ページ

(ATパワーモードスイッチ)

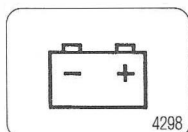
警告灯

下記の警告灯は、エンジンスイッチをONにすれば点灯し、エンジンをかけると消灯すれば正常です。

エンジン回転中に警告灯が点灯したままのときは、異常を知らせていますのでスバルの販売店にご連絡ください。

■チャージ警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。



⚠注意

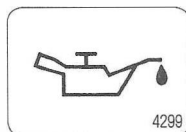
点灯したときは

エンジン回転中に点灯したときは、ベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、スバルの販売店にご連絡ください。

アドバイス

特に寒い日の始動直後や登坂時に一瞬点灯することがありますが、この場合は異常ではありません。

■オイルプレッシャー警告灯



エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常がありません。

⚠注意

点灯したときは

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてスバルの販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯について

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。

オイル量の点検はオイルレベルゲージで点検してください。

☆別冊「メンテナンスノート」参照

■ブレーキ警告灯

エンジンが回転中で次の場合に点灯します。



①ハンドブレーキレバーを引いた場合（戻すと消えます）

②ブレーキ液が不足した場合

⚠注意

ブレーキ警告灯について

エンジン回転中にハンドブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、ただちに安全な場所に停車し、スバルの販売店に連絡してください。

■ パワートレイン 警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システムまたはオートマチックトランスミッションの電子制御システム（オートマチック車）に異常があると点灯します。



⚠ 注意

点灯したときは

エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムまたはオートマチックトランスミッションの電子制御システムに異常があります。

高速走行を避け、ただちにスバルの販売店で点検を受けてください。

■ ABS 警告灯



ABS（アンチロックブレーキシステム）の電子制御システムに異常があると点灯します。

ABS警告灯は、エンジンスイッチをONにした時、約1秒間点灯し消灯するのが正常です。

☆165ページ

〔ABS（アンチロックブレーキシステム）〕

⚠ 注意

点灯したままのとき

ABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、気をつけて運転し、すみやかにスバルの販売店で点検を受けてください。

アドバイス

ABS警告灯が次のようになった場合は正常です。

- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■ SRSエアバッグ 警告灯

エンジンスイッチをONにしたときから約6秒間点灯した後消灯します。

⚠ 注意

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。ただちにスバルの販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないときは、または点灯したままのとき
- 走行中に点灯したとき

■ステアリング制御警告灯
(車速感応式パワステ車)——

STEER
-ING

エンジン回転中、パワーステアリングの電子制御システムに異常があると点灯します。

エンジンスイッチONのとき約1秒間点灯し消灯するのが正常です。

⚠注意

点灯しているときは

ステアリング制御警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。

気をつけて運転し、すみやかにスバルの販売店で点検を受けてください。

アドバイス

次の場合に点灯することがあります

- すべり易い路面で後輪がロックして点灯したときは、いったんエンジンを止め、再始動して消えることを確認してください。
- 停車中に必要以上の空吹かしを続けたとき、または外気温度が冷えている場合（0℃以下が目安ですが若干の差があります）で、10分以上アイドル回転（車を放置してエンジンをかけたままの状態）を続けると点灯することがあります。（点灯している状態ではハンドル操舵力は重くなります。）しかし、走行を開始すると（車速5km/h以上）、警告灯は消え、正常運転になります。

■シートベルト警告灯——

エンジンスイッチがONのとき、運転車がシートベルトを装着していないときに点灯します。運転席シートベルトのタングプレートをバックフルに差し込むと消えます。

☆60ページ（シートベルト）



メモ

91

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

装備品の使いかた

ヒーターとエアコン	94
風向きの調整	94
フロントヒーターの使いかた	95
リヤヒーターの使いかた	99
エアコンの使いかた	99
ラジオ・オーディオシステム	103
アンテナ	103
カセットテープについて	104
テープの保管について	104
コンパクトディスクの取り扱い	105
AM電子チューナー	106
AM/FM電子チューナーカセットデッキ	109
インテグレートッドサウンドシステム	113

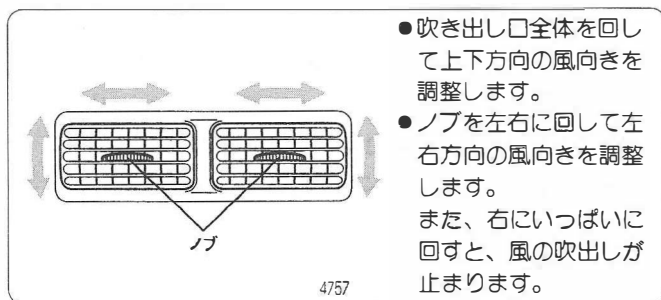
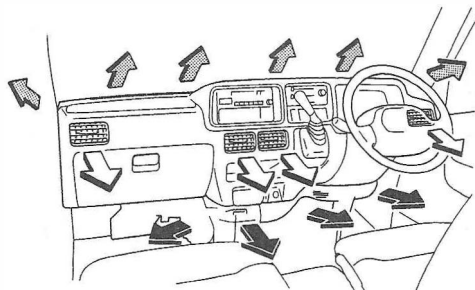
室内装備

シガーライター	131
灰皿	132
グローブボックス	132
センターコンソールボックス	133
オーバーヘッドシェルフ	134
リヤトレイ	134
小物入れ	135
パーソナルボックス	135
サンバイザー	136
フック	136
三角表示板の格納	137
カーゴソケット	137
ルームランプ	138
荷室ランプ	139
トノカバー	140

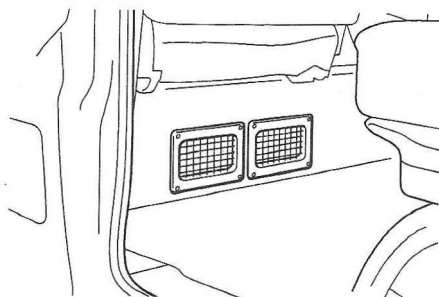
ヒーターとエアコン

風向きの調整

<フロントヒーター>

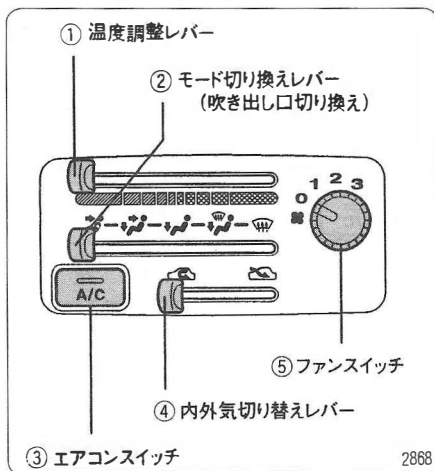


<リアヒーター>



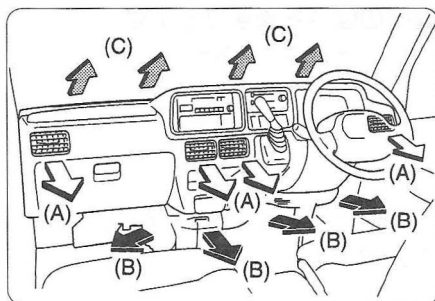
フロントヒーターの使いかた

■レバー、スイッチ類の操作



■風の吹き出し口を切り替えるには モード切り替え（吹出口切り換え）レバー

	ベント：A 首から胸にかけて風を送ります。
	バイレベル：A+B 顔から胸と足元に風を送ります。
	ヒート：B 足元に多く、フロントガラスに少し風を送ります。
	デフロスタ/ヒート：B+C フロントガラスと足元に風を送ります。
	デフロスタ：C フロントガラスに風を送ります。



■エアコンスイッチ

☆99ページ（エアコンの使いかた）

■内気循環と外気導入の切り替え ——内外気切り替えレバー——

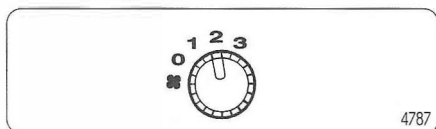


レバーをそれぞれのマークの位置まで動かします。

⚠注意

内気循環は必要ときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂がある場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。また長時間内気循環にするとガラスがくもりやすくなります。

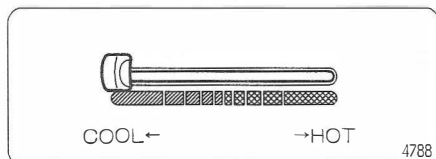
■風の強さを調整するには——
——ファンスイッチ——



4787

風の強さは3段階に調整できます。数字が大きくなるほど強くなり、「0」では止まります。

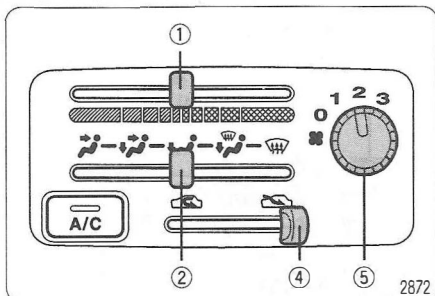
■温度を調整するには——
——温度調整レバー——



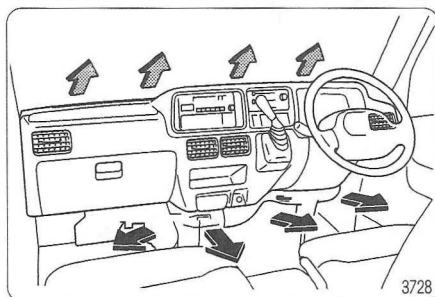
4788

右に動かすと風の温度が高くなります。無段階に温度の調節ができます。


■暖房するとき



2872



3728

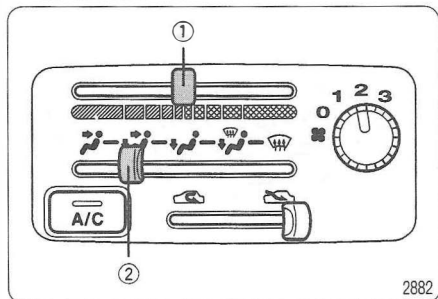
②のモード切り替えレバーを“”位置にします。足元に暖かい風が吹き出します。同時にフロントガラスにも少し吹き出し、ガラスの曇りを取ります。室内の温度調節は①の温度調整レバーと⑤のファンスイッチで行います。

アドバイス

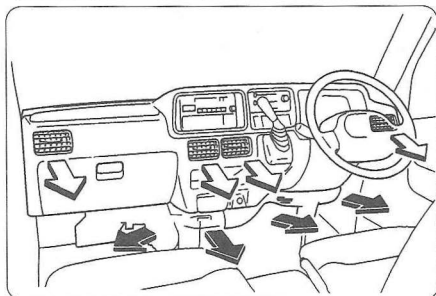
室内を早く暖めたいとき


④を内気循環にします。室内が暖まったら外気導入に切り替えてください。

■頭寒足熱にするとき



2882



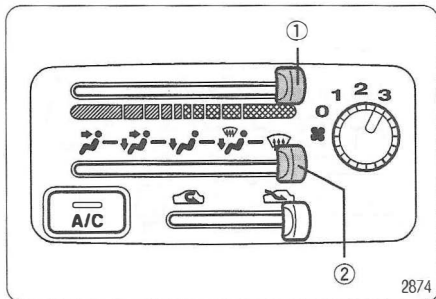
②のモード切り替えレバーを“”位置にします。温度調整は温度調整レバー①で調整します。暖められた風が足元から、比較的温度の低い風が顔に向けて吹き出します。

アドバイス

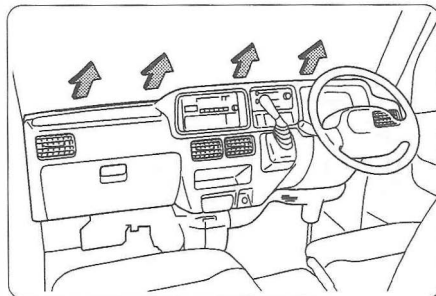
次の場合は頭寒足熱になりません。


①の温度調整レバーを左または右いっぱいにすると頭寒足熱になりません。(冷風または温風のみ吹き出します)

■ガラスの曇りを取るとき



2874



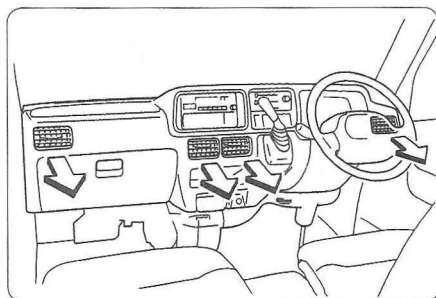
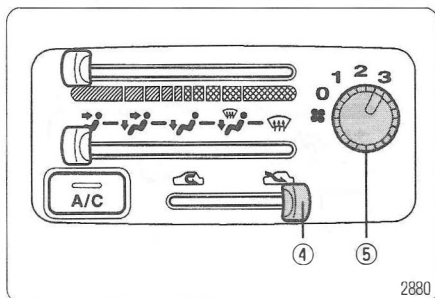
②のモード切り替えレバーを“”位置にします。暖かい風がガラスに吹き出し、曇りや霜を取ります。曇り取りは外気導入でご利用ください。

アドバイス

夏の曇り防止

①の温度調整レバーを適温に調節します。

■換気するとき



④の内外気切り替えレバーを“ ”にします。

●自然換気するには

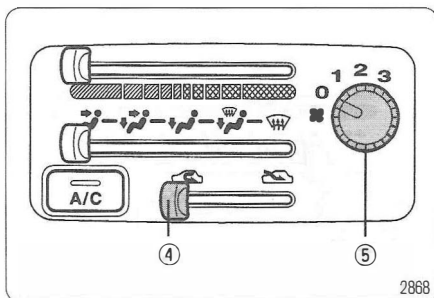
⑤のファンスイッチを「0」にするとファンが止まり、自然換気になります。

アドバイス

次の場合はファンを回して強制換気してください。

- 停車中
- 低速走行中

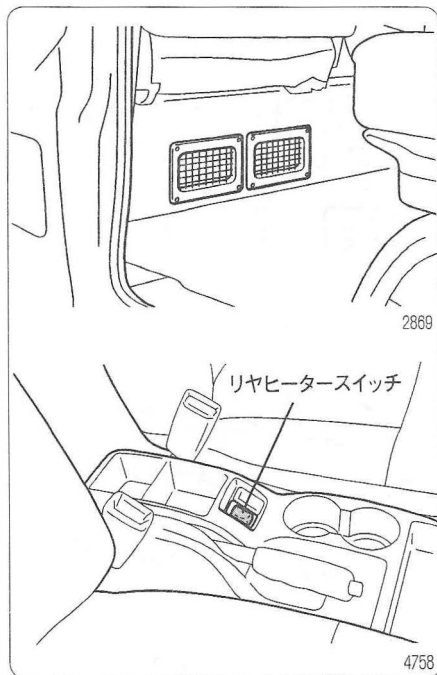
■風の流れを止めるには



⑤のファンスイッチを「0」にして④の内外気切り替えレバーを“ ”にしてください。

リヤヒーターの使いかた フレード

助手席シート下の吹き出し口より温風が吹き出し、後席を暖房します。

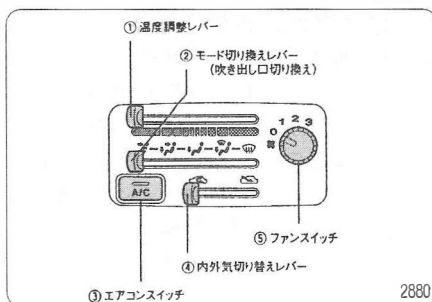


⚠注意

吹き込み口、吹き出し口をふさがないで

リヤヒーターを使用しているときは、ヒーターの空気吸い込み口、吹き出し口を荷物などでふさがないでください。
ファンモーターが過熱して焼損するおそれがあります。

エアコンの使いかた フレード



エンジン回転中、ファンスイッチが「0」以外のとき、エアコンスイッチを押すとエアコンが作動します。もう一度スイッチを押すか、ファンスイッチを「0」にすると止まります。

⚠注意

内気循環は必要なときだけ使い、通常では外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと排気管の腐食や損傷により穴や亀裂があると排気ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

アドバイス

次の場合、エアコンのコンプレッサは回りません

- 室内の温度が低いとき
- 外気温が低いとき（0℃以下のとき）
- 急な坂道を登っているとき
- 急加速中

フロストについて

冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で異常ではありません。

上手にエアコンを使うため

●アイドルアップ装置について

停車中の冷房効果を上げるためアイドルリング回転数が高くなります。オートマチック車はクリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。駐車中はハンドブレーキ(オートマチック車はセレクトレバーをPに)を掛けてください。

●炎天下に駐車したとき

エアコンを使う前にウィンドウガラスを全開にして熱気を出してください。

●においを防ぐため

室内のにおいは消臭剤を使って消してください。空気が汚れているときやタバコを吸うときは外気導入で窓を開けて換気してください。ホコリやタバコの煙が冷房装置についてにおうことがあります。

●目が痛くなったとき

外気導入にしてください。冷房中に乾燥ぎみになり、タバコの煙で目が痛くなることがあります。

●冷え過ぎに気を付けて

適度に温度を調整してください。冷え過ぎは身体に害があります。健康上、外気温と室内温の差は5～6℃が適温です。

●ときどきエアコンを作動させてください。

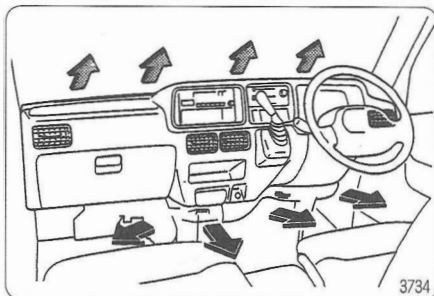
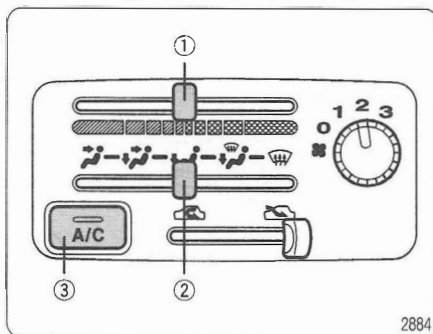
エアコンは各部を潤滑するため月に2、3回程度作動させてください。


●冷えないとき

冷えない場合には冷媒不足も考えられますのでスバルの販売店で点検を受けてください。

■除湿暖房するとき

つめたい雨の日

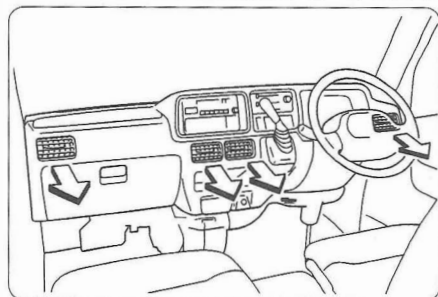
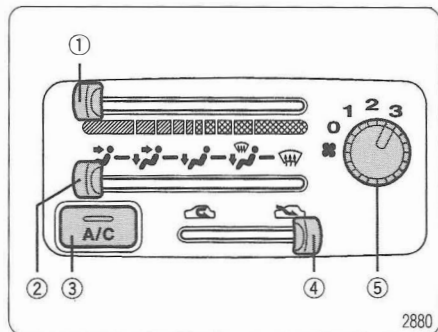


③のエアコンスイッチをONにし、②のモード切り替えレバーを“”に合わせます。除湿された暖かい空気が足元とフロントガラスに吹き出します。ガラスの曇りを防ぎ室内の温度を適温に保ちます。

①の温度調整レバーで室内の温度を調節してください。このレバー位置によっては除湿機能が低下する場合があります。

■冷房するとき

暑い日



③のエアコンスイッチを**ON**にし、①の温度調整レバーを左端にします。

②のモード切り替えレバーを“”位置にします。

アドバイス

すばやく冷やしたいときには

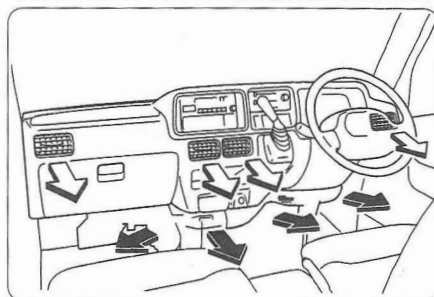
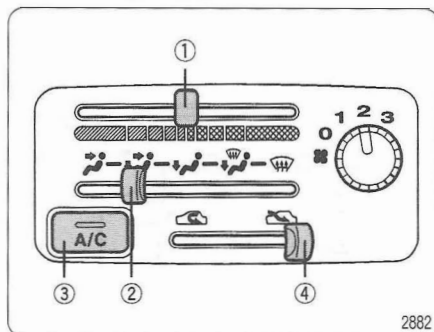
④の内外気切り替えレバーを内気循環にし、⑤のファンスイッチを最大にします。

●内気循環では空気が汚れますので、適温になったら外気導入にしてください。

●炎天下の駐車後は、熱気を逃がすため、しばらく窓を開けながらエアコンを使用してください。

■頭寒足熱にするとき

早春、晩秋のとき



③のエアコンスイッチを**ON**にし、②のモード切り替えレバーを“”位置にします。暖められた風が足元から、比較的温度的の低い風が顔に向けて吹き出します。

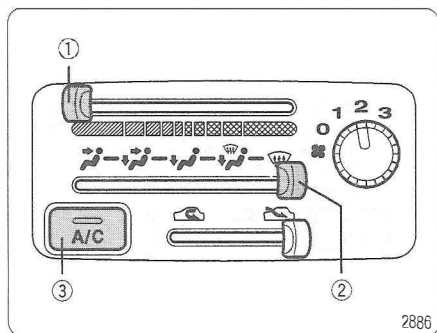
アドバイス

次の場合、頭寒足熱にはなりません。

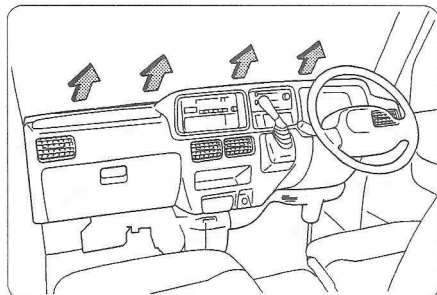
①の温度調整レバーを左または右いっぱいにすると頭寒足熱になりません。(冷風または温風のみ吹き出しとなります)


■ガラスの曇りを取るとき

夏期



2886



③のエアコンスイッチを**ON**にし、②のモード切り替えレバーを“”に合わせます。冷気がフロントガラスに吹き出します。ガラスの曇りを防ぎ、室内を冷やします。

アドバイス

窓の外側が曇る場合があります。

外気温と吹き出し風との温度差が大きいと窓の外側が曇る場合があります。このときはエアコンスイッチを「OFF」にするか、①の温度調整レバーを右に動かしてください。

ラジオ・オーディオシステム

⚠ 注意

安全運転のために

- 車外の音が聞こえる程度の音量で聞いてください。車外の音が聞こえない状態で運転すると危険です。
- できるだけ車が止まっているときに、ラジオ・オーディオシステムを操作してください。

アドバイス

アンテナを使うとき

自動洗車機や屋根の低いところに入るときは、必ずアンテナを収納してください。アンテナが折損することがあります。

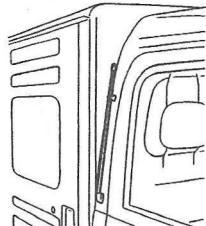
アンテナ

〈ディアス、
ディアスワゴン、
バン〉



4673

〈トラック、パネルバン〉



4313

ラジオを聞くときはアンテナの先端をいっぱいまで伸ばしてください。

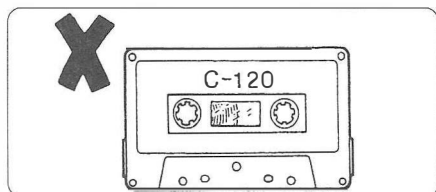
カセットテープについて

カセットテープの性能を悪くしないため、また、カセットテープの巻きつきなどを防止するため次の点に注意してください。

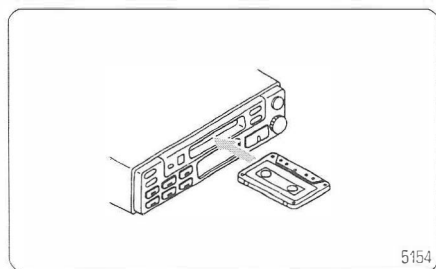
アドバイス

カセットテープを挿入するとき

- ラベルのはがれたテープを使用したり、テープをデッキに入れたまま放置するのはやめてください。回転不良やテープが取り出せなくなる場合があります。



- C120(120分用テープ)はテープが非常に薄いため伸びたり、プレーヤーに巻きついたりして使用不能の原因になります。使用しないでください。



- カセットテープをそう入るときは、テープが見える面を右にして水平に、静かに入れてください。

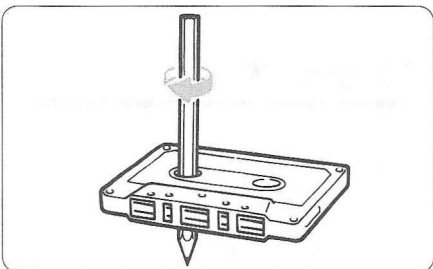
テープの保管について

カセットテープは高温多湿、直射日光、ほこり、強い磁気を嫌います。

アドバイス

カセットテープを保管するときには

- ケースに入れ、日の当たらない場所を選んで保管してください。



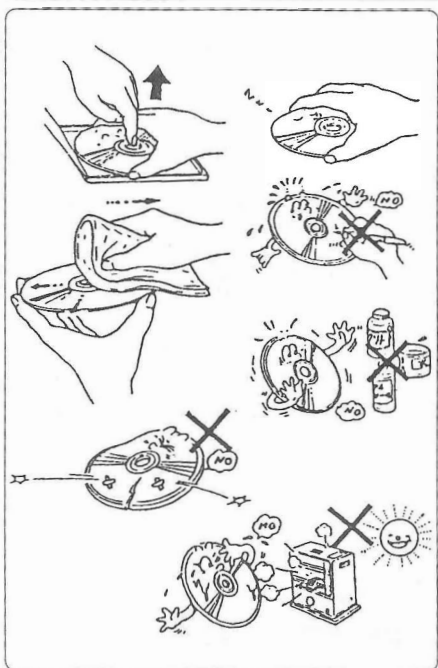
- プレーヤーにテープが巻き込まれないように、エンピツなどでたるみを取ってから差し込んでください。

クリーニングテープ



ヘッド周辺をクリーニングするとき使用します。ヘッド周辺は汚れやすいので1か月に1回程度は、市販のクリーニングテープでクリーニングしてください。

コンパクトディスク(CD)の取り扱い

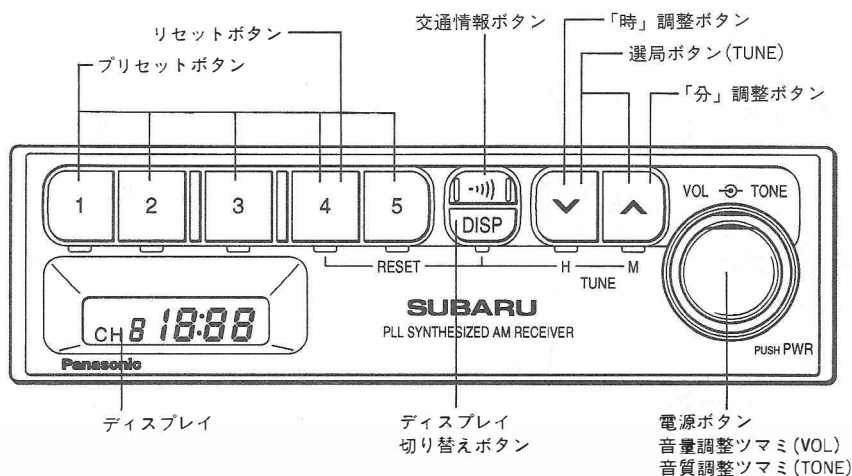


- 大きい傷、変形、ヒビ等があるディスクやハート型などの特殊形状のCDは使用しないでください。誤作動や故障の原因となる場合があります。
8cmCD、12cmCDをご使用ください。
なお、CDチェンジャーの8cmCD使用については、添付の取扱説明書を参照して下さい。
- ディスクは熱に弱いので直射日光の当たる場所やヒーター等の近くに置かないでください。

- ケースからディスクを取り出す場合、図のようにケース中心部を押し、ディスクの両端を持つてください。また、ディスク面に直接触れると、音が悪くなる場合がありますので、手を触れないようにしてください。
- ディスク面にラベルを貼ったり、鉛筆やペン等で傷をつけたりしないでください。
- ディスクはきれいなものをご使用ください。汚れている場合は、乾いた布で図のように中心から外に向かって拭いてください。堅い布やシンナー、ベンジン、アルコール等は使用しないでください。

AM電子チューナー

プレート別

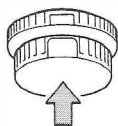


5306

ラジオを聞くには

■電源

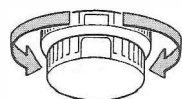
電源ボタンを押すと電源が入り、もう1度押すと切れます。(エンジンスイッチが、「ACC」または「ON」のとき)



5307

■音質調整(TONE)

音質調整ツマミを右に回すと高音が強くなり、左に回すと高音が弱くなります。

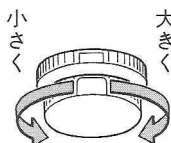


高音が弱く 高音が強く

5309

■音量調整(VOL)

音量調整ツマミを右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。



5308

■選局

選局には次の3つの方法があります。

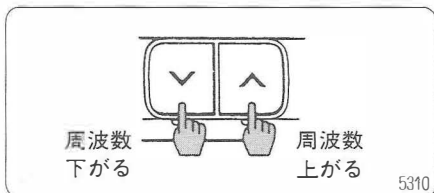
「自動選局」「手動選局」「ワンタッチ選局」

●自動選局

選局ボタンを0.5秒以上押し続けると、自動的に選局します。放送を受信するとその周波数で止まります。

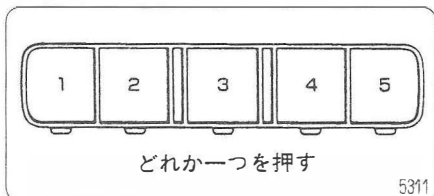
●手動選局

選局ボタンに触れると、9 KHzごとに受信する周波数が切り替わります。



●ワンタッチ選局

ワンタッチ選局ボタンを押すと、あらかじめセットしてある放送局を受信します。AM放送5局が記憶できます。



■放送局を記憶させるには

- ①選局ボタンで記憶させたい放送局を選びます。
- ②ディスプレイが時刻表示のときは、DISPボタンを押して周波数表示にします。
- ③ワンタッチ選局ボタンのうち一つを選び2秒以上押し続けると記憶されます。
- ④同じようにすべてのボタンに記憶させます。

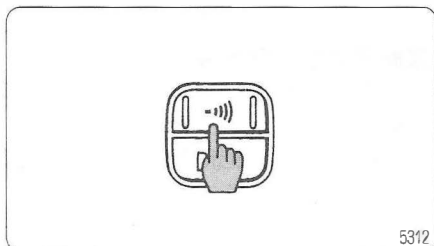
アドバイス

記憶が消えることがあります

バッテリーをはずしたときやヒューズ切れのときは記憶が消えます。

■交通情報を聞くには

交通情報ボタンを押すと交通情報(1620 KHz)を受信します。もう一度押すと直前に受信していた放送を受信します。



アドバイス

交通情報ボタンについて

- 交通情報ボタンは6つ目のワンタッチ選局ボタンとしても使えます。
- 新車時には1620KHzが記憶されています。
- バッテリーをはずしたときやヒューズ切れのときには1620KHzになります。

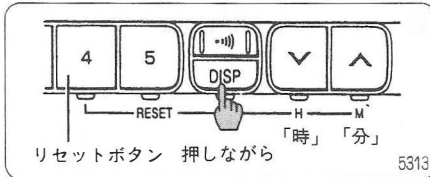
時計を合わせるには

■時・分の調整

DISPボタンを押しながら「時」調整ボタン、「分」調整ボタンを押して時・分を調整してください。

「H」ボタン：「時」の調整

「M」ボタン：「分」の調整



■時報に合わせます

DISPボタンを押しながら、リセットボタンを押してください。

次のように時刻の表示が調整されます。

11:30~12:29→12:00

12:30~1:29→1:00

アドバイス

電源が切れて再び接続したとき

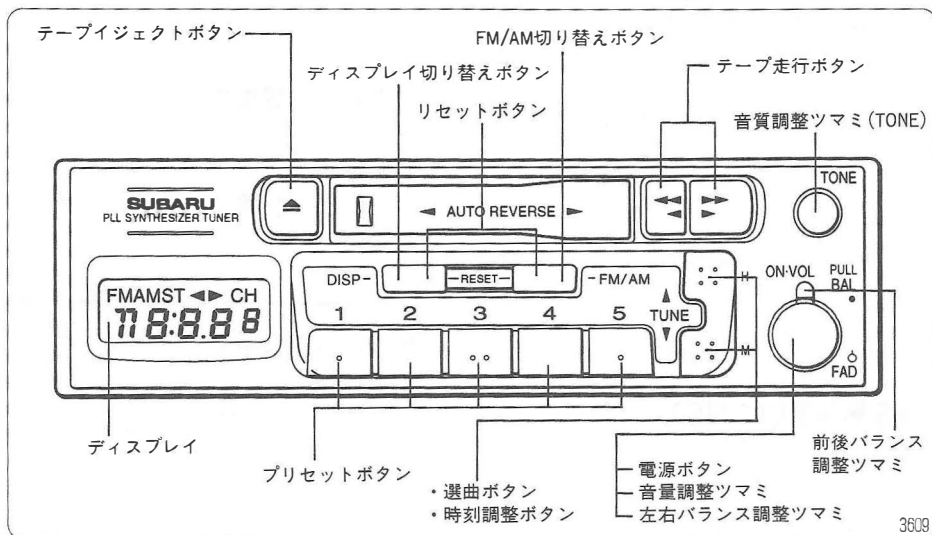
表示が「12:00」で点滅します。正しい時刻に合わせてください。

■ディスプレイ表示の切り替え

ディスプレイには時刻が表示されています。

- 電源を入れたときや選局ボタンを押すと5秒間周波数が表示されます。
- DISPボタンを押すと、時刻と周波数が交互に表示されます。
- エンジンスイッチを「ACC」または「ON」にすると照明がつきます。

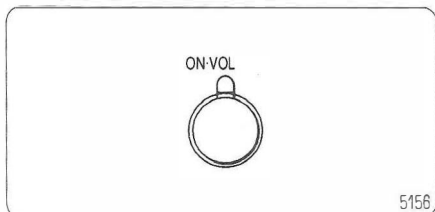
AM/FM電子チューナーカセットデッキ グレード別



共通機能

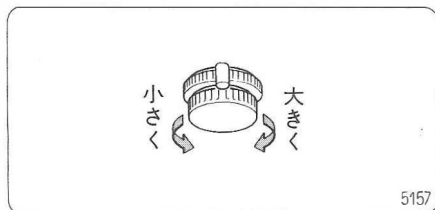
■電源

エンジンスイッチが「ACC」または「ON」のとき、スイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと切れます。



■音量調整(VOL)

右に回す：音が大きくなります。
左に回す：音が小さくなります。



■前後バランス調整(FAD)

(リヤスピーカーをつけたときの機能です。オプション部品) 通常は右いっぱい回しておきます。

右に回す：後席スピーカーの音が小さくなります。

左に回す：前席スピーカーの音が小さくなります。



■左右バランス(BAL)

(ツマミを引いて調整します)

右に回す：左側スピーカーの音が小さくなります。

左に回す：右側スピーカーの音が小さくなります。

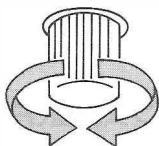


515

■音質調整(TONE)

右に回す：高音が強くなります。

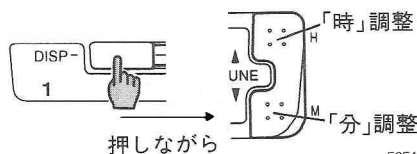
左に回す：高音が弱くなります。



■時計合わせ

ラジオ電源ONのとき「DISP」ボタンを押しながら時刻調整ボタンで調整します。

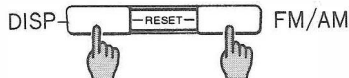
「時」の調整はDISP+H、「分」の調整はDISP+Mで合わせます。



5251

●時報に合わせるには

時報と同時にDISP+FM/AMを押します。



5162

アドバイス

次のように調整されます。

11:30~12:29→12:00

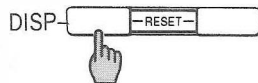
12:30~1:29→1:00

バッテリーを再び接続したとき

表示が「12:00」で点滅します。正しい時刻に合わせてください。

■表示の切り替え

ラジオ電源ONのとき「DISP」ボタンを押すごとに時計表示優先モードと機能表示モードの切り替えができます。



5163

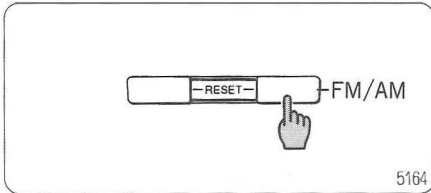
- 機能表示モードとは、各モードの状態のみ表示するモードです。機能表示モードのとき「DISP」ボタンを押すと時計表示になり、以降時計表示優先モードになります。
- 時計表示優先モードのとき各操作を行なうと、約5秒間その操作に応じた表示を行い、その後時計表示に戻ります。

モード	表 示	
	機能表示	時計表示優先時
ラジオ電源OFF	消 灯	時計表示
ラジオ	受信周波数	時計表示
テープ	TAPE	時計表示

ラジオを聞くには

■FM/AMの受信

- ①電源を入れます。
- ②FM・AMを選択します。
ディスプレイにFMまたはAMが表示されます。



■チューニング

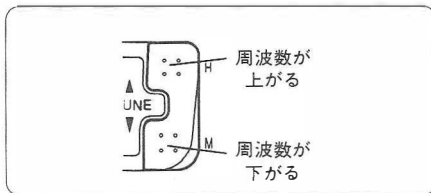
「自動選局」「手動選局」「ワンタッチ選局」の3つの方法があります。

●自動選局

選局ボタンを0.5秒以上押し続けます。自動的に選局します。

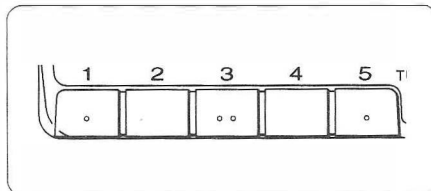
●手動選局

選局ボタンを軽く押します。
一定のピッチで切り替わります。



●ワンタッチ選局

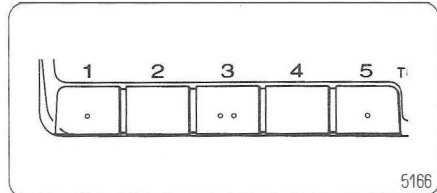
あらかじめセットしてある放送局を受信します。



●放送局の記憶方法

FM放送5局、AM放送5局が記憶できます。

- ①選局します。
- ②ディスプレイを周波数表示にします。



- ③プリセットボタンの1つを選び、2秒以上押し続けます。記憶されるとディスプレイにチャンネル番号が表示されます。
- ④同じようにすべてのボタンに記憶させます。

アドバイス

記憶が消えることがあります

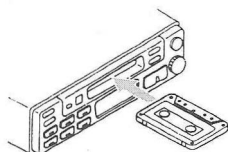
バッテリーをはずしたときやヒューズ切れのときは記憶が消えます。

カセットテープを聞くには

■テープを聞くには

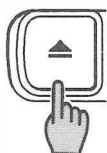
●再生

エンジンスイッチが「ACC」または「ON」のときテープを差し込みます。自動的に電源が入り、再生が始まります。カセットデッキが作動するとラジオは自動的に切れます。



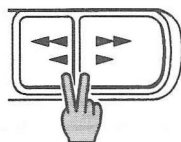
●再生を止めるには

テープイジェクトボタンを押すと再生が止まり、テープが押し出されます。テープが押し出されるとカセットデッキの電源は自動的に切れます。ただし、ラジオの電源がONのときはラジオに自動的に替わります。



●再生方向を切り替えるには

両方のボタンを同時に押します。押すごとに再生方向が切り替わります。

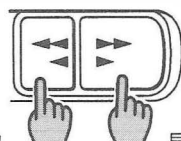


5159

●早送り、巻き戻しをするには

それぞれのボタンを押すと早送り、巻き戻しになります。

早送り、巻き戻しをとめるときは反対側のボタンを軽く押します。その位置から再生が始まります。



巻き戻し 早送り

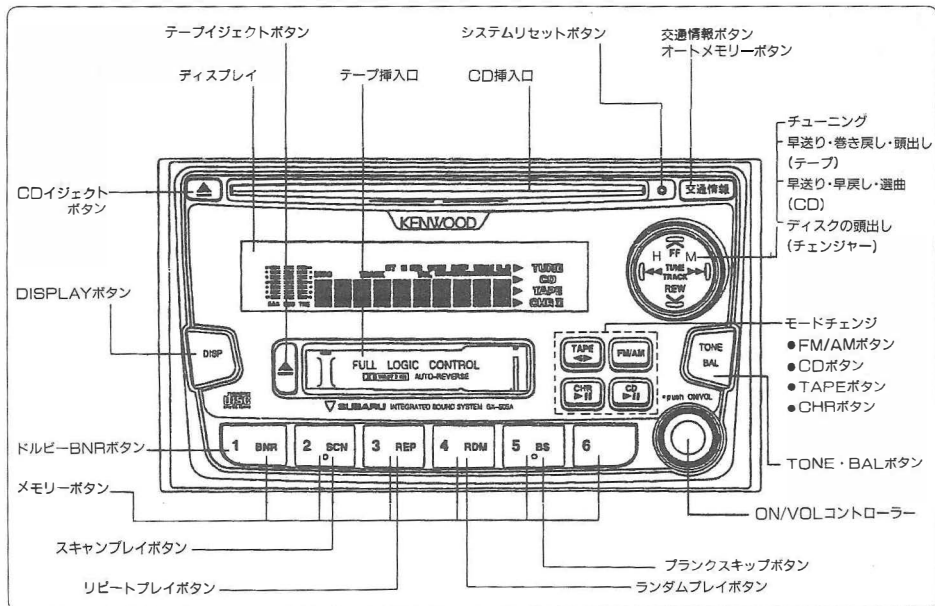
CD/MDを聞くには

このラジオにはCD/MDプレーヤーが接続できます。(オプション部品)

CD/MDプレーヤーにCD/MDをそう入すると再生されます。選曲、その他の操作については、CD/MDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

音量、音質調整はラジオ本体で調整します。

インテグレートッドサウンドシステム(KENWOOD)



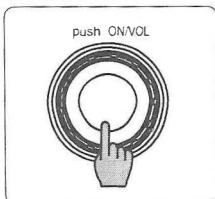
共通機能

電源

エンジンスイッチがACCまたはONのとき、ON/VOLコントローラーを押します。

押すたびに電源がON/OFFします。また、次の操作をしても電源が入ります。

- ①FM/AMボタンを押す。
- ②交通情報ボタンを押す。
- ③カセットテープが入っているとき、TAPE◀▶ボタンを押す。
- ④CDが入っているとき、CD▶IIボタンを押す。
- ⑤カセットテープを挿入する。
- ⑥CDを挿入する。
- ⑦CDチェンジャー接続時、CHRボタンを押す。



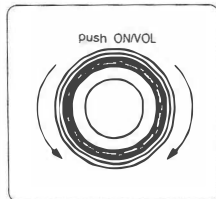
音量調整

ON/VOLコントローラーを回します。右に回す：音が大きくなります。

左に回す：音が小さくなります。

音量はディスプレイ部に数値で表示されます。

音量は“1”（最小）から“35”（最大）の範囲で調整できます。



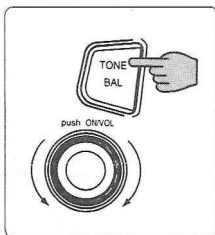
VOLUME —

VOLUME 35

■音質、バランス調整

①TONE・BAL

ボタンを押します。
押すたびに調整モードが次のように切り替わります。



BASS(低音)→MIDDLE(中音)→

↑
解除(音量調整)

↓
TREBLE(高音)

↑
FADER(前後)←BALANCE(左右)

②調整モード中にON/VOLコントローラーを回します。

次の表を参考にして調整します。

調整モードを解除するときはTONE・BALボタンを1秒以上押します。

アドバイス

5秒間操作を行わないと音量調整状態に戻ります。

交通情報受信中には低音、中音、および高音のコントロールはできません。

ディスプレイ表示	ON/VOLコントローラーの操作		
	左へ回す	センター	右へ回す
BASS (低音) -06(低音減衰)～CTR(センター)～+06(低音増強) BASS -02	 低音が減衰されます	 センター	 低音が増強されます
MIDDLE (中音) -06(中音減衰)～CTR(センター)～+06(中音増強) MIDDLE CTR	 中音が減衰されます	 センター	 中音が増強されます
TREBLE (高音) -06(高音減衰)～CTR(センター)～+06(高音増強) TREBLE +02	 高音が減衰されます	 センター	 高音が増強されます
BAL (左右音量バランス) L15(左側音強調)～CTR(センター)～R15(右側音強調) BAL L04	 左側が強調されます	 センター	 右側が強調されます
FAD (前後音量バランス) R15(リア音強調)～CTR(センター)～F15(フロント音強調) FAD CTR	 リアが強調されます	 センター	 フロントが強調されます

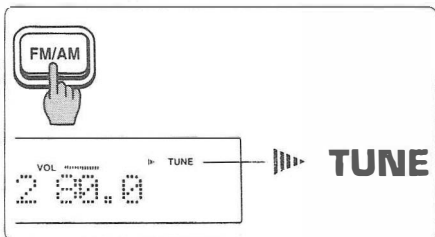
■モードチェンジ

聞きたいモードに切り替える

●ラジオを聞くととき(TUNER MODE)

FM/AMボタンを押します。

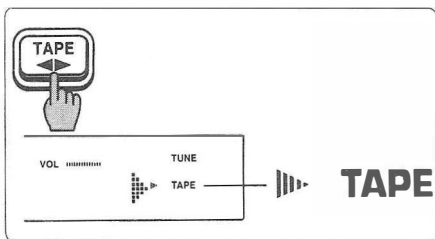
チューナーモードに切り替わり、ラジオがONになります。



●テープを聞くととき(TAPE MODE)

TAPE◀▶ボタンを押します。

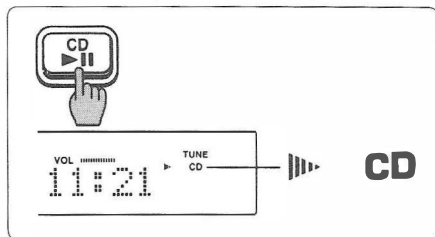
テープが入っている時は、テープモードに切り替わり、カセットテープを再生します。



●CDを聞くととき(CD MODE)

CD▶||ボタンを押します。

CDが入っている時は、CDモードに切り替わり、CDの再生が始まります。

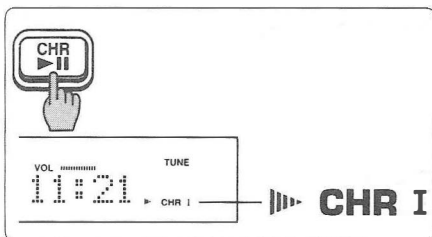


●ディスクチェンジャーを聞くととき(OP設定)

(DISC CH MODE)

CHR▶||ボタンを押します。

ディスクチェンジャーが接続されている時は、ディスクチェンジャーモードに切り替わり、ディスクチェンジャーの再生が始まります。



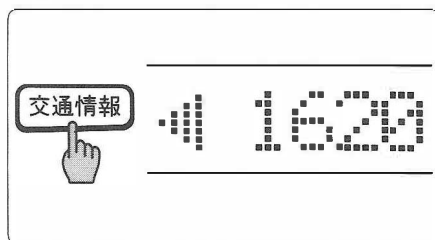
アドバイス

- カセットテープやCDディスクが入っていないとき、ディスクチェンジャーが接続されていないときは、そのモードには切り替わりません。
- ディスクチェンジャーが2台接続されている時は、CHR▶||ボタンを押すたびに2台のディスクチェンジャーを切り替えます。

■交通情報

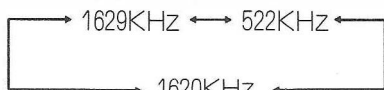
交通情報を聞くときは交通情報ボタンを押します。

押すたびに交通情報のON/OFFができます。



●交通情報局を変える

◀▶ ボタンを押します。



を受信します。

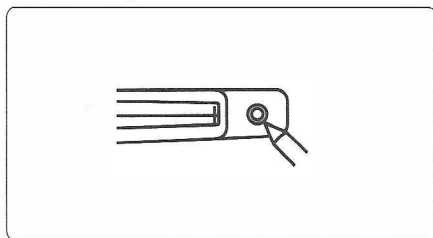
アドバイス

- 交通情報は、どのモードでもエンジンスイッチがACCまたはONであれば、ワンタッチで受信することができます。
- 交通情報の受信中は自動的にモノラル音声になり、高音、中音、および低音の調整はできません。
- 交通情報局は上記以外の周波数には切り替わりません。他の放送局の交通情報を聞くときは、再度、交通情報ボタンを押して通常のラジオ受信にしてください。

■システムリセット

ディスプレイ表示や本体またはディスクチェンジャーが誤作動したときなど、セットに異常が生じたときはシステムリセットボタンを押してください。

システムリセットしても正常に戻らないときは、そのままの状態ですバルの販売店にご連絡ください。



アドバイス

- システムリセットすると本体でメモリーされた内容はすべて初期化されます。
- カセットテープやCDなどが本体の中に入っている場合はイジェクトされます。

■時計あわせ

DISPボタンを押しながらH. Mボタンで調整します。

時：Hボタンを押します

分：Mボタンを押します

ボタンを0.5秒以上押し続けると早送りになります。

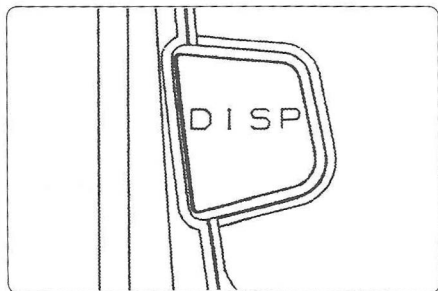
時刻調整後のDISPボタンを離した時点で秒がリセットされます。

DISPボタンを押しながらRESETボタンを押すと時報合わせができます。

次のように調整されます。

11：30～12：29→12：00

12：30～1：29→1：00



■表示の切り替え

DISPボタンを押すごとに時計表示優先モードと機能表示モードの切り替えができます。

- 機能表示モードとは、各モードの操作時に応じた状態のみ表示するモードです。機能表示モードの時にDISPボタンを押すと時計表示になり、以降時計表示優先モードになります。
- 時計表示優先モードのときに各操作を行うと、約5秒間その操作に応じた表示を行い、その後は時計表示になります。

■表示部の減光キャンセル

ライティングスイッチを「ON」にするとラジオ表示部の明るさが一段減光（暗くなる）します。

昼間、ランプを点灯させて走るとき表示が見にくいとき、電源ボタンを2秒以上押すと、減光がキャンセルされ、明るくなります。

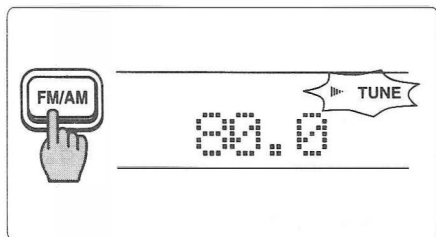
- ライティングスイッチOFF、エンジンスイッチLOCK、再度電源ボタンの長押しで通常の減光に戻ります。
- 電源ボタン2秒未満の操作ではラジオの電源が切れます。ラジオを作動させるには再度電源ボタンを押してください。

ラジオを聞くには

■FM/AM受信

FM/AMボタンを押します。

インジケーターが点灯し、ラジオがONになります。

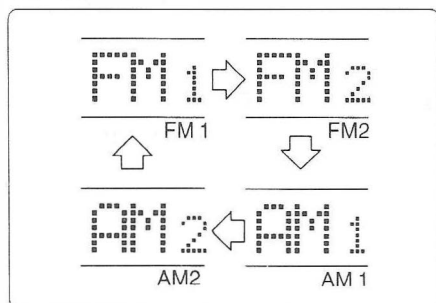


●バンドの切り替え

聞きたいバンド（FM/AM）を切り替えるときはFM/AMボタンを押します。

押すごとにバンドが以下の順に切り替わります。

切り替えたバンドがディスプレイに表示されます。



アドバイス

●AM放送はモノラル受信のみになります。

■チューニング

●オートチューニングで選局する

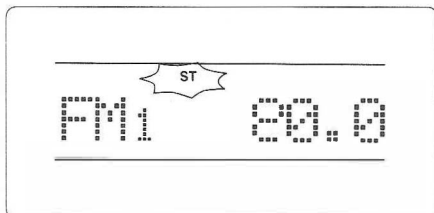
◀▶ ボタンを1秒以上押します。

◀▶ ボタンを押すと周波数の低い方へオートチューニングします。

▶▶ ボタンを押すと周波数の高い方へオートチューニングします。

放送局が見つかり受信します。

ステレオ放送のときはSTインジケーターが点灯します。



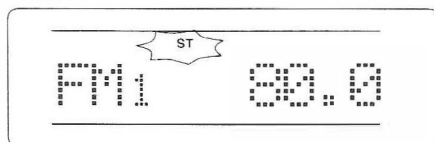
●マニュアルチューニングで選局する

◀▶ ボタンを押す。

◀▶ ボタンを押すと周波数の低い方へ1ステップずつマニュアルチューニングします。

▶▶ ボタンを押すと周波数の高い方へ1ステップずつマニュアルチューニングします。

ステレオ放送のときはSTインジケーターが点灯します。

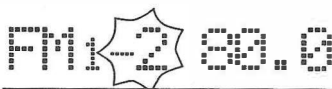


■メモリー

●マニュアルメモリー

聞いている放送局をメモリーするときにはメモリーしたいメモリーボタン1～6のうちのいずれかを2秒以上押します。

押したボタンに聞いている放送局がメモリーされ、メモリーNo.がディスプレイに表示されます。

A digital display showing "FM1-2 88.0". The "2" is inside a star-shaped graphic.

アドバイス

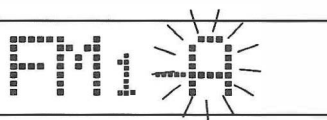
各バンド（FM1、FM2、AM1、AM2）にそれぞれ6局までメモリーできます。

●オートメモリー

聞いているバンドの放送局を自動でメモリーするときは交通情報ボタンを2秒以上押します。

“A”表示が点滅し、オートメモリーが始まります。

放送局を見つけるとメモリーNo.がディスプレイに表示され、周波数の低い順にオートメモリーします。メモリーされた放送局の中で一番周波数の高い放送局を受信してオートメモリーを終了します。

A digital display showing "FM1-A". The "A" is inside a square graphic with radiating lines, indicating a search or automatic memory function.

アドバイス

- オートメモリーは各バンド（FM1、FM2、AM1、AM2）でそれぞれメモリーできます。
- ふだんよく聞く放送局はFM1またはAM1にメモリーし、旅先などで放送局がわからないときはFM2またはAM2にオートメモリーしておくと便利です。

●メモリー呼び出し

メモリーした放送局をワンタッチで呼び出すときは1～6までのメモリーボタンのいずれかを押します。

押したボタンにメモリーされている放送局を受信します。メモリーNo.がディスプレイに表示されます。

A digital display showing "FM1-2 88.0". The "2" is inside a star-shaped graphic.

カセットテープを聞くには

■テープを聞く

●カセットテープが入っていないとき
テープの見える面を右側にしてテープ挿入口へ入れます。

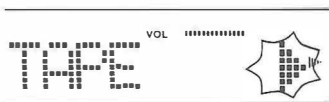
TAPEインジケータが点灯し、テープの再生が始まります。

●カセットテープが入っているとき
TAPE ◀▶ ボタンを押します。

TAPEインジケータに“▶” が点灯し、テープ演奏が始まります。



テープ再生中は、テープ走行状態を“▶”
または“◀”でディスプレイに表示します。



アドバイス

オートテープセクター

使用するテープを自動的にメタル (TYPE IV) クローム (TYPE II) テープとノーマル (TYPE I) テープを検知するオートテープセクターを内蔵しています。テープの特性に合わせて音質を自動補正します。

●リバースプレイ

テープの反対面を再生するときはTAPE
◀▶ ボタンを押します。

テープ走行インジケータが反転し、リバース面の再生が始まります。



アドバイス

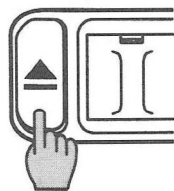
- リバースプレイ中はテープ走行状態を示すインジケータの向きが“◀”となります。
- テープ片面の演奏が終わると自動的に反対面の演奏に切り替わります。

●イジェクト

カセットテープを取り出す

▲ボタンを押します。

カセットテープがイジェクトされ、テープモードに切り替わる前のモードに切り替わります。



アドバイス

カセットテープは、他のモード中や電源がOFFでも取り出すことができます。

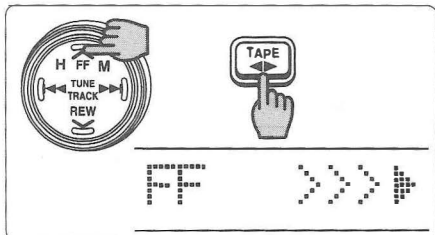
■早送り／巻き戻し

●早送り

FFボタンを押します。

早送り中は“FF”とディスプレイに表示されます。早送りを止めるときはTAPE

◀▶ボタンを押します。

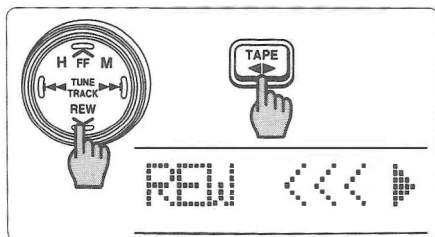


●巻き戻し

REWボタンを押します。

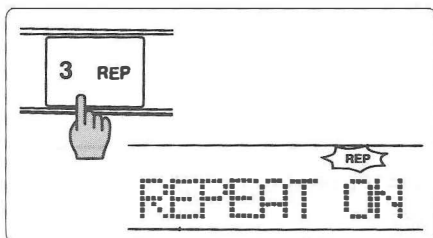
巻き戻し中は、“REW”とディスプレイに表示されます。巻き戻しを止めるときはT

APE ▶◀ボタンを押します。



■リピートプレイ

同じ曲を繰り返し聞くときは繰り返し聞きたい曲を再生中にREPボタンを押します。押しごとにリピートプレイがON/OFFします。ONにすると、“REPEAT ON”とディスプレイに表示され、リピート演奏中はREPインジケータが点灯します。聴いている曲を繰り返し演奏します。



アドバイス

曲間の4秒以上の無録音時間を検出して行います。

4秒以下の場合には正しくリピートプレイされないことがあります。

また、無録音部分でもノイズが大きい場合は、リピートプレイされないことがあります。

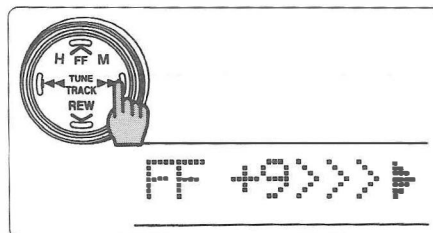
■DPSS (ダイレクトプログラムサーチシステム)

飛び越し選曲する

●先の曲を選曲する

▶▶ボタンを押します。

ボタンを押すたびに曲数が表示され、自動的に早送りが始まります。表示されている曲数分（最高9曲まで）の頭出しができます。途中で解除するときにはTAPE ▶◀ボタンを押します。



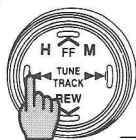
アドバイス

+1は次の曲、+2はその次の曲を表します。

●手前の曲を選曲する

◀◀ ボタンを押します。

ボタンを押すたびに曲数が表示され、自動的に巻き戻しが始まります。表示されている曲数分（最高9曲まで）の頭出しができます。途中で解除するときはTAPES ▶▶ ボタンを押します。



RECALL 7 <<<< ▶

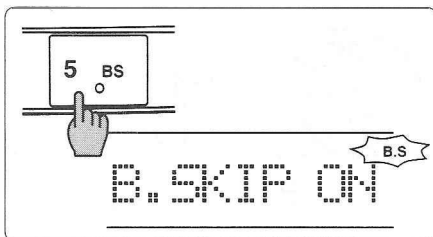
アドバイス

- -0は今聴いている曲、-1はその手前の曲を表します。
- 曲間4秒以上の無録音時間を検出して選曲します。4秒以下の場合は正しく選曲されないことがあります。
また、無録音部分でもノイズが非常に大きい場合は、DPSSされないことがあります。

●ブランクスキップ

長い無録音時間を自動的に早送りするBSボタンを押します。

押すたびにブランクスキップがON/OFFします。ブランクスキップ機能がONのときは、BSインジケータが点灯します。



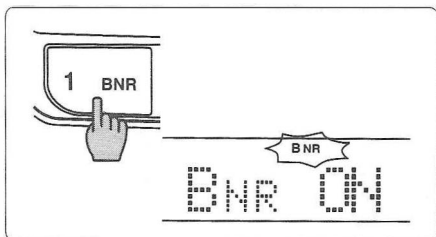
アドバイス

- 約10秒間の無録音時間を検出してブランクスキップします。また、無録音部分でもノイズが非常に大きい場合は、ブランクスキップされないことがあります。
- クラシック音楽など録音レベルが非常に低い部分が約10秒以上つづくと無録音部分とみなされ、ブランクスキップされてしまうことがあります。このようなときはブランクスキップをOFFにしてください。

■ドルビーB NR

ドルビーB NR録音されたテープを聞くB NRボタンを押します。

押すたびにドルビーB NRがON/OFFします。ON中はディスプレイに“B NR ON”と表示され、B NRインジケータが点灯します。



アドバイス

- ドルビーB NR録音されていないテープを聞くときはOFFにしてください。
- ドルビーB NRの設定は正しく行ってください。逆の設定をすると高音にノイズが出たり、こもった音質になります。
- ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンスからの実施権に基づき製造されています。

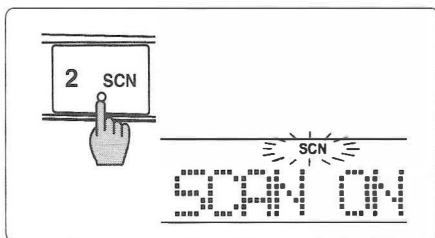
ドルビー、DOLBY、およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンスの登録商標です。

■スキャンプレイ

聞きたい曲を探すときはSCNボタンを押します。

押すたびにスキャンプレイがON/OFFします。ON中は“SCAN ON”とディスプレイに表示され、曲の頭の方を約10秒間ずつ再生していきま。スキャンプレイ中はSCNインジケータが点滅します。

聞きたい曲が見つかったらSCNボタンまたはTAPE ◀▶ ボタンを押します。



アドバイス

曲間4秒以上の無録音時間を検出して選曲します。4秒以下の場合には正しくスキャンプレイされないことがあります。

また、無録音部分でもノイズが非常に大きい場合は、スキャンプレイされないことがあります。

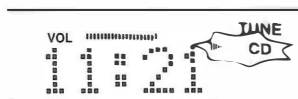
CDを聞くには

■CDを聞く

●CDが入っていないとき

ディスクのラベル面を上にしてディスク挿入口へ入れます。

CDインジケーターが点灯し、ディスク再生が始まります。



●CDが入っているとき

CD ▶|| ボタンを押します。

CDインジケータに「▶」が点灯し、ディスク再生が始まります。

CDプレイ中はトラックNo.とトラック再生時間を表示します。

アドバイス

8cmCDも12cmCDと同様にディスク挿入口へ差し込めば再生できます。

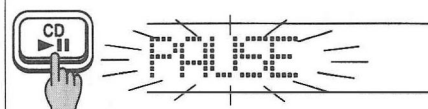
市販の8cmCD用のアダプターは使用しないでください。故障の原因となることがあります。

■ポーズ

CD再生を一時停止する

再生中にCD ▶|| ボタンを押します。

聞いている曲の再生が一時的に停止し、「PAUSE」表示が点滅します。再度押すとポーズが解除され、再生が始まります。



■早送り、早戻し

曲の早送り／早戻し

●早送り

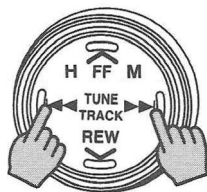
▶▶ ボタンを押し続けます。

押している間、早送りをします。指を離れたところから再生を始めます。

●早戻し

◀◀ ボタンを押し続けます。

押している間、早戻しをします。指を離れたところから再生を始めます。



■イジェクト

CDを取り出すときは▲ボタンを押します。CDがイジェクトされ、前のモードに切り替わります。



アドバイス

CDは他モード中や電源がOFFでも取り出すことができます。

12cm CDの場合、一度イジェクトされたディスクはCD ▶|| ボタンを押しても自動的に引き込まれます。8cm CDの場合は軽く手で挿入してください。

■トラックサーチ

曲の頭出しをする

●早送り

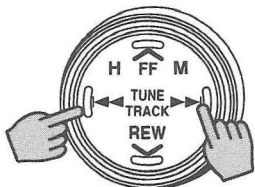
▶|| ボタンを押します。

押すたびに先の曲を頭出しをします。

●早戻し

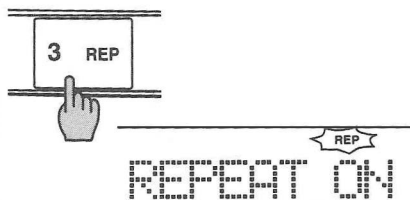
◀|| ボタンを押します。

1回押すと、今聞いている曲を頭出しをします。押すたびに手前の曲の頭出しをします。



■トラックリピートプレイ

同じ曲を繰り返し聞き聞きたい曲を再生中にREPボタンを押します。押すたびにリピートプレイがON/OFFします。ON中は“REPEAT ON”とディスプレイに表示され、REPインジケータが点灯し、聞いている曲を繰り返し再生します。



アドバイス

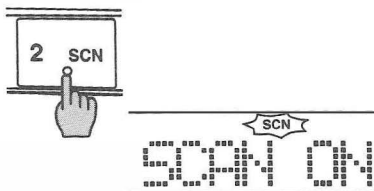
CDの再生を止めると、トラックリピートプレイは解除されます。

■スキャンプレイ

聞きたい曲を探すときはSCNボタンを押します。

押すたびにスキャンプレイがON/OFFします。ON中は“SCAN ON”とディスプレイに表示され、曲の先頭部分を10秒間ずつ再生していきます。

聞きたい曲が見つかったらSCNボタン、またはCD ▶|| ボタンを押します。



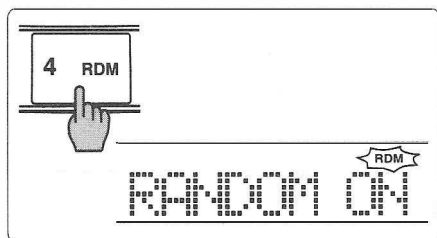
アドバイス

CD再生を止めると、スキャンプレイは解除されます。

■ランダムプレイ

曲を自動的に選ばせて聞くときはRDMボタンを押します。

押すたびにランダムプレイがON/OFFします。ON中は“RANDOM ON”とディスプレイ表示され、RDMインジケータが点灯し、自動的に曲を選択して演奏します。曲を替えるときは **▶▶** ボタンを押します。自動的に曲を選択し、再生が始まります。



アドバイス

CDの再生を止めると、ランダムプレイは解除されます。

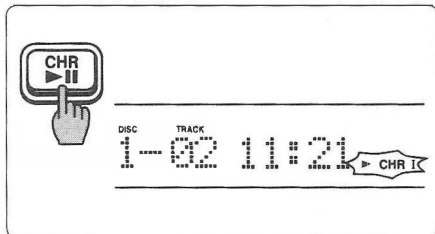
ディスクチェンジャーを接続してディスクを聞く

■ディスクを聞くととき

CHR ▶|| ボタンを押します。

CHR 1 インジケータに “▶” が点灯し、ディスクの再生が始まります。

チェンジャープレイ中はディスク/トラックNO.とトラック再生時間を表示します。



アドバイス

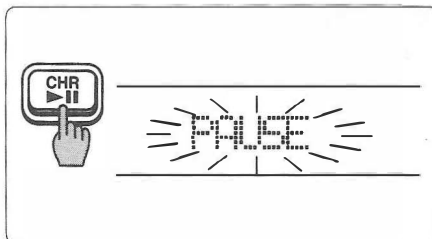
ディスクチェンジャーを2台接続しているときはCHR ▶|| ボタンを押すたびにディスクチェンジャーが切り替わります。2台目のディスクチェンジャーを選ぶとCHR II インジケータが点灯します。

■ポーズ

ディスクの再生を一時停止するときは再生中にCHR ▶|| ボタンを押します。

聞いている曲の再生が一時的に停止し“PAUSE”表示が点滅します。

再度押すとポーズが解除され、再生が始まります。



アドバイス

ディスクチェンジャーを2台接続しているときは、CHR ▶|| ボタンを押すたびに切り替わりますので、ディスク再生を一時停止させることはできません。

■曲の早送り／早戻し

●早送り

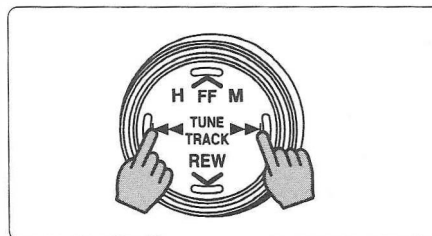
▶▶ ボタンを押し続けます。

押している間、早送りをします。指を離したところから再生を始めます。

●早戻し

◀◀ ボタンを押し続けます。

押している間、早戻しをします。指を離したところから再生を始めます。



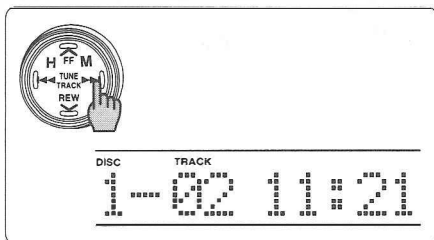
■トラックサーチ

曲の頭出しをする

●先の曲にする

▶▶ ボタンを押します。

押すたびに先の曲の頭出しをします。

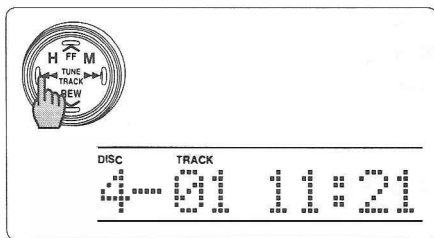


●手前の曲にする

◀◀ ボタンを押します。

一回押すと聞いている曲の頭出しをします。

押すたびに手前の曲の頭出しをします。



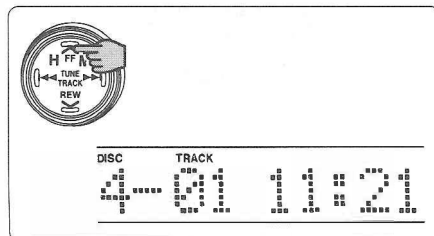
■ディスクサーチ

ディスクの頭出しをする

●先のディスクにする

▲ ボタンを押します。

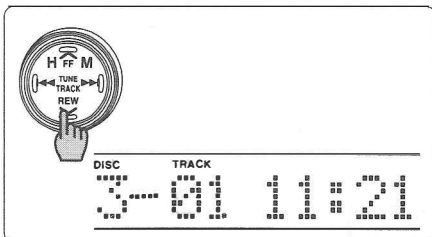
押すたびに先のディスクの頭出しをします。



●手前のディスクにする

▼ ボタンを押します。

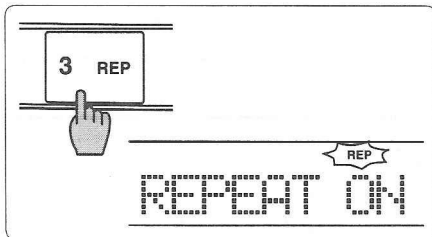
押すたびに手前のディスクの頭出しをします。



■リピートプレイ

同じ曲を繰り返し聞くときはREPボタンを押します。

押すたびにリピートプレイがON/OFFします。ON中は、“REPEAT ON”とディスプレイに表示され、REPインジケータが点灯し、聞いている曲を繰り返し再生します。



アドバイス

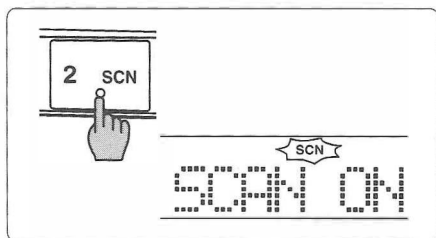
ディスク再生を止めると、リピートプレイは解除されます。

■スキャンプレイ

聞きたい曲を探すときはSCNボタンを押します。

押すたびにスキャンプレイがON/OFFします。ON中は“SCAN ON”とディスプレイに表示され、SCNインジケータが点灯します。曲の先頭部分を10秒間ずつ再生していきます。聞きたい曲が見つかったらSCNボタン、またはCHR ►► ボタンを押します。

スキャンプレイは解除されます。



アドバイス

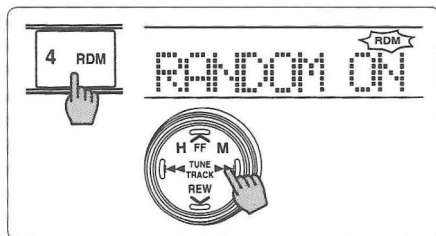
- すべての曲をスキャンするか、またはディスク演奏を止めると、スキャンプレイは解除されます。
- ディスクチェンジャーを2台接続している場合は、CHR ►► ボタンを押すとチェンジャーが切り替わります。

■ランダムプレイ

曲を自動的に選ばせて聞きたいときはRDMボタンを押します。

押すたびにランダムプレイがON/OFFします。ON中は“RANDOM ON”とディスプレイ表示され、RDMインジケータが点灯します。ランダムサーチ中はトラックNo.が表示されます。

曲を替えるときは ►► ボタンを押します。自動的に曲が選択され、再生が始まります。



アドバイス

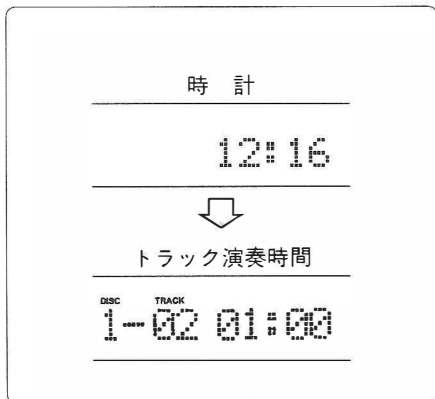
ディスクの再生を止めると、ランダムプレイは解除されます。

■ディスプレイの表示切り替え —

DISPボタンを押します。

押すごとに以下のように切り替わります。

●CDチェンジャー接続時



●MDチェンジャー接続時



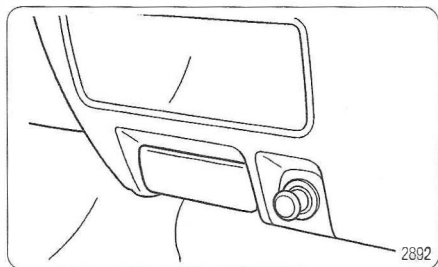
アドバイス

- ディスクタイトル、トラックタイトルが記録されていないMDを演奏時にディスク/トラック名表示に切り替えると、それぞれ“NO D.NAME”、“NO T.NAME”と表示されます。
- 10ケタを越えるディスク名、トラック名が記録されているディスクの場合、DISPボタンを1秒以上押すとタイトルを最後まで表示し、その後先頭の10ケタ表示に戻ります。

室内装備

シガーライター

2892



エンジンスイッチがACCまたはONのときシガーライターを押し込みます。手を離し、自動的に戻るまで待ちます。

注意

シガーライターを使うときには

- シガーライターの金属部分に触れないでください。やけどをすることがあります。
- 押えつけたままにしないでください。シガーライターが過熱して危険です。
- 30秒以上たっても戻らないときは手で引き出してください。
- 他車のシガーライターを使用しないでください。戻らなくなることがあります。

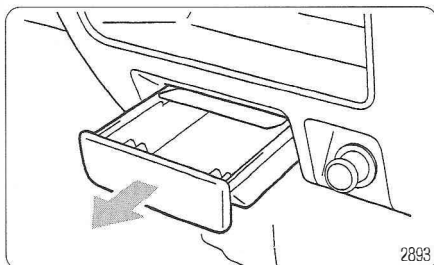
ソケットから電源を取るとき

スバル純正品の使用をお奨めします。

- タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
 - 銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。
 - 電源ソケットにプラグが合わない（ガタがあったり、きつくて入らない）場合は、接触不良や抜けなくなる原因となります。ソケットにあったプラグをご使用ください。
 - エンジン停止状態またはアイドルリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリーあがりを起こすことがありますのでご注意ください。
- また、走行中の使用でも不要になったら切るように心掛けてください。

灰 皿

■前席用灰皿



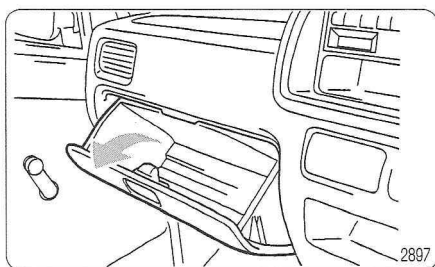
使うときは手前に引き出します。
はずすときは遮熱板を下に押して引き出します。

⚠注意

灰皿を使うときは

- マッチ、タバコは完全に火を消してから入れ、確実に閉めてください。開けたままにするとタバコの火が他の吸いがらに燃え広がり、周囲をこがすことがあり、さらに火災になることがあります。
- 紙くずなど燃えやすいものを入れないでください。
- 吸いがらをため過ぎないでください。

グローブボックス



小物や書類を入れるのに使います。
取っ手を引いて開けます。

⚠注意

走行中は

グローブボックスを必ず閉めておいてください。万一の場合、開いたフタに体が当たるなどして思わぬけがをすることがあります。

アドバイス

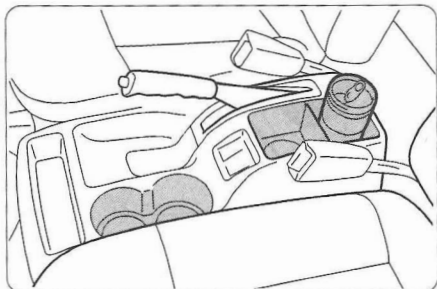
車から離れるときには

車から離れるときには盗難防止のためにも貴重品は持参してください。

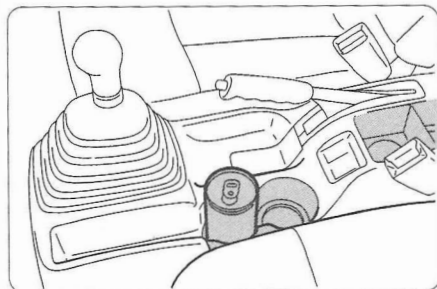
センターコンソールボックス

■カップホルダー

〈AT車〉



〈MT車〉



⚠ 警告

飲物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行ってください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。

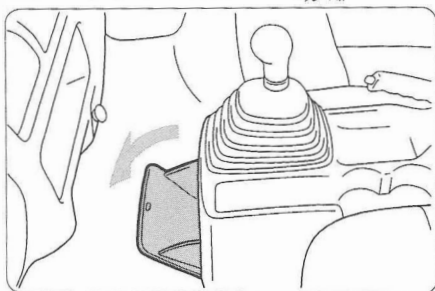
⚠ 注意

- 飲物をこぼさないように急発進急ブレーキに注意してください。
飲物が熱いときこぼれると、やけどをするおそれがあります。

アドバイス

後側のカップホルダー内の仕切板を外すと、物入れとして使えます。

■シークレットボックス グレード別



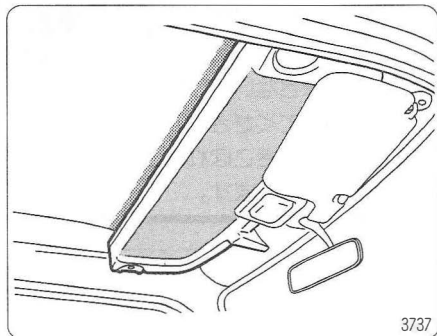
センターコンソールボックスの前側にあります。

「PUSH」を押すとフタが開きます。

⚠ 注意

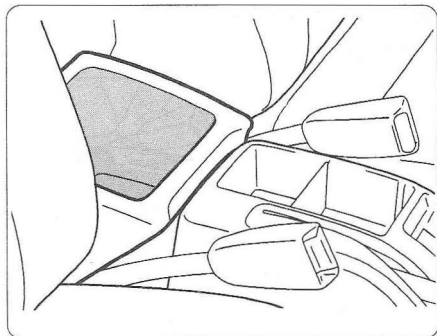
使わないときは閉じてください。

オーバーヘッドシェルフ



伝票、カバンなどをしまうのに使用します。

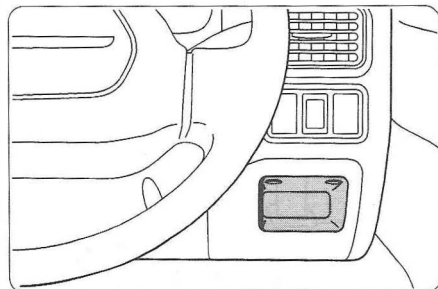
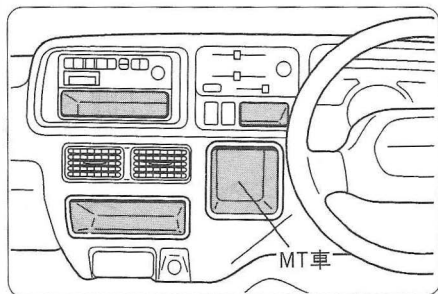
リヤトレイ



センターコンソールボックス後部にあり、ペットボトル、水筒、ティッシュボックスなどを入れておくのに便利です。

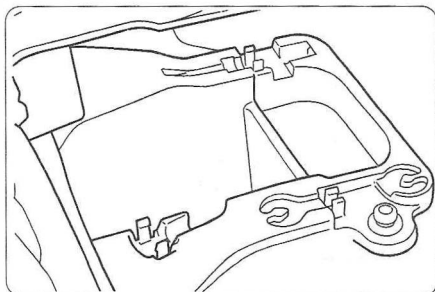
小物入れ

■小物入れ



小物、手回り品などを入れておくのに便利です。

パーソナルボックス



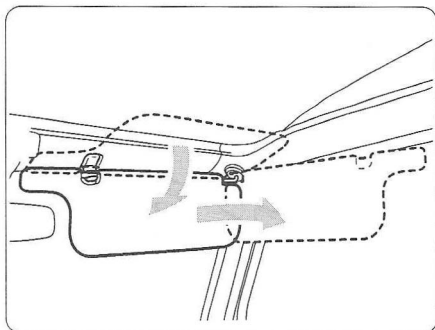
工具、タイヤチェーン、ウエスなどを入れておくのに便利です。

また、車載工具の収納ホルダーは工具のワンタッチ脱着ができます。

注意

パーソナルボックスの中は高温になりますので、スプレー缶、ガスライターなどは入れないでください。

サンバイザー

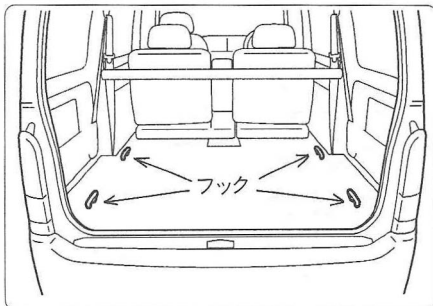


横に回すときはフックからはずして使用します。

運転席側にはチケットホルダーがついています。

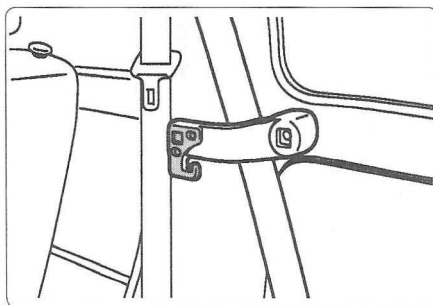
フック プレート型

■カーゴフック



荷室に4カ所取り付けられています。カーゴルームネットなどを引っ掛けるときに使用します。

■買い物フック



トノカバーのホルダー部に左右二箇所取り付けられています。

アドバイス

カーゴフックを使うとき

このフックはカーゴルームネットなどの軽量物の固定、引っ掛けの用途だけに限定してください。

許容引っ張り荷重：20kg

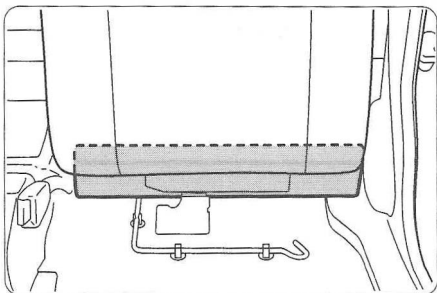
買い物フックを使うとき

買い物袋など軽量物の引っ掛けの用途だけに限定してください。

許容荷重：3kg

三角表示板の格納

(トラック、パネルバン)



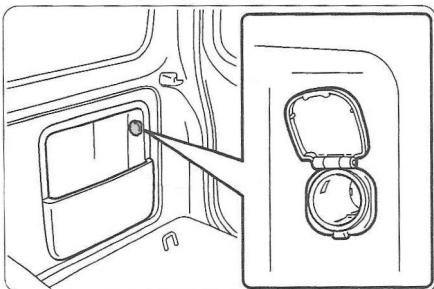
助手席の背当て下側に格納することができます。

- ①シートフッションを起こします。
- ②ジャッキを外します。
- ③三角表示板を格納します。

アドバイス

三角表示板の大きさによっては格納できないタイプもあります。

カーゴソケット



カーゴルーム右側にあります。

エンジンスイッチがACCまたはONのとき12V直流電源が取り出せます。
自動車用電気製品の電源ソケットとしてご使用ください。

⚠注意

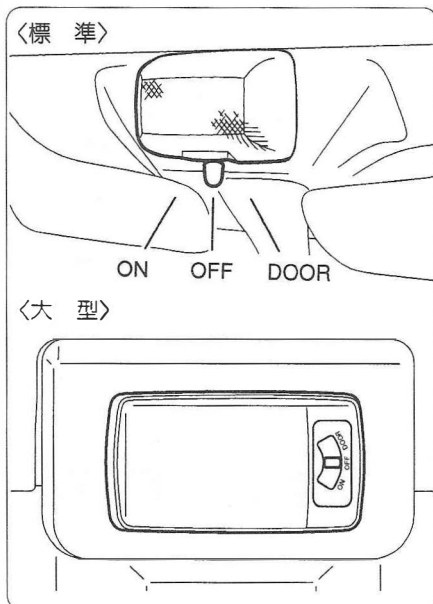
使用するとき

自動車用電気製品は必ず12V/120W以下のものをご使用ください。

- タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
- 銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。
- 電源ソケットにプラグが合わない（ガタがあったり、きつくてはならない）場合は、接触不良や抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますのでご注意ください。また、走行中の使用時も不要になったら切るように心掛けてください。
- ご使用にならないときは必ずカバーを閉じておいてください。ゴミなどが入り、故障の原因になります。

ルームランプ

■トラック、バン・ディアス



●TB、VB、郵政：ON、OFFのみ

ON：常に点灯のまま

OFF：消灯

●TC、VC、赤帽：運転席ドアの開閉と連動

ON：常に点灯のまま

OFF：消灯

DOOR：運転席ドアを開けたとき点灯

●JA：運転席ドアと助手席ドアの ディアス 開閉と連動 ディアスワゴン

ON：常に点灯のまま

OFF：消灯

DOOR：運転席ドアか助手席ドアを開けたとき点灯

アドバイス

車から離れるとき

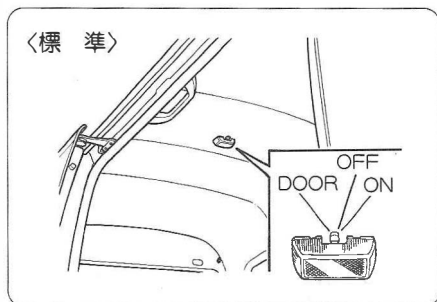
消灯していることを確認してください。

点灯しているとバッテリーあがりの原因になります。

荷室ランプ

■バン・ディアス

〈標準〉



●VB：ON、OFFのみ

ON : 常に点灯のまま

OFF : 消灯

●VC、赤帽：運転席ドアの開閉と連動

ON : 常に点灯のまま

OFF : 消灯

DOOR : 運転席ドアを開けるとルームランプ、荷室ランプ同時点灯

●ディアス、郵政：左スライドドアとリヤゲートの開閉と連動

ON : 常に点灯のまま

OFF : 消灯

DOOR : 左スライドドアかリヤゲートを開けたとき点灯

●ディアス ワゴン：左右スライドドア、リヤゲートの開閉と連動

ON : 常に点灯のまま

OFF : 消灯

DOOR : 左右スライドドア、リヤゲートを開けたときに点灯

アドバイス

車から離れるとき

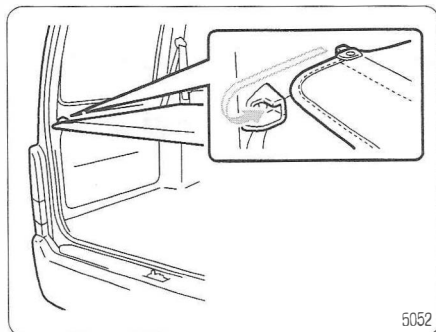
消灯していることを確認してください。
点灯しているとバッテリーあがりの原因になります。

トノカバー プレート別

荷室を外から見えなくして荷物の日焼けを防ぎます。

■使用するとき

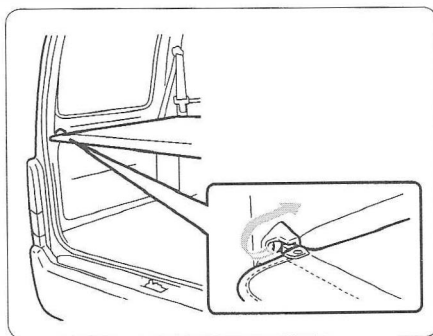
中央部のバンドを持ち、ゆっくりとフックの手前まで引き、両端のフックに引っかけます。



5052

■格納するとき

中央部のバンドを持ち、一度手前に引いてフックからはずし、ホルダー(巻きとり部)近くまで手を添えてゆっくりと巻き戻します。

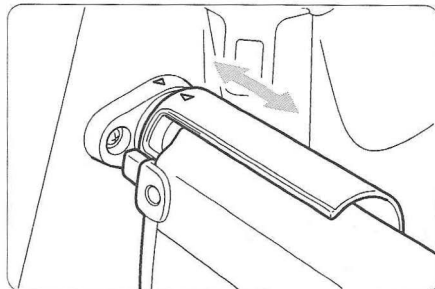


■取り外すには

まず、格納します。次に、トノカバーの両端を中心方向にちぢめると取り外せます。

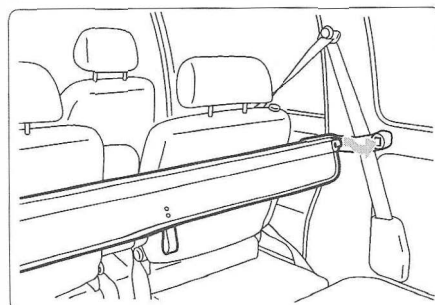
■取りつけるには

両端にある△マークとホルダー側の△マークを合せ、取り付け穴に差し込むと固定できます。



■取付けの位置の変更 プレート別

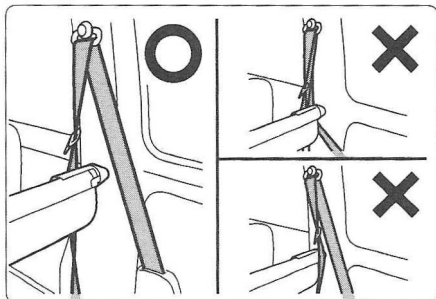
ディアスワゴン(リヤシート)の背当を倒す(9段目まで)とき、トノカバーのホルダー位置を後方へ移動してください。



△ 注意

- リヤシート(ディアス系)の背当てをトノカバーに持たれかかったまま使用しないでください。予期せぬ傷害につながる恐れがあります。

- トノカバーは下図のように正しく取り付けてください。またシートベルトは正しく引き回してください。正しく引き回していないとベルトをかみ込んだりして、シートベルトの着用が困難になったり、性能を十分に発揮しない場合があります。



- トノカバーの上に物を置かないでください。
荷物が落下したり、トノカバーが破損することがあります。

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

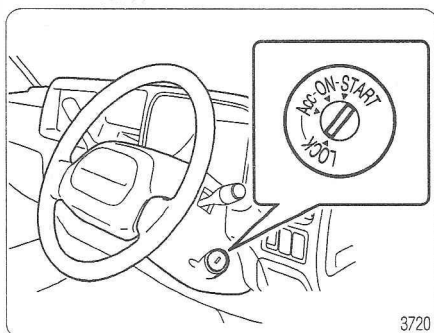
運転装置などの使いかた

基本操作	146
エンジンスイッチ（キーの操作）.....	146
チェンジレバー（マニュアル車の装備）.....	147
ハンドブレーキレバー（ハンドブレーキの操作）.....	148
ホーンスイッチ	148
エンジンの始動・停止	149
 オートマチック車の正しい運転のしかた	151
セレクトレバーの操作	151
AT パワーモードスイッチ	153
運転のしかた	154
エンジンをかける前に	154
エンジン始動	154
発 進	155
走 行	156
停 車	157
駐 車	158
 4WD車の運転	159
セレクトイブ4WD	159
フルタイム4WD	163
4WD車を使用するとき	164
 ABS（アンチロックブレーキシステム）	165

基本操作

エンジンスイッチ

キーの操作



■各位置の働き

LOCK
(ロック)

キーの抜き差しができる位置
キーを抜くとハンドルがロックされます。

ACC
(アクセサリ)

エンジン停止時、次のものが
使用できる位置

ワイパー・ウオッシャー、
オーディオ、シガーライター、
アクセサリソケット

ON
(オン)

エンジン回転中の位置

すべての電装品に作動電源が
供給されます。

START
(スタート)

エンジンを始動する位置

⚠警告

走行中「LOCK」にしないでください

キーが抜けるとハンドルが固定され、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

アドバイス

エンジンを止めているときには

スイッチを「LOCK」にしてください。

長時間「ON」にしたり、「ACC」にして電装品を使うとバッテリーあがりの原因になります。

キーが「LOCK」から「ACC」に回らないとき

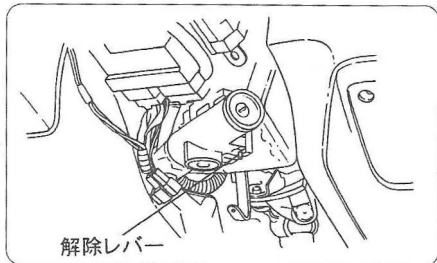
ハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

オートマチック車は、セレクトレバー[P]にしてキーを「LOCK」に回しキーを抜いてください。

アドバイス

オートマチック車でキーが抜けないとき



万一、システムの故障などでキーが抜けなくなったときは、ステアリングロックカバーをはずし、中にある解除レバーを助手席側に引いてキーを抜いてください。

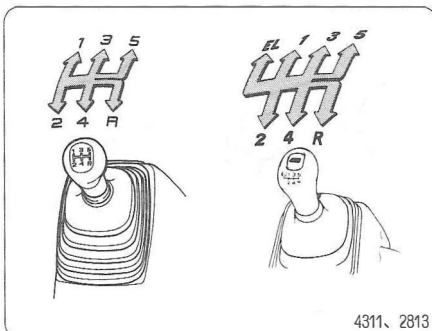
☆16ページ（キーが抜けなくなったとき）参照

■キー抜き忘れ警報

キーの抜き忘れを防止するための装置です。キーをエンジンスイッチに差し込んだまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

チェンジレバー

マニュアル車の装備



4311、2813

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。

■Rに入れるとき

誤操作を防ぐため、「5」→「R」へは直接入れることはできません。一度「N」に戻してから「R」に入れてください。

⚠ 注意

「R」に入れるときは

車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転まで下がってから入れてください。

トランスミッションを損傷させる原因となります。

半クラッチの連続使用はしないでください。

クラッチ早期摩耗の原因になります。

クラッチペダルはいっばいに踏み込んでください。

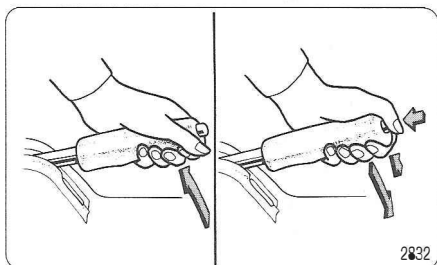
踏み込みが不十分の場合、クラッチの早期摩耗やトランスミッションギヤ鳴き等の原因となります。

アドバイス

ギヤシフトが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

ハンドブレーキレバー

ハンドブレーキの操作



■使用するとき

レバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。



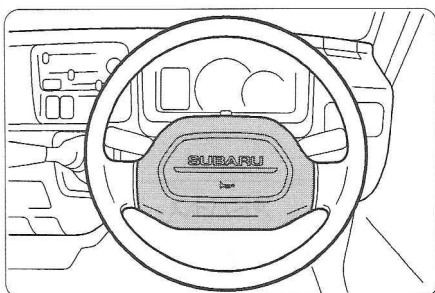
注意

駐車するとき、走行するとき

- 駐車するときは車が動き出さないように確実に引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。

ブレーキが掛ったまま走行すると、ブレーキ部品が早く磨耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

ホーンスイッチ



ハンドル中央のラップマークのあるパッド面を押すとホーンが鳴ります。

また精密機械が内部に入っております。強い衝撃などを加えないでください。

エンジンの始動・停止

■エンジンをかける前に安全を確かめます

●マニュアル車

- (1)ハンドブレーキレバーを引く
- (2)チェンジレバーをニュートラルにする

●オートマチック車

☆151ページ（運転のしかた）

■エンジンをかけるとき

- (1)運転席に座ります。
- (2)アクセルペダルから足を離し
- (3)マニュアル車はクラッチペダルを踏んで
- (4)エンジンがかかるまでスターターを回します。

⚠注意

窓越しからエンジンをかけると車が動く場合があります。絶対にかけないでください。

10秒以上スターターを回し続けしないでください。

スターターの故障の原因になります。かからないときは10秒位休んでバッテリーの機能回復を待ってもう一度スターターを回します。

アドバイス

- エンジンがかかった後はエンジン回転が高めに保たれます。暖機が終ると自動的に下がります。
- エンジンが冷えている時の始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまで長めにスターターを回します。

- エンジンが暖まっている時の始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまで長めにスターターを回します。かかりにくい時は、ハンドブレーキを再確認後アクセルペダルをわずかに踏み込んでスターターを回します。
- ライティングスイッチ、ファンスイッチ、リヤウィンドウデフォッガースイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- 寒い日または数日間以上運転しなかったときは、必ず暖機を完了してから走行してください。
- 長時間放置後に始動する場合、始動性が悪くなることがあります。
このような場合にはエンジン始動前にエンジンスイッチが“ON”の位置で3～5秒間待つてからスターターを回してください。
- 使用するガソリンによってはエンジンが始動しにくい場合があったり、始動後の回転が変動することが希に発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切替えることをお勧めします。
- 純正品以外のリモコンスターターを使用すると、スターターの故障やスパークプラグのくすぶりを引き起こす場合があります。必ず純正のリモコンスターターをご使用ください。

■エンジンを止めるとき

アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。

アドバイス

エンジンを止めるとき

- エンジン回転を上げてからエンジンスイッチを切ったり、スイッチを切ってからアクセルペダルを踏み込むことはしないでください。
未燃焼ガスが多量に排出され、触媒への悪影響や排気管より大きな音がすることがあります。
- 車両が停止した直後はエンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで、時間が多少かかることがあります。

☆22ページ（エンジンルームファンがついています。）

オートマチック車の正しい運転のしかた

セレクトレバー

■各位置での働き



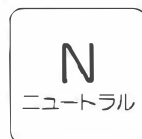
駐車およびエンジン始動位置

駐車のときは必ずハンドブレーキをひいてPにしてください。



後 退

ブザーが鳴り、ドライバーにRであることを知らせます。



動力が伝わらない位置

(停車時)



通常走行

車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速↔2速↔3速に自動的に変速します。

アドバイス 登坂路走行時など走行負荷が大きい時に不要な3速へのシフトアップを制限する制御を行っております。



下り坂および登り坂走行

エンジンブレーキが必要なとき、登り坂走行などで使います。

1速↔2速に変速します。



下り坂および登り坂走行

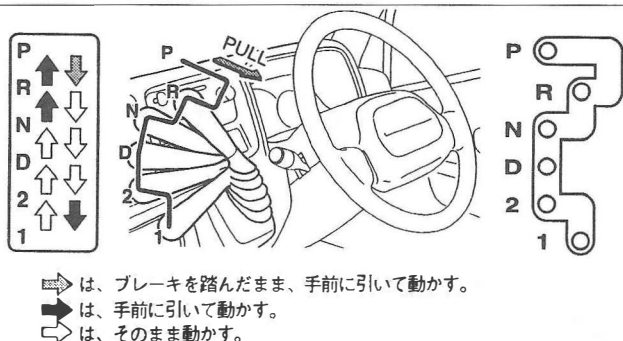
さらに強くエンジンブレーキが必要なとき、急な登り坂、湿った砂地などで使います。

1速に固定されます。

オートマチック車の特徴と運転上の注意

☆13ページ

■セレクトレバーの操作方法



⚠ 警告

- 走行中、D⇔2⇔1シフト操作する以外では必ずブレーキペダルを踏んでシフト操作をおこなってください。
- 発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。
急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

Pでエンジンをかけてください。

Nでもエンジンはかかりますが、安全のためRでかけてください。

P・Rに入るときや、前後進を繰り返すときは

その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。車が止まっていないとトランスミッションを破損させることがあります。

後退した後は、すぐにRからNに戻す習慣をつけてください。

イラスト中の白抜き矢印(↑↓)の操作は、レバーを引かずに動かす習慣をつけてください。

いつもレバーをひいて操作すると意に反してP/R/Nに入れてしまうおそれがあります。

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけています。確実に行ってください。
- Rのときは、レバーを引いたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCKのときは、ブレーキペダルを踏んでもRから他の位置に切り換えられません。
- **PレンジからRレンジにセレクトする時、急な操作をするとDレンジに入ることがあります。**

ゆっくり操作して、プザー音およびメーター内のセレクトインジケータのR表示を確認してからアクセルペダルを踏んでください。

ATパワーモードスイッチ

運転条件に応じて走行モード(ノーマルモード、パワーモード)を選択するスイッチです。

アドバイス

ノーマルモードとは

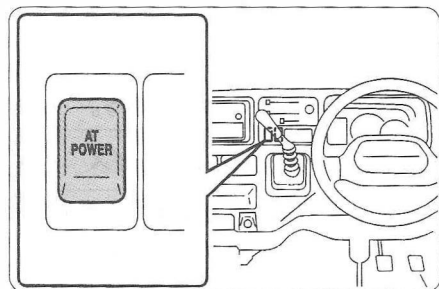
燃費など経済性を重視したモードです。

パワーモードとは

強い加速が必要な時や積載時の走行に適したモードです。

パワーモードでは変速点が高速側にセットさせるため、高いエンジン回転数まで利用できパワフルな走行ができます。

■走行モードの切り替え



スイッチがONされていないときは、「ノーマルモード」です。

スイッチをONすると「パワーモード」になり、メーター内の「パワー表示灯」が点灯します。

運転のしかた

■エンジンをかける前に

手順1

正しい運転姿勢をとります。

☆46ページ
(正しい運転姿勢)

手順2

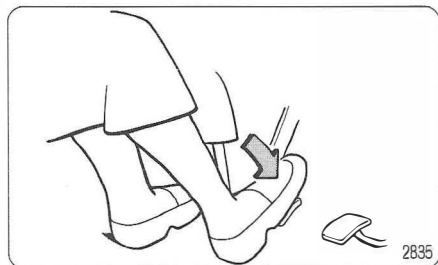
アクセルペダルの位置を確認します。

手順3

ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注意

踏み間違いを防ぐため



アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。(踏みまちがいは事故につながるおそれがあります。)

■エンジン始動

☆146ページ (エンジンスイッチ)

手順1

ハンドブレーキを確認します。
(レバーが引いてあること)

手順2

セレクトレバーが[P]であることを確認します。

⚠ 注意

[N]レンジでも始動できますが、安全のため[P]レンジで行ってください。

手順3

ブレーキペダルを右足で踏んだまま

手順4

エンジンがかかるまでスターターを回します。

アドバイス

10秒以上スターターを回し続けないでください。

かからないときは10秒位休んでバッテリーの機能回復を待ってもう一度スターターを回します。

手順5

エンジンがかかった後はエンジン回転数が高めに保たれます。暖機されるにしたがって自動的に下がります。

アドバイス

エンジンがかかりにくいときは

☆149ページ (エンジンの始動・停止)

■ 発 進

手順 1

ブレーキペダルを右足で踏んだまま

⚠ 警告

アクセルペダルを踏まないでブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

手順 2

セレクトレバーを **D** レンジ (前進) または **R** (後退) に入れます。

手順 3

セレクトレバーの位置をメーター内のセレクトインジケータで確認します。

手順 4

ハンドブレーキを戻します。

手順 5

右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆつくりと踏みます。

⚠ 注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時などはアイドル回転が高くなり、クリーブ現象が強くなります。とくにしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

☆ 13 ページ (クリーブ現象)

● 後退するときには

車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

急な坂道での発進

セレクトレバーの位置をメーター内のセレクトインジケータで確認し

- ① ハンドブレーキをかけたままブレーキペダルを離し
- ② アクセルペダルをゆつくり踏んで、
- ③ 車が動き出す感覚を確認しながら
- ④ ハンドブレーキをゆつくりと解除して発進します。

■ 走 行



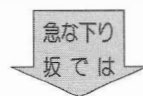
Dレンジで走行します。
アクセルとブレーキの操作
だけで自動的に変速され走
行できます。



アクセルペダルをいっぱい
まで踏み込みます。キック
ダウンして急加速できま
す。☆13ページ(キック
ダウン)



エンジンブレーキを併用し
てください。☆18ページ
(エンジンブレーキに
ついて)



「2」または「1」レンジに入
れます。さらに強いエンジ
ンブレーキがかかります。

⚠ 警告

- 走行中はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 走行中セレクトレバーに手を掛けたままにしないでください。他のポジションに入り、エンジンブレーキが効いたりし、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- 高速走行中はセレクトレバーを「1」または「2」に入れないでください。エンジンが回転し過ぎるとエンジン破損につながる場合があります。

アドバイス

- 急発進急加速等急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 十分に暖機を行わずに走行を始めるとアクセル操作にエンジン回転が追従しきれない場合があります。

■ 停車

手順1

走行レンジのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。

⚠ 注意

エンジン始動直後やエアコン作動時などはアイドリング回転が高くなり、クリーブ現象が強くなります。とくにしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

手順2

必要に応じてハンドブレーキを引きます。

手順3

長時間、停車するときはNまたはPレンジにし、ハンドブレーキを引きます。

⚠ 注意

空吹かしをしないでください

- P・Nレンジ以外に入っているとかわぬ急発進の原因となります。
- エンジンをかけ、停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でDレンジ以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。
- 急な上り坂での停車はクリーブ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、ハンドブレーキをかけてください。
- セレクトレバーがDレンジ以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリーブ現象が強まります。ブレーキペダルを特にしっかりと踏み込んでください。

■ 駐 車

手順1

車を完全に止めます。

手順2

ブレーキペダルを踏んだまま

手順3

ハンドブレーキをしっかりと引きます。

手順4

セレクトレバーを[P]レンジに入れます。

手順5

エンジンを止めます。

☆21ページ
(駐停車について)

⚠ 注意

- エンジンをかけたままにしておくと、万一セレクトレバーが「R」以外に入っていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進するおそれがあります。
- 車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。トランスミッション破損の原因となります。

4WD車の運転

4WD車は、エンジンの動力を4輪すべてに伝え、ラフロード(悪路、砂地、泥地)や急坂などでたのもしい走りを発揮します。サンバーには2つのタイプの4WDシステムがあります。お客様の車の4WDシステムを十分理解してご使用ください。

(1)セレクトイブ4WD

(2)フルタイム4WD

セレクトイブ4WD

必要に応じて4輪駆動に選択できる4WDです。通常は2WDで走行し、悪路、雪道、ぬれた路面の高速道路、山岳走行のときに4WDに切り替えます。

4輪駆動にすると前後輪が直結になり、前後輪に等分に駆動力が配分されます。

⚠注意

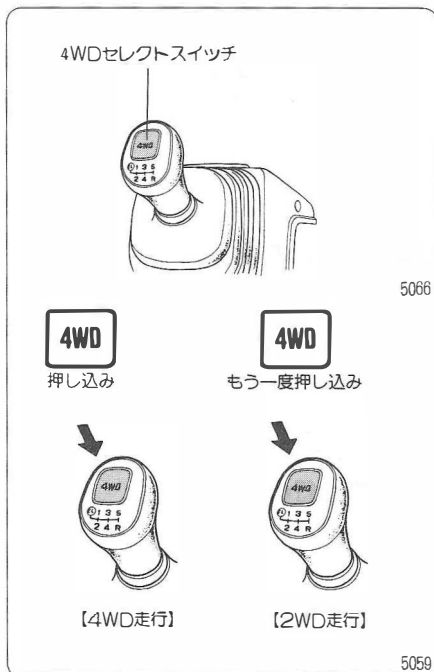
4WDへの切り替えは

- タイヤが空転しているときは絶対に切り替えないでください。大きな力がクラッチ系統や駆動系に加わり、悪影響を与えます。
- 切り替えは直進時にクラッチペダルを踏まないで、アクセルペダルを戻してからスイッチを押すと、スムーズに切り替わります。

走行するときは

- 4WDにすると前後輪が直結になり、等分に駆動力が配分されます。同時に、直結状態のためタイトコーナブレーキング現象が発生しますので、取り扱いには十分ご注意ください。

■2WD→4WD走行の切り替え——
チェンジレバーのノブ中央の「4WDセレクトスイッチ」で切り替えます。エンジンが回っていれば、いつでも切り替えられます。



●4WD走行にすると

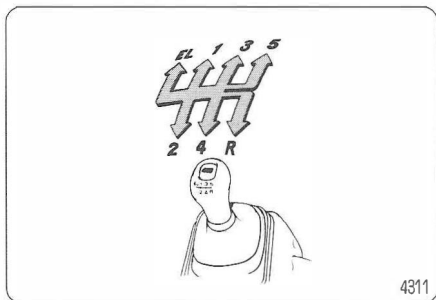
スイッチを押し込みます。スイッチ内部では押し込んだ位置に保持され(表面のカバーはスイッチ押し込み後、元の位置に戻ります)、同時にメーター内の「4WDセレクトインジケータ」が点灯します。

●2WD走行に戻ると

スイッチをもう一度押し込みます。スイッチは元に戻り、「4WDセレクトインジケータ」も消灯します。

■4WD-ELレンジへの切り替え—

砂地、悪路、急坂路などとくに大きな駆動力を必要とする場合に切り替えます。



●2WD走行のとき

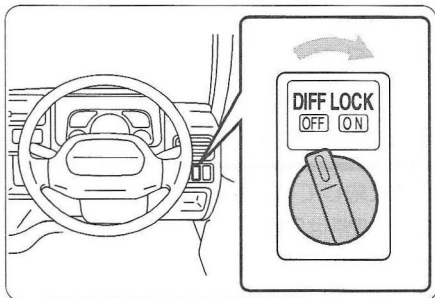
ELレンジに入れると自動的に4WD-EL走行に切り替わり、同時にメーター内の「4WDセレクトインジケーター」も点灯します。ELレンジ以外にすると2WD走行になり、「4WDセレクトインジケーター」も消灯します。

●4WD走行のとき

ELレンジ以外にしても4WDのままです。

■リヤデフロック(JA車) —

積雪地、砂地、ぬかるみなどでタイヤが空転して動けなくなったとき、駆動力を左右タイヤに等しく伝達して脱出しやすくする装置です。チェンジレバーがELかR（後退）の位置でのみ作動します。



●デフロックの切り替え

- ①エンジンが回っているとき、チェンジレバーをELかRにします。
- ②デフロックスイッチを「ON」にします。
- ③デフロック状態になると、メーター内の表示灯が点灯します。

●解除するとき

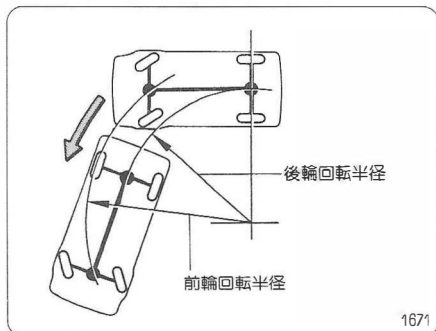
- ①デフロックスイッチを「OFF」にします。
- ②デフロックが解除されると、メーター内の表示灯も消灯します。



使用するとき

- 舗装路では使用しないでください。タイヤの摩耗を防ぐためです。
- タイヤの回転が止まってからデフロックスイッチを操作してください。変速機を傷めます。
- デフロックスイッチを操作しても切り替わらないときは、アクセルペダルを軽く踏むなどしてタイヤを少し回転させてください。
- ゆかるみなどからの脱出後は、デフロックスイッチをOFFにしてください。切り替え遅れが発生する場合がありますが異常ではありません。

■タイトコーナブレーキング現象について



4WD走行中に乾いた舗装路の急カーブを曲がろうとすると、ブレーキをかけたような状態になることがあります。この現象をタイトコーナブレーキング現象といいます。

これは、前後タイヤの回転差をプロペラシャフトで強制的に抑えるために起こる現象で、滑りやすい路面では前後いずれかのタイヤがスリップするので、ほとんど発生しません。

●「タイトコーナブレーキング現象」を避けるために

- 急カーブを走っているときにスイッチを操作しても4WD→2WDの切り替えができません。
この場合は、直進走行すると切り替わります。
- 4WD走行で車庫入れや急ハンドルを切って走行しないでください。大きな力がクラッチ系統や駆動系統に加わり、悪影響を与えます。
- 急加速中や急カーブを走っているとき切り替え操作をすると、切り替え遅れや軽いショックを感じます。
これは、切り替えクラッチに加わっている力が解除されるために生じるもので異常ではありません。
- 同じ理由で、前後タイヤのサイズが違う場合も切り替え遅れや切り替えショックが発生します。異なったサイズのタイヤは絶対に使用しないでください。
また、定期的にタイヤ空気圧を点検してください。
- タイヤチェーンを装着したときは4輪駆動が解除しにくくなることがあります。
この場合は、スイッチ操作後少し走ると解除します。

フルタイム4WD

ビスカスカップリング式4WD機構を採用していますので、前後輪に回転差が生じたとき適正に駆動力が配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で威力を発揮します。

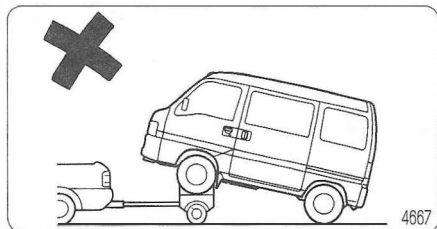
■けん引するときの注意

前輪(後輪)が回転すると後輪(前輪)が回さるため、けん引時は注意してください。



注意

けん引のとき



前輪だけを上げたけん引は絶対にしないでください。飛び出す原因となり危険です。また、ビスカスカップリングの劣化の原因にもなります。

☆190ページ (けん引)

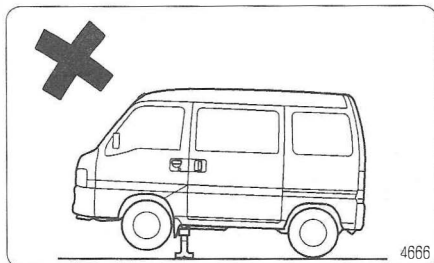
●整備時の注意

常時4輪に駆動力が伝達されるため整備時などには注意してください。



注意

整備のとき



前輪または後輪だけを回転させることは絶対しないでください。車が飛び出し非常に危険です。

4WD車を使用するとき

■万能車ではありません

タイヤが沈み込むような深い砂地、河川、海中などに乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を急入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入ると異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。

アドバイス

過酷なオフロード走行はしないでください。

酷使による故障は

保証修理の対象になりませんのでご注意ください。

■過信は禁物

4WD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WD車よりすぐれた性能を発揮しますが急ハンドル、急ブレーキでは2WD車と差がありません。

カーブや下り坂、雪道や凍結路など滑りやすい路面は十分にスピードを落とし安全な速度で慎重に走行してください。

■雪道走行は冬用タイヤで

スタッドレスタイヤ（同一サイズ、同一銘柄）を装着してください。

一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。

またスタッドレスタイヤは一般タイヤに比べ乾燥路面においては、グリップ性能が低下します。

■タイヤチェーンは非常のときのみ後輪に

雪道走行が予測される場合、スタッドレスタイヤを用意してください。

☆206ページ（タイヤチェーンの取り扱い）

タイヤチェーンは後輪に取り付けてください。

タイヤチェーンを取り付けると前後のバランスが変わるため前輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30km/h以下）で慎重に運転してください。

■前後輪に同じタイヤを

⚠注意

次のことは必ず守ってください

- 4輪とも同一銘柄、同一サイズのタイヤを装着してください。
 - 指定空気圧を保ってください。
- #### ☆221ページ（タイヤ空気圧）
- パンクしたときはスペアタイヤと交換してください。

☆187ページ（タイヤ交換）

アンチロックブレーキシステム

ABSはブレーキ系統を電子制御し、車輪のロックを防止して滑りやすい路面の制動でも方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保しようとする装置です。

万一、異常が生じた場合は通常ブレーキとして作動します。

⚠注意

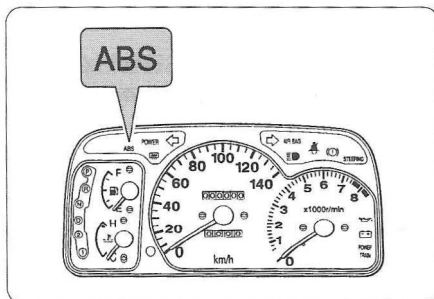
- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSが付いていない車両と同様に十分な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があり、思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転に心がけてください。
- 悪路、砂利道、新雪路などの路面ではABSのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあり、車間距離が不足していると事故につながるおそれがあります。
このような道路条件では、とくに速度を控え目にして車間距離を十分にとって運転してください。
- ABSは車速が約10km/H以下になると作動せず、通常ブレーキと同じ作動になります。

アドバイス

- ABSが作動したとき、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
これはABSが作動している状態で、正常です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

- ABS作動時、車両が停止する寸前でエンジン回転が一時的に上昇することがありますが異常ではありません。
- エンジンをかけた直後発進すると、運転席床下付近から一時的に作動音がします。これはABSの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけて最初に走り始めたときブレーキペダルを踏むタイミングによってはペダルに「コソソ」と動きを感じることがあります。これはABSの作動をチェックしている動きで、正常です。
- ABSが作動すると、ハンドル操作のフィーリングが若干変わります。

■ABS警告灯



エンジンスイッチをONにしたとき約1秒間点灯し、その後には消灯するのが正常です。

⚠ 注意

ABS警告灯が次のようになった場合はシステムの異常が考えられますので、すみやかにスバルの販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき
なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。
(ABSとしての作動はしません)

アドバイス

ABS警告灯が次のようになった場合でも正常です。

- エンジン始動時にABS警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

メモ

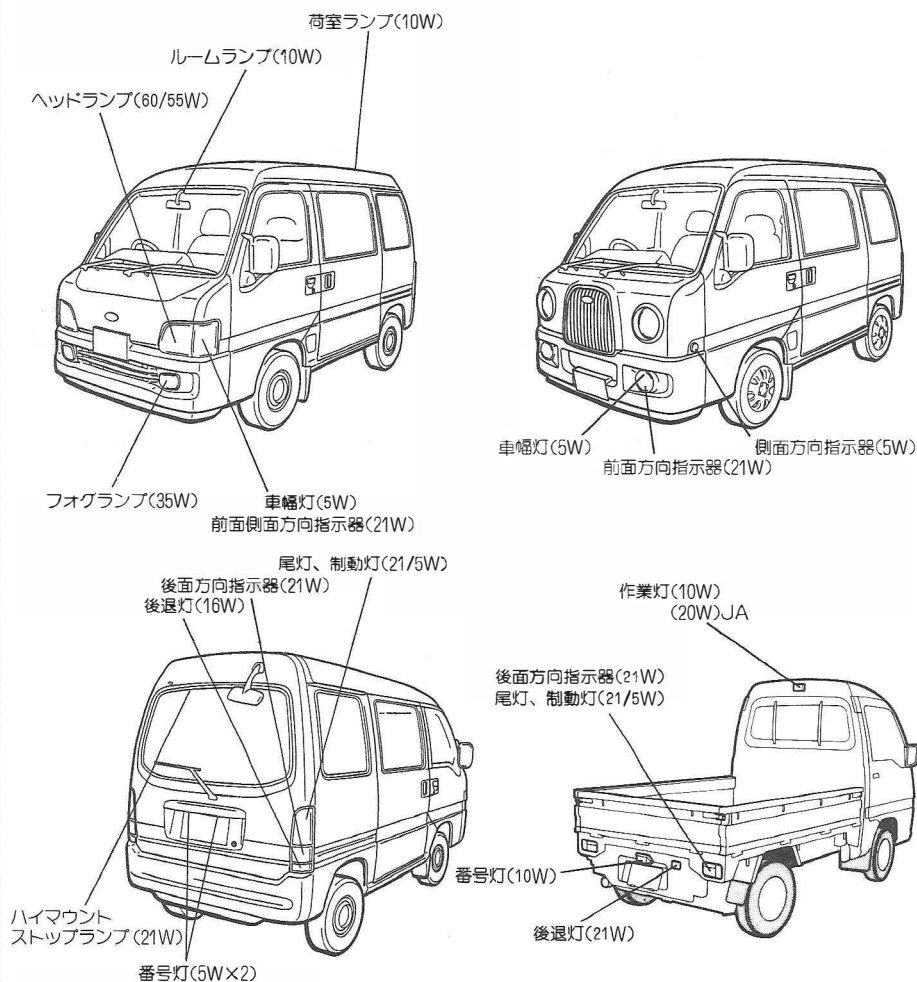
This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no text or other markings on the paper.

メモ

車の手入れ

電球（バルブ）の交換	170
ワイパーブレードの取り外し、取り付け	174
タイヤローテーション（タイヤの位置交換）.....	175
車の保管について	177
洗車とワックスがけ	178
ガラスの手入れ	179
内装の手入れ	180

■電球（バルブ）の交換

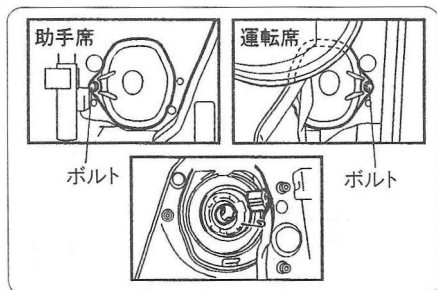


⚠注意

電球を交換するとき

- 定められたワット数のものと交換してください。
大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因になります。
- レンズをネジで締めつけるとき、締めすぎてレンズを割らないように気をつけてください。
- 取りはずした部品をなくさないようにして元どおり取り付けてください。パッキンなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドランプを交換したときは法令で定められた光軸調整が必要となります。
スバル販売店にご相談ください。

■ヘッドランプ



- (1) ボルトを外し、カバーを取り外します。
- (2) コネクターを外します。
- (3) スプリング(爪)を外し、バルブを取り外します。

⚠注意

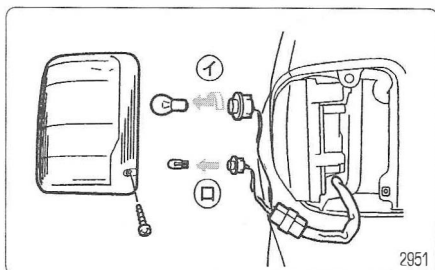
ハロゲン電球はガラス球内部の圧力が高いため、落したり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

アドバイス

ディアスワゴンにはヘッドランプのバルブのみの交換はできません。ヘッドランプ本体を交換する場合、スバル販売店にご相談ください。

■車幅灯、前面・側面方向指示灯一

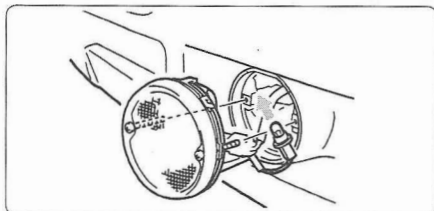
●ディアス、バン、トラック



- (1) 側面のネジ1本ははずし、ランプ本体を取りはずします。
 - (2) ソケットを左に回し、ランプ本体からはずします。
 - (3) ①の方向指示灯は電球をいっぱい押し込みながら左に回し、ソケットから外します。
- ②の車幅灯は電球をつまんで引き抜き、ソケットからはずします。

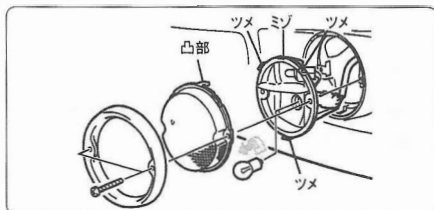
●ディアスワゴン

●車幅灯



- (1)ネジ 2 本を外しランプ本体を引き出します。
- (2)車幅灯のソケットを左に回し電球をつまんで引き抜きます。

●前面方向指示器

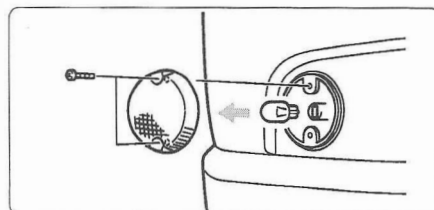


- (1)ネジ 2 本及びレンズリングを外しランプ本体を引き出します。
- (2)本体上側のツメ 2 ヶ所を外しレンズを外します。
- (3)電球をいっぱい押し込みながら左に回し、ソケットから外します。

アドバイス

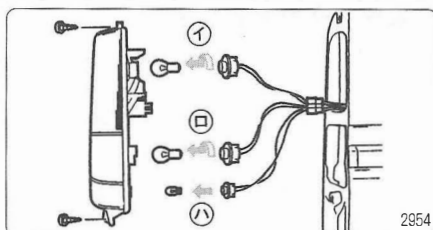
レンズ本体をとりつけるときは凸部と溝を合わせてください。

●側面方向指示器



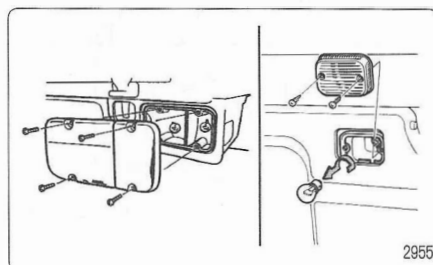
- (1)ネジ 2 本をはずし、電球をつまんで引き抜きます。

■リヤコンビネーションランプ (ディアス、ディアスワゴン、バン)



- (1)リヤゲートを開けます。
- (2)リヤバンパーを開けます。
- (3)シール/パッキン(カバーインシュレーター)を外す。
- (4)ネジ 2 本をはずしてランプ本体を取りはずします。
- (5)ソケットを左に回し、ランプ本体からはずします。
- (6)⑦の尾灯、制御灯、⑧の後面方向指示灯は電球をいっぱい押し込みながら左に回し、ソケットからはずします。①の後退灯は電球をつまんで引き抜きます。

■リヤコンビネーションランプ (トラック、パネルバン)



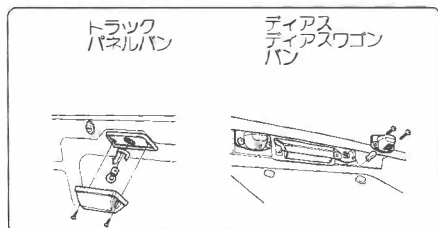
- (1)前面のネジ 4 本をはずし、レンズを取ります。
- ※後面方向指示灯のみの交換は車両外側のレンズ(ネジ 2 本)を外すことで交換できます。

- (2)電球をいっぱい押し込みながら左に回し、ソケットからはずします。
- (3)後退灯も同様にはずします。

アドバイス

レンズをつけるとき、ランプの上下を逆に取りつけないよう気をつけてください。
パッキンに水抜き穴のついている方が下側です。

■番号灯



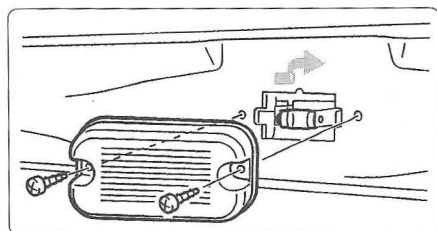
●トラック、パネルパン

- (1)前面のネジ2本をはずし、レンズカバーを取ります。
- (2)電球をいっぱい押し込みながら左に回し、ソケットからはずします。

●ディアス、ディアスワゴン、パン

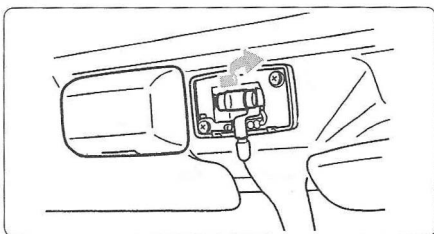
- (1)前面のネジを2本はずし、レンズを取ります。
- (2)電球をつまんで引き抜き、ソケットからはずします。

■作業灯(トラック)



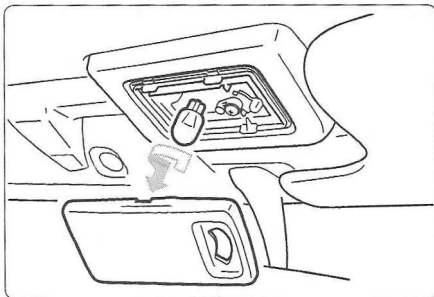
- (1)前面のネジ2本をはずし、レンズを取ります。
- (2)電球をつまんで引き抜きます。

■ルームランプ、荷室ランプ



- (1)レンズの縁をこじってはずします。
- (2)電球をスイッチと反対方向に押しつけ、手前に引いてはずします。

■ルームランプ

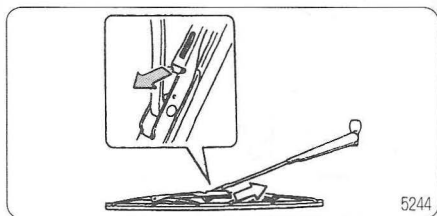


- (1)レンズの切りかきに⊖ドライバーを入れ外します。
- (2)電球を引き抜きます。

■ハイマウントストップランプ(室内)

- (1)リヤゲートを開けます。
- (2)ネジ2本をはずし、カバーを取ります。
- (3)電球をいっぱい押し込みながら左に回し、ソケットからはずします。

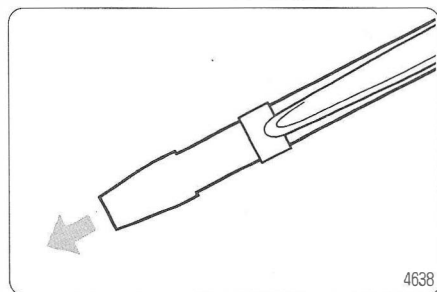
ワイパーブレードの取り外し、取り付け(フロント)



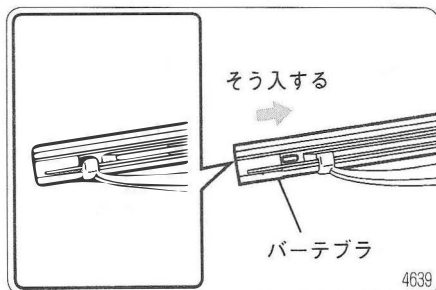
ワイパーアームについている爪を押し下げながらブレードを矢印の方向に引いてはずしてください。

取り付けるときは矢印の方向と逆に押し込みます。

■ブレードラバーの交換方法



(1)古いブレードラバーを引き抜きます。



(2)新しいブレードラバーをそう入します。

このとき、ラバーのミゾを間違えないようにそう入してください。

(3)確実に装着されているか、確認してからワイパーを使用してください。

間違った状態で装着されていると、ガラスに傷をつけることがあります。

アドバイス

ブレードのラバーは交換部品です。

ブレードのラバーは交換部品です。いたんだままのブレードラバーを使い続けると、ガラスにキズをつけることがあります。拭き性能が落ちてきたり、スジつきが目立つようになったら早めに交換してください。

ブレードラバーを交換するとき

●それぞれのラバーにはさみ込まれているパーテブラをはずさないようにしてください。

運転席側：425mm

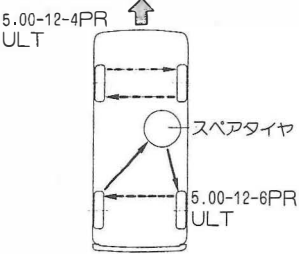
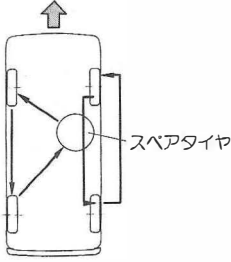
助手席側：425mm

リヤワイパー：400mm

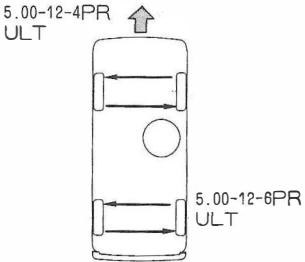
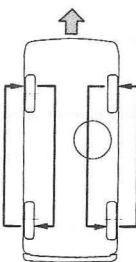
タイヤローテーション

■タイヤの位置交換

●5本（スペアタイヤも使って）で行うとき

パイアスタイヤ(トラック、バン、パネルバン)	ラジアルタイヤ
	

●4本（スペアタイヤを使わない）で行うとき

パイアスタイヤ(トラック、バン、パネルバン)	ラジアルタイヤ
	

- ときどき位置を入れ替えると、タイヤは長持ちします。5000kmを基準に位置を入れ替えてください。
- 5.00-12のタイヤ装着車はリヤに4PRのタイヤを装着しないでください。

■タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧はときどき点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると重大な故障につながるおそれがあります。空気圧が不足している場合は、すみやかに正規な空気圧にしてください。空気圧は運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」ラベルまたは221ページの実サービスデータで正しい空気圧を確認の上、調整してください。調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。

⚠注意

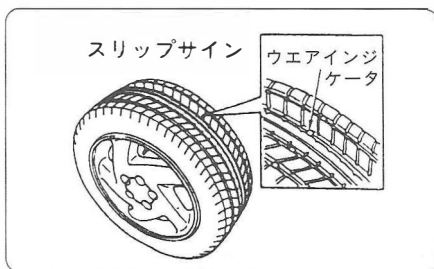
- 指定サイズおよび同一種類以外のタイヤ・ホイールは絶対に取り付けしないでください。不適正なタイヤを取り付けると安全性が損なわれ思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

前・後輪でタイヤ仕様の異なる車の タイヤローテーション

- スペアタイヤは後輪と同一仕様です。
- 前輪がパンクしたとき、パンク修理が終ったタイヤは必ず元の前輪に戻してください。

■タイヤ摩耗限界表示 (ウエアインジケータ)



ウエアインジケータが現れたらタイヤを交換してください。

ウエアインジケータは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。

⚠注意

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。
- 指定サイズおよび同一種類以外のタイヤ・ホイールは絶対に取り付けしないでください。不適正なタイヤを取り付けると安全性が損なわれ思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆187ページ (タイヤ交換)

車の保管について

■車の外観を傷めるもの

車の外観を傷めるものにはたくさんあります。

- 塩分
- ばい煙
- 樹液
- 虫や鳥のふん
- 鉄粉や砂じん
- 農薬などの化学薬品

これらから車を守り、いつまでも美しく保つため、保管のしかたも重要です。

保管するときは、

- 直射日光が当たらない風通しのよい車庫に保管します。
- 鉄道線路のわきや農薬などの化学薬品が飛散する場所、木のそばをさけます。
- いたずらされにくい場所を選びます。
- 防水性・通気性のよいボディカバーをかけます。

■ボディカバーについて

- スバル純正品の中から車に合ったものを選んでください。
- ときどき水洗いして砂ほこりなどを取り去ってください。
- 風で飛ばされないようしっかりかけてください。
- 雨の後、ボディカバーを外し、風通しをよくして車とボディカバーを乾かします。

アドバイス

夏場の屋外駐車は

車内温度が80℃にもなります。可燃物（マツチなど）は置かないでください。また、計器盤の上、シートの上にゴム類を置かないでください。変色することがあります。

長時間保管する場合は

ハンドブレーキを引かずに1速かR（オートマチック車はPレンジ）に入れ、輪止めをして車が動かないようにしてください。

また、ワイパーを立てておいてください。ゴムのくせ付きや汚れの付着を防止できません。

洗車とワックスがけ

■洗車のしかた

(1)水を十分にかけながら洗車します。

- ボディは柔らかいスポンジやセーム皮を使って洗います。
- 足まわり、フェンダー内側、下まわりなどを洗うときはゴム手袋などを着用し、ハンドブラシなどを使って洗います。泥などをよく落としてください。

(2)きれいに水を拭き取ります。



注意

ブレーキのきき具合を確かめてください。

洗車後はブレーキの効きが悪くなることがあります。走り出す前にブレーキの効き具合を確かめてください。

自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを内側にたたんでください。
- リヤスポイラー付車を自動洗車機で洗車する場合、上面ブラシやエアブローダクトを使用しないでください。上面ブラシやエアブローダクトがリヤスポイラーに引っかかり、リヤスポイラーを破損することがあります。

温水洗車機を使うとき

- 洗車ノズルと車体との距離を十分はなしてください。(30cm以上)
- 同じ場所を連続して洗淨しないでください。
- 汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。コイン洗車機などの温水洗車機には機種によっては高温・高圧になるものがあるので、モールなど樹脂部分の変形、破損や室内に水が入ることがあります。

アドバイス

アルミホイールは

セーム皮、スポンジなど柔らかいもので洗います。汚れがひどいときは、中性洗剤を使って洗い、ワックスがけをしてください。

リヤスポイラーは

リヤスポイラーはABS樹脂製ですので強くたたいたり、こすったりしますとキズの原因となります。

水をかけるとき

- エンジンルーム内には水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品の故障などの原因になることがあります。
- 洗車時まれにヘッドランプの内面に曇りが発生する場合がありますが、これはレンズ面が急冷されたことによる結露現象です。ランプ内に水が入ったものではありません。曇りはランプを点灯するか、あるいはしばらく放置することにより消えますので、そのままご使用ください。

■ワックスがけ

洗車のあと、ボディの温度が体温以下のとき、ワックスがけをします。

アドバイス

ワックス、コンパウンドについて

- お使いになるワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

目的に合ったワックスを使います

スバル純正品の中から目的に合ったものを選んでください。

- つや出し用：固形と半ねりタイプがあります。
- コンパウンド入り：汚れ、シミなどを落とすときに使います。

ガラスの手入れ

油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗淨剤を使ってきれいに落としてください。

アドバイス

ガラス洗淨剤は

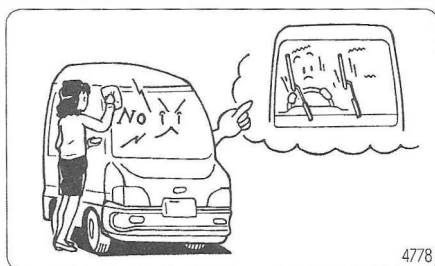
次のスバル純正品を使用してください。

- クリーンオールV1
- ガラスクリーナー

ガラスにはワックスをつけないでください

- フロントガラスにワックスが付着したり、窓ガラス用水はじき剤を使用しますと、ワイパーのビブリの原因になります。
- フロントガラスにはワックスが付かないよう注意してください。ガラスに被膜、油膜が付着していると、ワイパーの拭きが悪くなると同時に夜間の雨降りの場合、対向車のヘッドランプでガラスがざらざら光り、たいへん危険です。

このようなときは、油膜落とし専用のガラスクリーナーで除去してください。



4778

リヤガラスを室内から拭くとき

- ガラス洗淨剤は使わないでください。
- やわらかい布などで軽く、熱線に沿って拭いてください。リヤウインドウデフォッガーの熱線を傷めることがあります。

内装の手入れ

室内は次のようにして、いつも清潔に保ってください。

- 室内の砂ほこり、ゴミなどは掃除機で吸い取ります。
- ゴム製床マットは中性洗剤を使用し、ブラシで洗ってください。
洗った後はよく乾かしてから正しく取りつけてください。
- 内張り、計器盤などの汚れ、ホコリは布で拭き取ってください。
- 室内の臭いは、消臭剤を使って消します。
- シート地、カーペット類の汚れ、シミは家庭用品、衣類に準じた方法で取り除いてください。
- シートカバーは清潔なものを使用してください。汚れたら外して洗濯してください。
- 室内(フロアも含む)の手入は上記内容にもとづいておこなってください。
けして室内(フロアも含む)を水洗いしないでください。室内の電装品に水がかかると故障の原因となる恐れがあります。

メモ

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

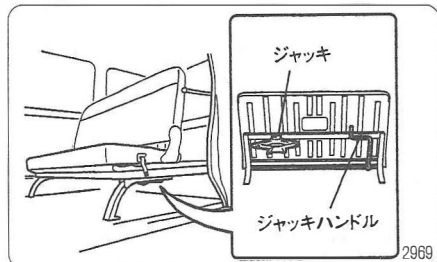
万のとき

ジャッキ・スペアタイヤ・工具	184
ジャッキ・ジャッキハンドル	184
スペアタイヤ	184
工具	186
 タイヤ交換ーパンクしたときの処置	187
準備	187
タイヤの交換	187
パンクしたタイヤの格納	189
 けん引のとき	190
けん引フック	190
けん引方法	191
 ヒューズの交換	192
ヒューズの位置	192
 オーバーヒートしたとき	194
踏切で動けなくなったとき	195
路上で動けなくなったとき	195
発炎筒	196
バッテリーが上がったとき	196

ジャッキ・スペアタイヤ・工具

■ジャッキ・ジャッキハンドル

●ディアス、ディアスワゴン、バン

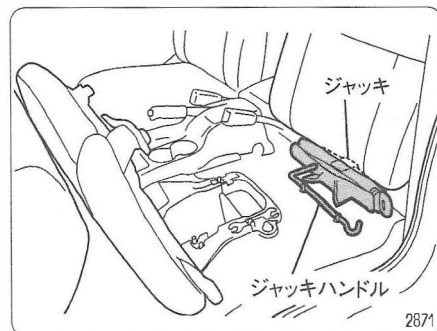


ジャッキはリヤシート下のデッキ裏側に取
りつけられています。

取り出すときは、左側スライドドアを開
け、ジャッキを縮めて取り出します。

ジャッキハンドルは、リヤシートのデッキ
裏側に取っつけられています。

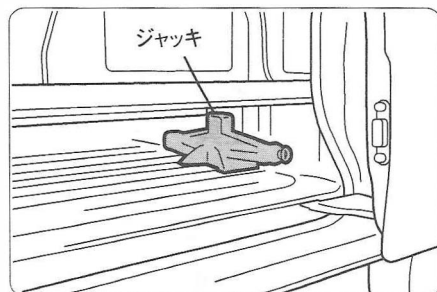
●トラック、パネルバン



ジャッキ、ジャッキハンドル共に助手席
シートクッションの下に取りつけられてい
ます。

取り出すときは、助手席シートクッション
を起こし、ジャッキを縮めて取り出します。
ジャッキハンドルはホルダーから外しま
す。

●バン 2 シーター



ジャッキはデッキ下の左側フロアに取付け
てあります。ジャッキハンドルはデッキ裏
側にあります。

アドバイス

無理に扱げないでください

ジャッキを取りつけるとき、ドライバーな
どで無理に扱げないください。

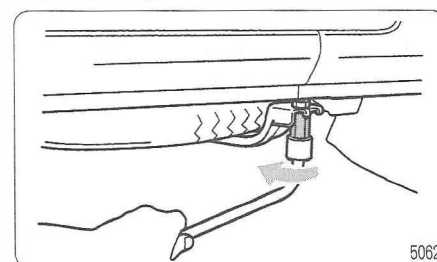
ときどきジャッキを点検してくださ い

ネジ部のグリースが切れていたら、うすく
塗っておいてください。

■スペアタイヤ

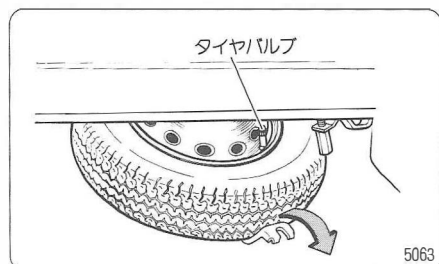
●ディアス、ディアスワゴン、バン 車体右側の床下にあります。

●取りはずし



(1)袋ナットをホイールナットレンチでゆる
めてからホルダーを持ち上げ、フックを
溝からはずします。

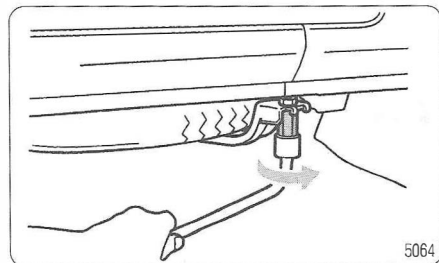
(2)ホルダーを下に降ろします。



(3)スペアタイヤを取り出します。

●取り付け

(1)タイヤバルブ側を上に向けてホルダーに入れます。



(2)ホルダーを持ち上げてフックを溝の奥まで入れ、袋ナットをホイールナットレンチで締め付けます。

⚠注意

十分に確認してください

スペアタイヤを脱着したとき、万一、ゆるみなどで取り付けが不完全な状態になっていると、走行中脱落して思わぬ事故となり、危険です。

取り付け後は、取り付け状態を十分に確認してください。

アドバイス

ゆるみ、がたがあるときは

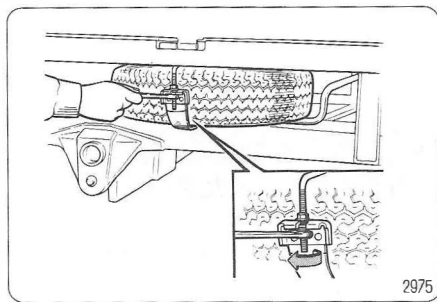
取り付け部の変形などを確認し、異常がなければ調整ナットを回して上にあげ、さらに袋ナットを締め付けます。

最後に調整ナットを締め付けます。

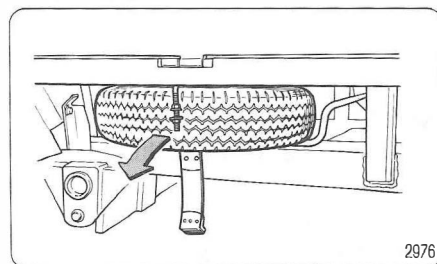
●トラック、パネルバン

右側のフレームと荷台床下の間にあります。

●取りはずし

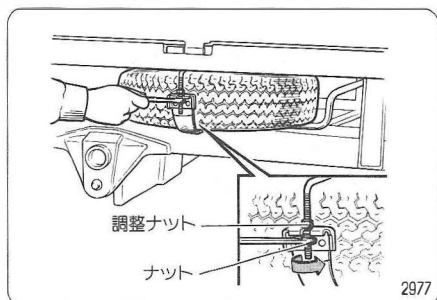


(1)ナットをスパナでゆるめてからスペアタイヤを手で支え、フックをバンドの溝からはずします。



(2)バンドをはずし、スペアタイヤを取り出します。

●取り付け



- (1) タイヤ/バルブ側を上に向け、ホルダーに確実に入れます。
- (2) タイヤを手で支えながらフックをバンドの溝の奥まで入れ、スパナでナットを締めつけます。

⚠ 注意

十分に確認してください

スペアタイヤを脱着したとき、万一、ゆるみなどで取り付けが不完全な状態になっていると、走行中脱落して思わぬ事故となり、危険です。

取り付け後は、取り付け状態を十分に確認してください。

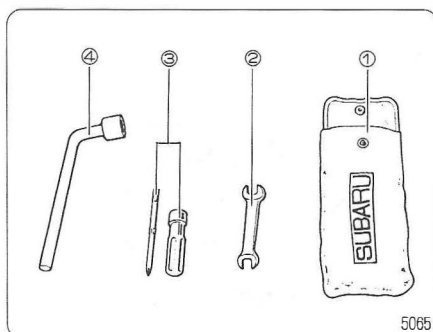
アドバイス

ゆるみ、がたがあるときは

取り付け部の変形などを確認し、異常がなければ調整ナットを回して上にあげ、さらにナットを締めつけます。

最後に調整ナットを締め付けます。

■工具



工具は、グローブボックスまたは助手席下の工具収納スペースなど決まった場所に置いておく、と、万一のときすぐ取り出せます。この他にも必要と思われる工具もそろえておく、と、点検や手入れのとき役立ちます。

●搭載工具

工 具 名 称	
①	ツールパック
②	スパナ (10×12)
③	ドライバー (プラス・マイナス兼用)
④	ホイールナット レンチ

タイヤ交換

パンクしたときの処置

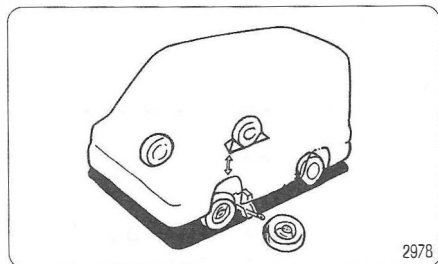
■準備

- (1)交通のじやまにならず、安全に作業ができる場所に車を止めます。

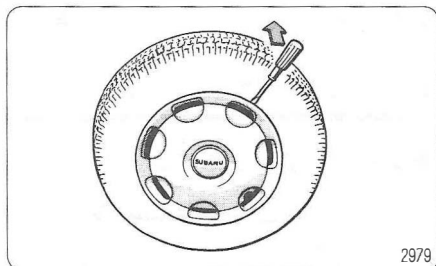
△注意

安全な場所を選んでください
地面が平らで硬く、車が安定する場所を選んで止めてください。

- (2)非常点滅灯を点滅させ、人や物を降ろし、停止表示板を使用します。
(3)ハンドブレーキレバーを引きます。



- (4)車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めをします。
(5)ジャッキ・ジャッキハンドル・スペアタイヤ、工具を取り出します。
☆184ページ
(ジャッキ・スペアタイヤ・工具)
(6)スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。



- (7)フルホイールキャップ装着車はホイールキャップをはずします。ホイールキャップ外周にドライバーを差し込み、タイヤ側にこじつてははずします。

■タイヤの交換

△警告

ジャッキを使用しているとき

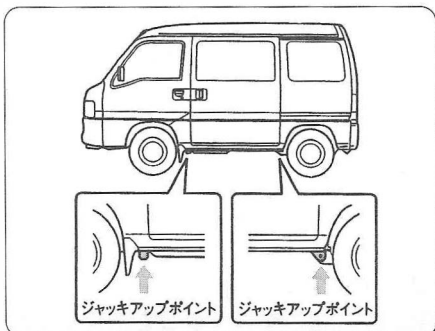
- エンジンは必ず切ってください。重大な事故につながるおそれがあります。
- 車の中に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキがはずれることがあり危険です。
- 車の下にもぐり込まないでください。万一、ジャッキがはずれると危険です。

△注意

- ジャッキは車載されたものを使い、他車のジャッキは使わないでください。
- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- 使用前にハンドブレーキを引く、オートマチック車はセレクトレバーを「P」に、マニュアル車はシフトレバーを「R」にしてください。

- 輻止めをしておいてください。動き出すことがあります。
- 荷物や同乗者を降ろしてください。

● ジャッキアップポイント

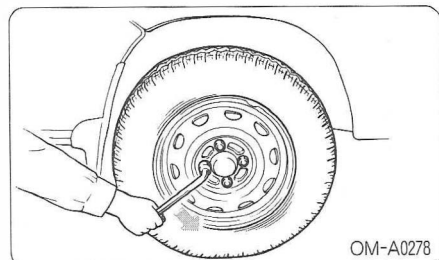


- (1) 交換するタイヤに近いジャッキアップポイントにジャッキをセットし、車体に当たるまで手で回して上げます。

⚠ 注意

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。

セット位置以外にかかっていると車両をキズ付けたり、ジャッキが倒れてケガをするおそれがあります。



- (2) ホイールナットレンチを使い、ホイールナット全てを1回転程度ゆるめめます。

- (3) ジャッキハンドルを使い、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。

⚠ 注意

車体を上げすぎないでください。必要以上に車体を高く上げると不安定になり、ジャッキが外れ思わぬけがをすることがあります。

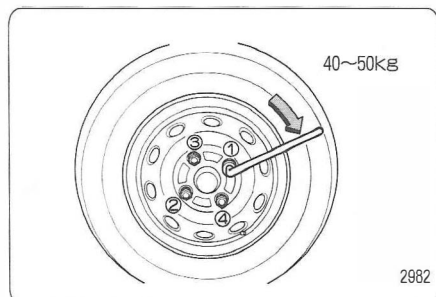
- (4) ホイールナットをはずします。

アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。

下に置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

- (5) タイヤを取り替えます。
 (6) ホイールナットを手でいっぱい回します。ホイールが動かない程度までホイールナットを仮締めします。
 (7) ジャッキを降ろします。



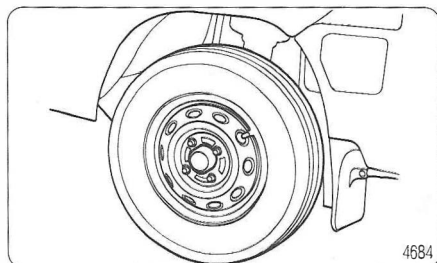
- (8) 図の順番に2, 3回にわけてホイールナットを締め付けます。

レンチの柄の先端 にかける力	締め付トルク (参考)
40~50kg	8~10kg-m

⚠ 注意

ホイールナットを締め付けるとき

- ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイール座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにしてください。油がついていると締め過ぎの原因になります。



(9)フルホイールキャップのバルブ穴とタイヤのバルブを合わせ、ホイールキャップ外周を叩いて、取り付けます。(フルホイールキャップ付き車)

(10)センターキャップは、パンクしたタイヤの裏側から叩いてはまずか、ドライバーでこじってはまずし、手で叩いてはめまず。

(センターキャップ付き車)

アドバイス

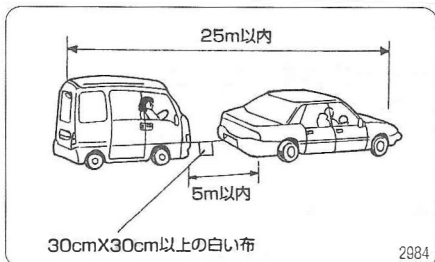
タイヤ交換をしたとき

- 取りつけた後、1000km程度走行したら、もう一度規定の力で締め直してください。
- 車体に振動などがでたらスバルの販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。

■パンクしたタイヤの格納

スペアタイヤが格納されていた場所にします。

けん引のとき



車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。

出先では、メンテナンスノート巻末の「スバルサービス網一覧」を参考に、スバルの特約店、販売店、JAFに依頼してください。

注意

次の車はけん引しないでください

- 自車より重い車
- 溝に落ちた車の引き上げ
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。

けん引する前に

トランスミッションオイル量を点検し、不足しているときは上限付近まで補充してください。

けん引フック

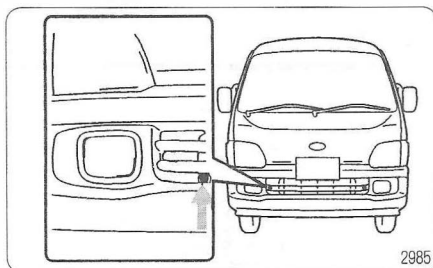
- 指定のフックにソフトロープをかけてください。
- バンパーフェースの傷つきを確実に防止するため、ソフトロープとバンパーフェースの間にウエスなどをはさむか、バンパーフェースとロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけ、保護する処置を合わせて実施してください。

注意

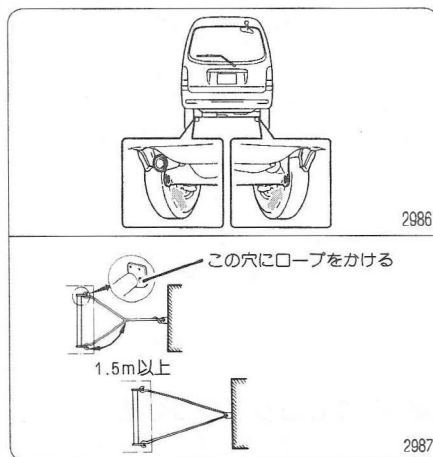
スタビライザ等、けん引フック以外にソフトロープをかけ、けん引することはできません。

故障の原因となるおそれがあります。

フロント



リヤ



エンジンクロスメンバー両端にあるブラケットの穴を利用してけん引します。

図のように、必ず左右両側の穴を利用してください。

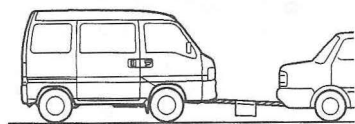
⚠注意

けん引するとき

- マニュアル車は「ニュートラル」、オートマチック車は「N」レンジにします。
- 長い坂を下るときはレッカー車にけん引してもらってください。ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。
- ロープに衝撃を与えないように運転してください。
- エンジンスイッチをACCにしてください。LOCKではハンドルが固定され危険です。
- ABS付き車は、エンジンスイッチONで前輪持ち上げけん引を行った場合、ABS警告灯が点灯する場合がありますが、これは、前後の車輪速度が通常状態でないことを検出するため、異常ではありません。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。十分注意して操作してください。
 - ・ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
 - ・パワーステアリングが働かず、ハンドルが重くなります。
- ハンドブレーキを下まで確実に戻してください。

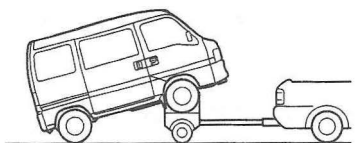
■けん引方法

条件1：ロープけん引



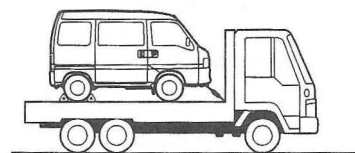
2988

条件2：前輪持ち上げけん引



2989

条件3：車載



2990

車種 方法	2WD車		4WD車		
	マニュアル	オートマチック	セレクトタイプ	フルタイム	オートマチック
ロープけん引	可	条件1	条件2	条件3	条件3
前輪持ち上げ	可	条件1	条件2	不可	不可
車載	可	可	可	可	可

次ページの条件を参照してください。

⚠ 注意

けん引するときの走行条件

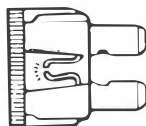
- 条件1：車載を原則とします。やむをえず、ロープけん引または前輪持ち上げけん引する場合は、走行距離30km以内、速度30km/h以下で行ってください。走行距離、速度ともに条件を越えると、トランスミッションが損傷することがあります。
- 条件2：4輪駆動を解除して可能です。4輪駆動を解除しないでけん引すると、タイトコーナブレーキング現象が発生したり、車がとび出すことがあります。
- 条件3：車載を原則とします。やむをえず、ロープけん引する場合は、走行距離30km以内、速度30km/h以下で行ってください。走行距離、速度ともに条件を越えると、トランスミッション内部と4WD機構部分等が損傷することがあります。

ヒューズ交換

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が働かないときはヒューズ切れが考えられます。

アドバイス

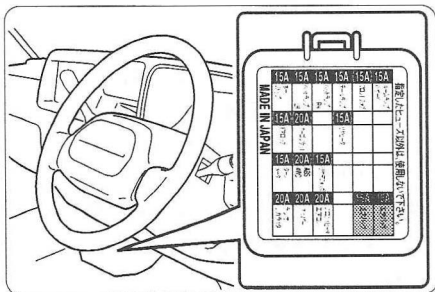
ヒューズを点検してください



切れた状態

切れているときは同じ容量のスペアヒューズと交換してください。

■ヒューズボックスの位置



計器盤下のペダル取付部左に取りつけてあります。

爪(上部)を押してカバーを外します。

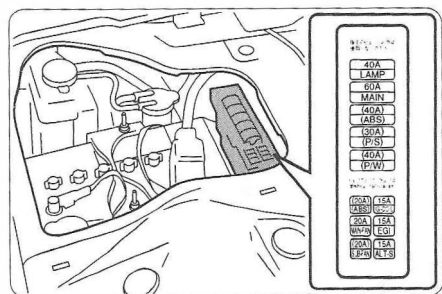
■ヒューズの交換のしかた



ヒューズプレーもカバーの裏面に付いてます。

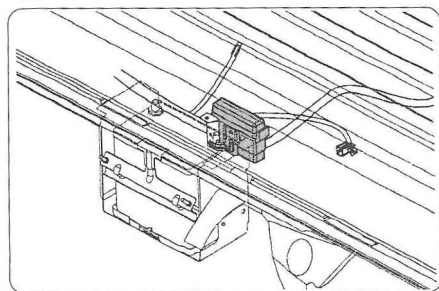
メインヒューズ (60A、40A、30A (大きいタイプ)) が切れている場合は、すみやかに点検整備を受けてください。

●**ディアス、ディアスワゴン、バン**
助手席のシートフッションの下にあります。
助手席をはね上げ、カバーをはずし点検し
ます。



●トラック、パネルバン

車体左側のバッテリー裏にあります。



メインヒューズボックス内にヒューズ（20A（小さいタイプ）、15A）があります。このヒューズが切れたときは室内のヒューズボックス用スペアヒューズを使用してください。交換後はすみやかに点検整備を受けてください。

ヒューズ交換するときは

- 必ずエンジンスイッチをLOCK位置にしてください。ONのままですと、ショートしたりして危険です。
- 指定容量のものと交換してください。それ以外のヒューズを使うと故障につながります。
- 針金や紙銀などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。
- スペアヒューズを取りつける前に切れた原因を調べてください。交換してもすぐ切れてしまうときは、点検整備を受けてください。

スペアヒューズを使ったら

早めに補充しておいてください。

オーバーヒートしたとき

⚠ 警告

● ラジエーター付近から水もれ、水蒸気の吹き出しがあるとき

蒸気が出なくなるまで助手席シート下のサービスホールを開けないでください。高温になっているためやけどなど重大な傷害を受けるおそれがあります。

● ラジエーターが熱いとき

ラジエーターキャップを開けないでください。

ラジエーターが熱いときラジエーターキャップを開けると蒸気や熱湯が吹き出しやけどの危険があります。

■ 車を安全な場所に止め、次の処置をします

(1) 水もれ、水蒸気の吹き出しがあるとき

- すぐにエンジンを止めてください。

車を安全な場所に止め、スバルの販売店に連絡してください。

(2) 水もれ、水蒸気の吹き出しがないとき

- エンジンをかけたままリヤのバンパーを開けて風通しをよくします。

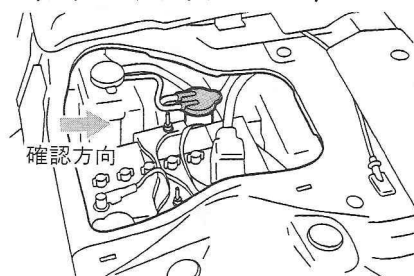
このとき、ラジエーターファンが回っていることを確かめてください。

ファンが回っていないときは、エンジンを止めてスバルの販売店に連絡してください。

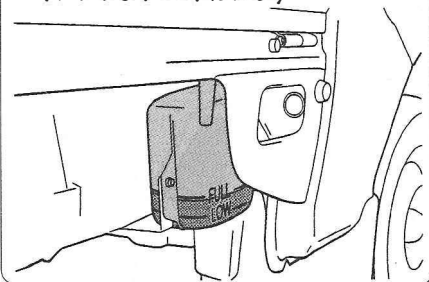
- 水温計の針が下がってきたらエンジンを止めます。

- エンジンが冷えてから冷却水量、水もれなどを確認します。
- 冷却水が不足しているときは、補給します。ラジエーター注水口の口元まで、リザーブタンクの上限(「FULL」レベルライン)まで補給してください。

〈ディアス、ディアスワゴン〉



〈トラック、パネルバン〉



踏切で動けなくなったとき



アドバイス

緊急を要するとき、脱出できないとき
次の方法で一刻も早く列車の運転士に知らせます。

同乗者は避難してください。

● **警報器のある踏切では**

警報器の柱などにある非常ボタンを押します。

● **警報器のない踏切では**

発炎筒を使い、合図します。

路上で動けなくなったとき

(1)あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。

(2)エンジンがかからないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所に移動してください。

そのときチェンジレバー、セレクトレバーは「N」にします。

アドバイス

エンジンがかからないとき、スターターを回して移動できます

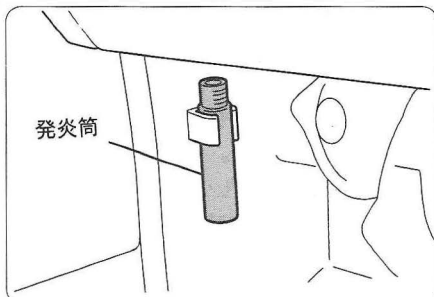
マニュアル車は次の手順で移動できます。

(オートマチック車は、この方法が使えません)

①1速か2速に入れ、クラッチペダルから足を離します。

②エンジンスイッチを「START」まで回し、スターターを断続的に作動させます。

発炎筒



グローブボックス左下のボディに取り付けてあります。

使用方法は発炎筒の外筒に書いてあります。

⚠ 警告

発炎筒を使うときは

- お子さまにさわらせてないでください。
- ガソリン、車など燃えやすい物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中では使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯を使用してください。

☆81ページ（非常点滅灯）

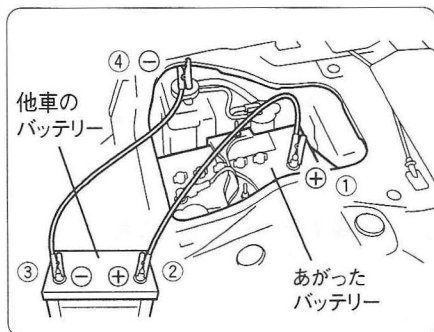
アドバイス

発炎筒はすぐに使えるようにしておいてください

- 発炎筒には有効期限が明示されています。期限切れのものは新品と交換してください。
- 使用後はすみやかに新品を備えつけてください。

バッテリーが上がったとき

ブースターケーブルを接続します。ブースターケーブルを利用して他車のバッテリーと接続し、エンジンを始動することができます。



(1) ブースターケーブルを図の番号順に接続します。

①：バッテリー上がり車の「+」端子

②：他車（電源側）の「+」端子

③：他車（電源側）の「-」端子

④：バッテリー上がり車の室内のフロアパネル

(2) 電源側の車を始動し、エンジン回転を少し高めに保っておきます。

(3) バッテリー上がり車のエンジンを始動します。

(4) ブースターケーブルを接続したときの逆の順序ではずします。

⚠ 警告

- ブースターケーブルをつなぐ前に、バッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下で充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。補充してから行なってください。

- ブースターケーブルを接続するとき、端子と一端子を絶対に接触させないでください。火花が発生しバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品をいためます。
- バッテリーに火を近づたり、ショート、スパークをさせないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、すべてのキャップをはずし、通気の良い場所で充電してください。発生したガスが充填すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目やひびに着くと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
- バッテリーの液量がバッテリーの側面に表示されている下限(LOWER LEVEL)以下で使用を続けると、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。

⚠注意

ブースターケーブルを接続するときには

- 12V/バッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子をはずさないでください。電子機器をいためます。

バッテリーが上がったときには

緊急の時以外は押し掛け、引き掛けによるエンジン始動はしないでください。触媒が過熱して焼損することがあります。(MT車)

アドバイス

バッテリーが上がったときには

上がってしまったバッテリーは、すみやかに完全充電してください。

メモ

This image shows a single page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

寒冷地での使いかた

冬に入る前の点検と準備	202
走行前の点検	203
走行前には	204
走行中には	205
駐車するときには	205
洗車するときには	206
タイヤチェーンの取り扱い	206

寒冷地での使いかた

北海道全域、東北、北陸の積雪地帯、その他山岳地帯やスキー場など局地的な厳寒地区の積雪、寒さに対する固有の使い方をまとめてあります。その他の地区でも冬の使いかたの参考にしてください。

冬に入る前の点検と準備

■冷却水の濃度点検

冷却水の濃度を50%にしてください。

■バッテリーの充電状態チェック

バッテリーの性能が低下しますので、放電気味のときは補充電をしてください。

■燃料タンクの水分除去

冬が来る前に、燃料タンク内の水分を水分除去剤で除去されることをお奨めします。

■ウォッシュ液の濃度点検

外気温に応じたウォッシュ液の濃度にししてください。

ウォッシュ液の濃度は50%にしてください。

■寒冷地用ワイパーブレードの装着

■冬用タイヤを準備します（スタッドレスタイヤ）

タイヤの種類	雪道での性能
一般タイヤ	乾いた路面で最も性能を発揮するタイヤです。雪道ではスリップしやすいため使用は避けてください。
スノータイヤ、オールシーズンタイヤ	一般タイヤに対し、積雪路や泥ぬい地など滑りやすい路面での性能を向上させたタイヤです。
スタッドレスタイヤ	スノータイヤ、オールシーズンタイヤに対し、圧雪路や凍結路での性能を向上させたタイヤです。 完全に凍結した路面ではスリップしたり、急坂を登れない場合もあります。 (この場合にはタイヤチェーンが必要です。)
スパイクタイヤ	特に凍結路で優れた性能を発揮しますが、粉塵公害防止のため生産販売されておりません。使用禁止の地区・期限が定められていますので、お客様の地域の条例にしたがってご使用ください。

雪道・凍結路を走るときは4輪とも同一銘柄、同一サイズのスタッドレスタイヤを装着してください。

■タイヤサイズに合ったタイヤチェーンの携帯

☆206ページ

(タイヤチェーンの取り扱い)

アドバイス

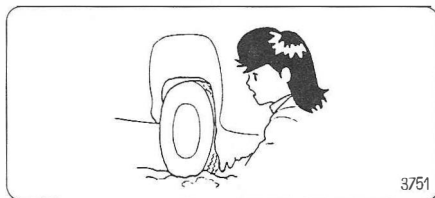
手袋や針金なども準備しましょう

タイヤチェーンを取りつけるときに着用する手袋、余ったチェーンをしぼる針金なども準備しておくことをお勧めします。

走行前の点検

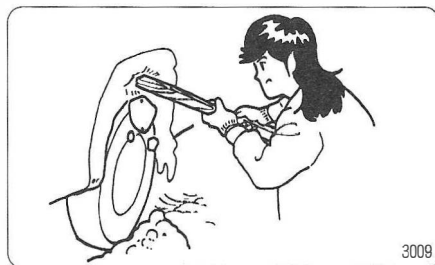
日常点検整備に次の項目を追加して点検してください。

■足まわりの点検



車の下をのぞいて足まわり（ブレーキまわり、ブレーキホース）に雪や氷のかたまりがついていないか点検してください。

雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足まわりに雪や氷が凍結し、ブレーキの効きやハンドルの切れが悪くなるときがあります。



ついている雪や氷を取り除いてください。

⚠注意

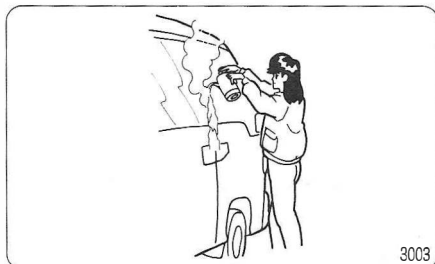
雪や氷を取り除くときは

鋭利なものや硬いものでたたいたりして車を傷つけないでください。

ABS装着車は前・後輪の4か所に車速センサー（ワイヤー）が取り付けられています。パワーステアリング車は前側右輪のホイールハウス内にモーターがあります。これらに傷をつけないようにくに気を付けてください。

走行前には

■ドアを開けるときには



ドアが凍結しているとき無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたり、き裂が発生することがあります。ぬるま湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。あとで水分を十分に拭き取ってください。

アドバイス

ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

■屋根の雪を取り除きます

屋根に積った雪を走行する前に取り除きます。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げになり、危険です。

■フロントガラス下側の雪を取り除きます

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動を続けることがあります。

■乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。ペダルを操作するとき滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスがくもりやすくなります。

■暖機運転中

- ・アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。
- ・寒冷時の暖機運転中のステアリング警告灯が点灯する場合があります。

(☆90ページ)

■ワイパーブレードがフロントガラスに貼りついていないことを確認してください

貼りついた状態でワイパーを作動させると、ワイパーブレードのゴムが切れることがあります。

アドバイス

ワイパーブレードがフロントガラスに貼りついているときは、ぬるま湯をかけるかデフロスターを使用してガラスを暖めてください。

走行中には

■控えめな運転に心がけてください——急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。

エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。

アドバイス

発進時には

雪道や凍結路など滑りやすい道では、2速ギヤの使用をお奨めします。(MT車)

■ブレーキの効きを点検してください

ブレーキまわりに雪や氷が凍結して効きが悪くなることがあります。

走行を開始するとき、車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。効きが悪い場合には、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。

ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、ただちにスバルの販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください

走行中、足まわりに雪がたまりハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。

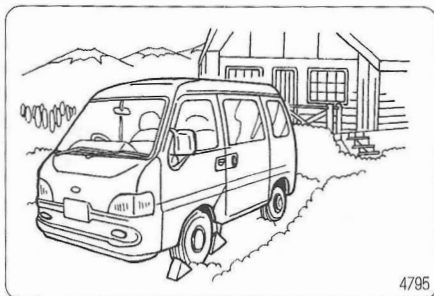
■ブレーキの操作

ブレーキペダルを踏むときは、小刻みに軽く踏み、最後にゆっくり踏み込んでください。

ABS装備車ではブレーキペダルを強く踏み続けてください。車輪がロックしないように電子制御されています。

駐車するときには

■ブレーキの凍結に気をつけてください



ハンドブレーキレバーを引いておくと、ブレーキが凍結することがあります。次の要領で駐車してください。

- マニュアル車は1速かRに入れます。
- オートマチック車は「P」に入れます。
- 輪止めをします。
車的前方を風下に向けて駐車してください。

■屋外に駐車するときは、ワイパーアームを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに貼りつくことがあります。

■車体に多量の積雪がある状態で放置しないでください。

凍結等により、車両に悪影響を受けることがあります。

洗車するときには

- 凍結防止剤を散布した道路を走ったとき



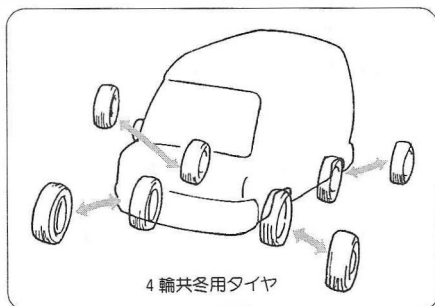
早めに下まわりを洗車してください。
放置すると塩分で腐食しやすくなります。

■洗車後の注意

洗車後、水分をよく拭き取ってください。
とくにドアまわりは凍結しやすいところです。
ブレーキが凍結することがあります。車や
道路の状況に注意して効きを確認してくだ
さい。

タイヤチェーンの取り扱い

- 予測できない降雪や雪道に遭遇した場合等の非常時のみ、後輪に装着してください。
- 雪道走行が事前に予測される場合には4輪ともスタッドレスタイヤ(同一サイズ、同一銘柄)を装着してください。
- タイヤチェーンを装着しても路面の状況によっては極低速でもスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- アルミホイール、フルホイールキャップ装着車にタイヤチェーンを取り付けると、アルミホイール、フルホイールキャップに傷がつく場合があります。



4輪共冬用タイヤ

⚠注意

走行時の注意

- タイヤチェーンをとりつけると前後のバランスが変わるため、前輪が比較的滑りやすくなります。
急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況にあった安全な速度(30 km/h以下)で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行するとチェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。

■タイヤサイズに合ったものを使用してください

タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。

市販の「ゴムネットチェーン」の中には装着できないものもあります。

タイヤサイズ	スバル純正チェーン		市販JIS チェーン
	スチールチェーン	サイクルチェーン	
5.00-12	B3155TA010	B3176GA017	45170
145R12	B3155TA011	B3176KC002	45170
155/80R12	B3155TA010	B3176GA018	45180
165/70R13	B3115GA001	B3176GA019	45180

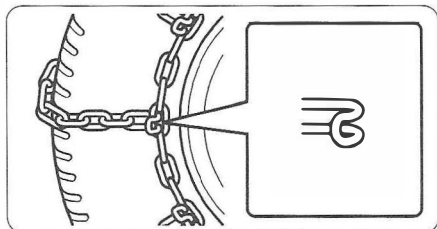
■標準的なタイヤチェーン（スチールチェーン）の取り付けかた——

タイヤチェーンは後輪に取り付けます。前輪には取り付けないでください。

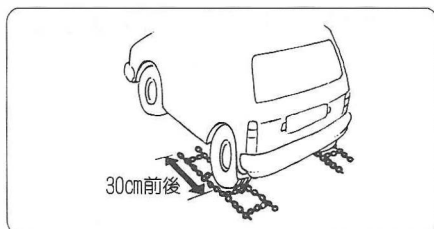
アドバイス

タイヤチェーンを取りつけるときは手袋などを着用してください。

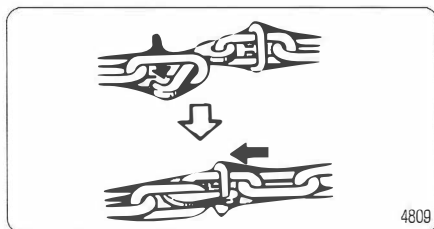
- (1)交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止め、ハンドブレーキを引きます。



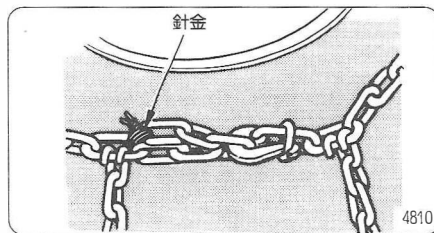
- (2)クロスチェーンのつなぎ部が外側になるようにチェーンをタイヤの前か後に敷きます。
逆にするとタイヤを傷めます。



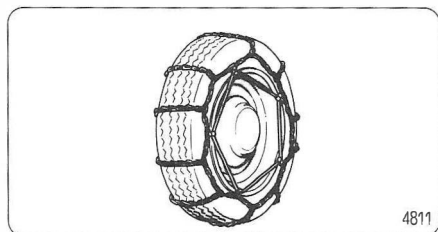
- (3)先端のフックから30cm位になるまで車を移動させます。



- (4)チェーンをタイヤに巻きつけていっばいに引き、内側フック、外側フックの順に連結します。
内側と外側の余りが同数になるように連結します。



- (5)余ったチェーンを針金で固定し、車体に当たるのを防止します。



(6)チェーンバンドのフリップを外向きにし、円周をほぼ等分するようにチェーンを張ります。

(7)少し走り、取り付け状態（ゆるみ、当たり）を確認します。

●はずしかた

チェーンバンドをはずし、針金をとって内側フックをはずすとチェーンは外側にはずれます。車を少し動かしてチェーンを取り出します。

■その他の取り付けかた

ジャッキアップして取りつける方法があります。慣れないかたにお奨めします。作業がやりやすく、確実に取り付けられます。

■使用後の手入れ

使用後は水洗いして乾燥させ、防錆油を塗布して保管してください。

クロスチェーンが線径の $\frac{1}{4}$ まで摩耗すると寿命です。早めに新品のタイヤチェーンを準備してください。

メモ

Lined area for notes, consisting of multiple horizontal lines.

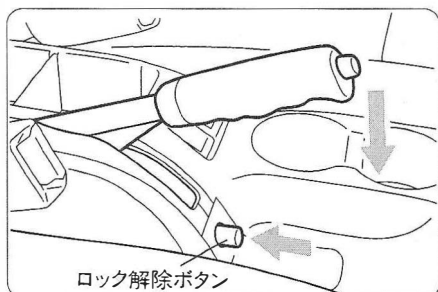
特別装備車(赤帽車、JA車、郵政)の仕様

収納式ハンドブレーキレバー	212
作業灯スイッチ	213
フロントサイドミラー	213
二段階開度リヤゲート	214
リヤゲートチェーン	215
デジタルトリップカウンター	215
可倒式ランバーステー	216
バックブザー	216
ブレーキパッド摩耗警報	217
リヤデフロック	217

収納式ハンドブレーキレバー(赤帽)

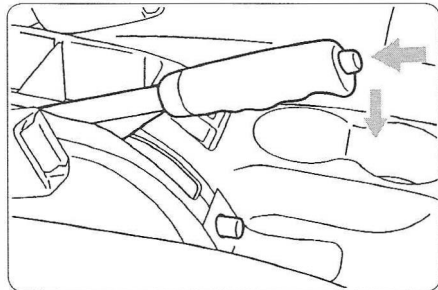
ハンドブレーキレバーを引いたときと同じ制動力を保持したまま、レバーをシートと同じ高さまで下げられます。

■ 収納するとき



- (1) ハンドブレーキレバーを引き上げ、確実に車両を固定します。
- (2) ロック解除ボタンを押します。(1度押せばロック解除機能は保持されます)
- (3) ハンドブレーキレバー先端のボタンを押さずにレバーを押し下げると、シートと同じ高さまで収納されます。

■ 戻すとき



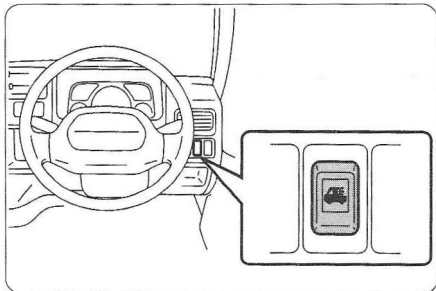
- (1) ハンドブレーキレバーを引き上げ、収納前の状態に戻します。
- (2) レバーを軽く引き上げ、レバー先端のボタンを押しながら確実に戻します。

⚠ 警告

収納操作をしたときは、レバーが元の位置にあってもハンドブレーキを引いたときと同じ状態であることを忘れないでください。走行開始するときはハンドブレーキレバーを収納前の状態でレバーを確実に戻し、ブレーキ警告灯の消灯を確認してください。

作業灯スイッチ(赤帽)

夜間、荷物の積み降ろしをするとき使用します。エンジンスイッチがACCかONのとき、ハンドブレーキレバーを引いてからスイッチを押すと点灯します。

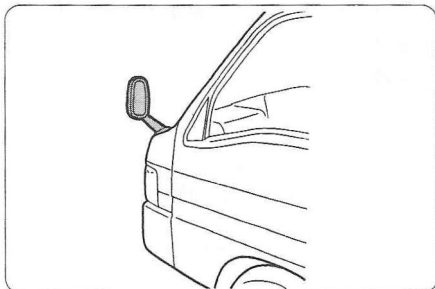


⚠注意

- 上記以外の操作をしても点灯しません。
- 走行するときは必ずスイッチを切っておいてください。ONのままですと交差点などでハンドブレーキレバーを引いたとき作業灯が点灯し、後続車に迷惑をかけることになります。
- 作業灯のON-OFFは、作業スイッチで行ってください。ハンドブレーキレバーで繰り返しON-OFFするとハンドブレーキスイッチの故障の原因となります。

※パネルパンはエンジンスイッチの位置、ハンドブレーキに関係なく、点灯します。

フロントサイドミラー(赤帽)



広角型ミラーの採用で視認性が向上しております。

二段階開度リヤゲート(赤帽、郵政)

リヤゲート(上側)の開閉角度を2段階に変えることができます。

〈一段目〉



リヤゲートを開くと一旦水平位置で止まります。

〈二段目〉

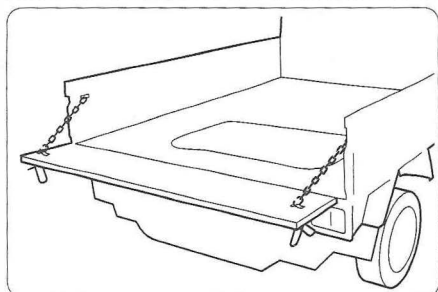


一段目より、更に上方へ押し上げると、全開位置まで開くことができます。

⚠ 注意

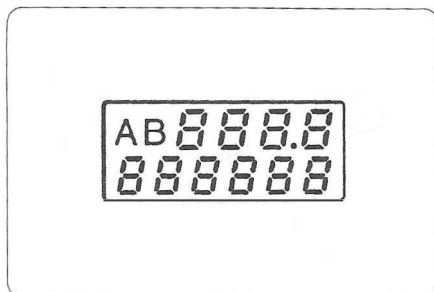
リヤゲートを水平位置で長時間放置しないでください。自然に全開位置まで開いて、車庫の天井等とぶつかり、リヤゲートや周囲のものを損傷する恐れがあります。

リヤゲートチェーン(赤帽、JA)



- リヤゲートを水平に保ちます。
はずすこともできます。
- パネルバンのリヤゲートを水平にした状態での走行は、道路交通法の全長規制に違反します。

デジタルトリップカウンター(赤帽)



エンジンスイッチがONの時に表示します。

●オドメーター

走った総走行距離をkmで示します。

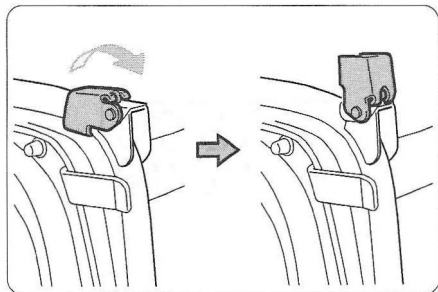
●トリップカウンター

2種類の区間距離(トリップA、トリップB)を示します。

0.0~999.9km以下は100m単位で積算し、
1000km以上は1km単位で積算します。

- ・トリップAとトリップBの切り替え
リセットノブを押すごとにトリップA
トリップBと切り替わります。
- ・トリップカウンターを“0”に戻すときは
“0”に戻したい表示に切り替えてから
リセットノブを押し続けます。

可倒式ランバーステー(JA)



使用時にはブラケットを立ててください。

バックブザー(赤帽、JA)

リバースギヤにシフトするとブザーが鳴り、車両が後進することを車外にお知らせします。

また、赤帽車はライト点灯時（スモールランプ含む）はブザーは鳴りません。

ブレーキパッド摩耗警報(赤帽)

パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音(キーキー音)がします。

音が発生したときはすみやかにスバル販売店で交換してください。

リヤデフロック(JA)

160ページのリヤデフロックの説明をご参照ください。

サービスデータ

交換時期については、舗装路を1年に10,000km程度走行する車を前提に定めてあります。走行距離の多い車や未舗装路を走行するなど特殊な使われ方をした車については、別冊「メンテナンスノート」をご覧ください。

スパーク プラグ	交換時期	20,000km(赤帽車: 80,000km)ごと
	指定プラグ	<スーパーチャージャー車> BKR6E-11(NGK) <スーパーチャージャー車以外> BKR5E-11(NGK) <赤帽車> PFR6B-11(NGK)
	電極すき間	1.0~1.1mm
ブレーキ ペダル	遊び	1~3mm
	踏み込んだときの 床板とのすき間	110mm以上
クラッチ ペダル	遊び	5~15mm
	つながる直前の 床板とのすき間	80mm以上
ハンドブレーキレバー		7~9山(約20kgの力でゆっくり引いたとき)
燃料タンク容量		約40ℓ(無鉛ガソリン使用)
バッテリー型式		<標準>: 26B17L(12V21AH) <寒冷地・4WD・パワーステアリング付車>: 38B20L(12V28AH)
エンジンオイル	交換時期	10,000km(事業用: 5,000km)ごと、または6か月(事業用: 3か月)ごと (どちらか早い方で実施)
	使用オイル	SG スパル 10W-30 (SG級) SH モーター 10W-30 (SH級) SJ オイル 5W-30 (SJ級)
	規定量	MT車: 約3.0ℓ AT車: 約3.1ℓ ※オイルフィルター交換時
トランス ミッション オイル (マニュアル車)	交換時期	40,000kmごと
	使用オイル	スパルギヤオイルエクストラ 75W/80 (GL-5)
	規定量	5速車.....約1.9ℓ EL付セレクトティブ4WD.....約2.1ℓ 〃 (デフロック付).....約2.2ℓ EL付フルタイム4WD.....約2.2ℓ
トランスミッションフルード (3AT車)	交換時期	40,000kmごと
	使用オイル	3速AT車専用スパルATF
	規定量	2WD: 3.8ℓ 4WD: 4.2ℓ
エンジンの タイミングベルト	交換時期	100,000kmごと
	使用ベルト	専用タイミングベルト

エアフリーナ エレメント	交 換 時 期	40,000km(事業用：20,000km)ごと
	使 用 部 品	純正エアフリーナエレメント
オイル フィルター	交 換 時 期	10,000km(事業用：5,000km)ごと
	使 用 部 品	純正オイルフィルター
フューエル フィルター	交 換 時 期	60,000km(事業用：40,000km)ごと
	使 用 部 品	純正フューエルフィルター
フロント デファレンシャル オイル (4WD車)	量の判定基準	フィラープラグ穴下端より0～5mmの間にあること
	交 換 時 期	40,000kmごと
	使用オイル	スバルギヤオイル4WD 75W-90 (GL-5)
	規 定 量	一般4WD車：0.8ℓ
冷却水	交 換 時 期	40,000kmごと、または2年ごと (どちらか早い方で実施)
	使用冷却水	スバルクーラント
	規 定 量	NA・MT車約5ℓ、それ以外約6ℓ
ディスクブレーキの パッドの摩耗限度	前 輪	標準厚さ：9mm、使用限度：2.0mm
ドラムブレーキのシューの ライニングの摩耗限度	後 輪	標準厚さ：4.4mm、使用限度：1.7mm
点火時期	全 車	BTDC10°/750rpm
弁ずき間	冷 間 時	吸気：0.15mm、排気：0.20mm

10kgで押したときのオルタネータベルトのたわみ量

	NA・エアコンなし	NA・エアコン付	スーパーチャージャー車 エアコンなし	スーパーチャージャー車 エアコン付
	3013	3014	3015	3016
イ	10.5~13.5mm(7.5~10.5mm)	6~7mm(5~6mm)	10.5~13.5mm(7.5~10.5mm)	4~6mm(4~5mm)
□			6.5~7.5mm(5.5~6.5mm)	6.5~7.5mm(5.5~6.5mm)

アドバイス

- ()内の数値は新品ベルトのたわみ量を示します。
- 表示している交換部品のほかに継続検査（車検）時に定期交換する部品もあります。

【タイヤサイズ・空気圧】

■トラック、バン、ディアス

kpa(kgf/cm²)

車 種			タイヤサイズ	2名+100kg以下		定 積 載	
				前輪	後輪	前輪	後輪
トラック	350kg積車	2WD及び 4WD	5.00-12-4PR/6PR	200 (2.0)	220 (2.2)	240 (2.4)	300 (3.0)
			145R12-6PR	200 (2.0)	220 (2.2)	240 (2.4)	300 (3.0)
バ ン	350kg積車	2WD及び 4WD	5.00-12-4PR/6PR	200 (2.0)	220 (2.2)	240 (2.4)	300 (3.0)
			145R12-6PR	200 (2.0)	220 (2.2)	240 (2.4)	300 (3.0)
ディアス	200kg積車	2WD及び 4WD	145R12-6PR	220 (2.2)	220 (2.2)	240 (2.4)	260 (2.6)
			155/80R12-77S	200 (2.0)	220 (2.2)	220 (2.2)	220 (2.2)

※5.00-12のタイヤ装着車はリヤには4PRのタイヤを装着しないでください。

■ディアスワゴン

kpa(kgf/cm²)

タイヤサイズ	前 輪	後 輪
165/70R13	200(2.0)	220(2.2)

さくいん

あ

アウターミラー	73
アームレスト	49, 54
アンチロックブレーキシステム(ABS)	165
アンテナ	103

い

インテグレートッドサウンドシステム	113
-------------------	-----

う

ウオッシャースイッチ	77
ウオッシャータンク	51, 79
ウインカースイッチ	77

え

エアコン	99
エアバックシステム	64
エアバック警告灯	89
AM電子チューナー	106
AM/FM電子チューナーカセットデッキ	109
ABS	165
ABS警告灯	89
エンジンスイッチ	146
エンジン始動・停止	149
エンジンフード	41
エンジンブレーキ	18
エンジンルームファン	22

お

オイルプレッシャー警告灯	88
オーディオ	103
オートマチック車の運転	151
オーバーヒートしたとき	194
オーバーヘッドシェルフ	134
オドメーター	86

か

カーゴソケット	137
可倒式ランパーステー	216
222 カップホルダー	133

き

キー	30
キー抜き忘れ警報	31, 147
キックダウン	13

く

空気圧 (タイヤ空気圧)	221
グローブボックス	132

け

警告灯	88
けん引	190

こ

工具	186
----	-----

さ

作業灯スイッチ	81, 213
サンバイザー	136

し

シートの調整	47
シートベルト	58
シートベルト警告灯	90
シガーライター	131
シークレットボックス	133
シフトダウン	18
シフトロックシステム	16
ジャッキ	184
ジャッキハンドル	184
ジャッキアップポイント	188
集中ドアロック	30
収納式ハンドブレーキレバー	212

す

水温計	85
ステアリング警告灯	90
スパークプラグ	218
スピードメーター	85
スペアタイヤ	184
スライドドア	31

せ

セレクトイブ4WD	159
セレクトインジケータ	86
セレクトレバー	151
センターコンソールボックス	133

そ

速度計（スピードメーター）	85
側面方向指示器（電球交換）	170

た

タイトコーナブレーキング現象	162
タイヤ空気圧	221
タイヤ交換	187
タイヤチェーン	206
タイヤローテーション	175
タコメーター	85

ち

チェンジレバー	147
チャイルドシート	62
チャージ警告灯	88

て

ディナイトインナーミラー	71
デジタルトリップカウンター	205
デフロック作動表示灯	87
電気式バックドアロック	37
電球（バルブ）の交換	170

と

ドア	30
トノカバー	140
トラックのゲート	40
トラップドア	41
トリップカウンター	86

に

荷室ランプ	139
二段階開度リヤゲート	214

ね

燃料計（フューエルメーター）	85
燃料補給口	36

は

灰皿	132
ハザードランプスイッチ	81
パーソナルボックス	135
発炎筒	196
バックブザー	216
パッシング	76
バッテリー	218
パワーウインドウ	34
パワートレイン警告灯	89
パワーモードスイッチ	153
ハンドブレーキレバー	148
番号灯（電球交換）	173
バンクしたときの処置	187

ひ

ヒーター	95
ビーム・パッシング表示灯	86
非常点滅灯スイッチ	81
ヒューズ交換	192
表示灯	86

ふ

フォグランプスイッチ	82
フック	136
フューエルメーター	85
フューエルキャップの開けかた	36
フラットシート	50
フルタイム4WD	163
ブレーキ警告灯	88
フロントサイドミラー	213
フロントシート	47

へ

ヘッドランプ	76
ヘッドレストの脱着と調整	49

ほ

ホイールキャップ	187
方向指示レバー	77
方向指示器表示灯	86
ボディカバー	177

ま

万一のとき	183
-------	-----

み

ミストスイッチ	77
ミラー	73

め

メーター	83
------	----

よ

4WD車の運転	159
4WDセレクトインジケーター	87

ら

ライティングスイッチ	76
ラジオ・オーディオ	103
ランプ（電球の交換）	170

り

リクライニング調整	48, 53
リモコンドアロック	33
リヤアンダーミラー	74
リヤウインドウアフォッガー作動表示灯	87
リヤウインドウアフォッガースイッチ	80
リヤゲート（ディアス、パン）	37
リヤゲート（パネルパン）	38
リヤシート	53
リヤトレー	134
リヤヒーター	99
リヤワイパー・ウォッチャースイッチ	78
リヤアファレンシャルロック	160

る

ルームミラー	71
ルームランプ	138

わ

ワイパー・ウォッチャースイッチ	77
ワイパーブレードの取り外し、取り付け	174

禁複製・轉載

非壳品

編 集 ・ 発 行 **富士重工業株式会社**

国内営業本部

お客様サービスセンター 国内サービス部

お問い合わせ、ご相談はお近くのスバル販売店
または、富士重工のお客様相談部へお願いい
たします。

富士重工業(株) 国内営業本部

お客様サービスセンター お客様相談部

〒160-8316 新宿区西新宿1-7-2(スバルビル)

 03-3347-2626



発行 2000年3月 Printed in Japan A-6.0

Publication

No. A7341A1

富士重工業株式会社

お問い合わせ、ご相談はお近くのスバル販売店または、富士重工のお客様相談部へお願いいたします。

国内営業本門 お客様サービスセンターお客様相談部

〒160-8316 新宿区西新宿1-7-2 (スバルビル) TEL03-3347-2626